IMEMGS

Research Papers : Muslims in Japan　No.11

「外国人に関する意識調査」
射水市報告書

店田　廣文

石川　基樹

岡井　宏文

IMEMGS

Institute for Multi-ethnic and Multi-generational Societies
WASEDA UNIVERSITY, Tokyo, Japan

April, 2012

早稲田大学人間科学学術院
アジア社会論研究室
〒359-1192　所沢市三ヶ島 2-579-15

序

本報告書は、2011 年 10 月から 11 月にかけて富山県射水市において実施した「外国人に関する意識調査」の報告書である。滞日ムスリムに関する日本人の意識をアンケート調査によって明らかにするというわれわれの試みは、岐阜市における「外国人に関する意識調査」に次いで 2 回目となる。前回の報告書でも述べたように、これまで同様の試みがなかったわけではないが、さまざまな分析に耐えうる調査票を用いて、また統計的にも意味のある結果を得ることができる規模での調査は、われわれが実施してきたこれらの調査が国内では初めてであろうと考えられる。

2012 年 3 月現在、日本には、外国人ムスリム約 10 万人、日本人ムスリム約 1 万人が居住しているものと推計され、全国各地にモスクも 60 カ所以上設立されている。ムスリム・コミュニティのプレゼンスはますます高まってきており、昨年 3 月の東日本大震災後においても被災者支援に活躍したことはメディアで報道された。しかし、彼らが抱える生活に根ざした問題群―教育・墓地・その他日本社会とのかかわり等―は、依然として取り組むべき課題として厳然として存在している。われわれは、2009 年度より日本学術振興会科学研究費補助金による調査研究「滞日ムスリムの生活世界における多文化政策の影響と評価」(基盤(C),課題番号 21530567)を開始したが、諸課題のうち、滞日ムスリムと日本社会との関わりをとりあげたのが岐阜市調査と射水市調査である。また 2012 年度にはその関係性に特徴がみられる他地域の調査を加えて、3 地点の調査結果を比較分析する予定である。

今回取り上げた射水市の調査対象地域には、後述するように 1999 年に「富山モスク」が開設され、地域社会の住民と滞日ムスリムとの間に様々な交流や軋轢がある地域だが、ひとまず全体の調査結果から見えてくる交流の程度は限定的であり、否定的な側面が強調されているように思われる。地域社会と滞日ムスリムの間に存在する問題群を確認し、今後の望ましい社会の構想実現に向けて、今回の調査報告書を参照いただき、現在の日本社会と滞日ムスリムとの関係がいかなるものであるのか、具体的に見ていただければ幸いである。なお調査結果の第 2 段階の分析もすすめており、学会報告や学術論文としてまとめていく予定である。

今回の調査にあたっては、対象地域の自治会関係者の方々をはじめ、射水市役所の政策推進課や市民・保険課の方々には調査準備の過程で大変お世話になりました。また多くの射水市民の方々には、面倒なアンケート調査に快くご回答いただきました。改めて厚く御礼申し上げたいと存じます。

2012 年 4 月

早稲田大学人間科学学術院　　店田　廣文
電子メール：htanada@waseda.jp

目次

序 **3**

調査結果の概要 **7**

第 1 章　調査企画から実施まで **10**

企画準備 10
対象地域としての富山県射水市 10
調査方法とプロセス 11
調査実施と今後の課題 12

第 2 章　回答者の属性 **13**

居住地区（Q1） 13
性別（Q1-SQ1） 13
年齢（Q1-SQ2） 14
出生地（Q1-SQ3） 14
居住年数（Q2） 15
現在の同居人（Q32） 15
最終（現）学歴（Q33） 16
回答者の職業（Q34-A） 16
配偶者の職業（Q34-B） 17
居住形態（Q35） 17
回答者の個人年収（Q36-A） 18
世帯収入（Q36-B） 18
小結 19

第 3 章　地区での生活 **20**

地区での生活で感じること（Q17） 20
住民間のまとまりが強い（Q17-A） 20
新しく来た人でもなじみやすい(Q17-B) 21
昔からのしきたりを大切にする(Q17-C) 22
住民同士の交流が少ない(Q17-D) 23
昔から住んでいる人の意見が強い(Q17-E) 24
新しいものを積極的に取り入れる（Q17-F） 25
地区の行事や活動の参加頻度（Q18） 26
近所との交流（Q19） 27
定住願望（Q20） 28

小結 29

第 4 章　外国人との交流実態と交流への意識 31

近所の外国人居住の有無（Q3） 31
近所の外国人との交流程度（Q4） 32
外国人による地区の活動や行事への参加程度（Q5） 33
外国人居住による地区の変化（Q7） 34
外国人との交流が進む（Q7-A） 34
外国の文化に触れられる（Q7-B） 35
にぎやかになる（Q7-C） 36
イメージがよくなる（Q7-D） 37
治安が悪くなる（Q7-E） 38
ゴミ捨てなど生活ルールが乱れる（Q7-F） 39
生活環境が悪くなる（Q7-G） 40
日本人の仕事が減る（Q7-H） 41
外国人居住者との問題への対応（Q9） 42
外国人との交流の場（Q13） 43
今後の外国人との交流（Q14） 45
外国人との交流で感じること（Q15） 46
外国人との付き合い（Q16） 47
小結 48

第 5 章　外国人および外国人政策への意見 50

外国人の地区の行事や活動(Q6) 50
外国人への考え(Q8) 51
外国人も日本語を使用するべきだ(Q8-A) 51
外国人も自治会に加入するべきだ（Q8-B） 52
外国人の子どもも日本の学校に通うべきだ(Q8-C) 53
日本に外国人が入ってくることについて(Q10) 54
外国人政策について(Q11) 55
子どもへの学校教育の充実(Q11-A) 55
日本文化と日本語を学ぶ機会を増やす（Q11-B) 56
母国語（外国語）教育の充実(Q11-C) 57
労働環境の改善(Q11-D) 58
福祉・医療サービスの充実(Q11-E) 59
参政権を与える(Q11-F) 60
外国人理解の政策について(Q12) 61

外国人との交流機会の充実(Q12-A)..... 61
住民に対する国際理解教育の充実(Q12-B)..... 62
外国人の情報や実態の公開(Q12-C)..... 63
トラブル時の市役所の積極的介入(Q12-D) 64
小結..... 65

第 6 章　ムスリムとの交流とイスラム教に対する意識.....66

モスクの認知（Q21）..... 66
モスク訪問の有無（Q22）..... 66
ムスリムの知人の有無（Q24）..... 67
イスラム教への関心の度合い（Q25）..... 68
ムスリムの受け入れに対する賛否（Q26）..... 69
イスラム教に関する情報の情報源（Q27）..... 70
イスラム教に関する情報への接触頻度（Q28）..... 71
最もよく耳にするイスラム教にかかわる内容（Q29）..... 72
ムスリムとうまく付き合えるか（Q30）..... 73
イスラム教に対するイメージ（Q31）..... 74
イスラム教は先進的な教えである（Q31-A）..... 74
イスラム教は寛容な宗教である（Q31-B）..... 75
イスラム教は平和を重んずる宗教である（Q31-C）..... 76
イスラム教は家族を大切にする宗教である（Q31-D）..... 77
イスラム社会は世界社会の重要な一員である（Q31-E）..... 78
イスラム教徒は商売が上手である（Q31-F）..... 79
イスラム教は民主的な宗教である（Q31-G）..... 80
イスラム教は自由な宗教である（Q31-H）..... 81
イスラム教徒は社交的である（Q31-I）..... 82
小結..... 83

参考資料.....85

編者・執筆者一覧 114

調査結果の概要

ここでは以下の第 2 章以降の報告内容を簡単にまとめて提示する。調査結果の数値は、本文中では小数点 1 位まで表示したが、この概要では四捨五入して表示した。

回答者の属性

回答者の居住地区は、白石 24%、鷲塚 19%、津幡江 13%である。その他､順に小杉白石（12%)、西高木（9%)、稲積（8%)、摺出寺（3%）であった。八講の回答者は見当たらなかったが、無回答の中に若干含まれている可能性がある。

男女別は、男性 43%、女性 57%、無回答 0%（1 名）であった。回答者の平均年齢は、51 歳で、40～50 歳代が 45%ともっとも多く、次いで、60 歳代以上が 34%、20～30 歳代が 21%である。

回答者の最終学歴をみると、高校 44%、大学や短大・専修学校などの卒業者が 44%であり、高校以上が 9 割近くと多数を占めている。職業についても、もっとも多かったのは事務職等（22%）であり、次いで、パート・アルバイト（17%)、専門職・技術職（16%)、専業主婦（14%）と続いている。

居住形態は、持ち家（一戸建て）が、96%を占めている。個人年収では 400 万円未満まで、世帯年収では 800 万円未満までが、半数以上を占めていた。

地区での生活

住んでいる地区の性格を回答者の方に尋ねた調査結果からみてみると、次の通りである。「住民間のまとまりが強い」と思う回答者の割合（｢とてもそう思う」と「ある程度そう思う」の合計、以下も同様）は、70%である。以下、同様に、「新しくきた人でもなじみやすい」と思う（45%)、「昔からのしきたりを大切にする」と思う（80%)、「住民同士の交流が少ない｣と思う（35%)、「昔から住んでいる人の意見が強い｣と思う（81%)、「新しいものを積極的に取り入れる」と思う（27%)、であった。このような結果からは、地域のまとまりが強く、しきたりを大事にし、住民同士の交流が多い地域の様子がうかがえる。

また、地区の行事や活動に積極的あるいはある程度参加していると答えた方は、70%にのぼった。一方、近所との交流の程度については、「会った際には世間話をする」（44%)、「互いの家をよく行き来する」（8%）に対して、「道で会えば挨拶を交わす程度」（43%)、「ほとんど付き合いはない」（4%）であった。

外国人との交流

近所に外国人が住んでいると回答した人は、47%であった。そこで、近所の外国人との交流の程度について尋ねると、「会った際には世間話をする」（4%)、「互いの家をよく行き

来する」（1%）と僅かであるが、「道で会えば挨拶を交わす程度」（41%）の付き合いはある程度見られるようだ。しかし、「付き合いはない」（50%）との回答が半数を占め、外国人との交流は少ないことが明らかであるが、挨拶を交わす程度を含めれば、何らかのコミュニケーションを取っている人が 5 割近くに達することになり、決して少ない訳ではない。しかし、外国人の地区の活動や行事への参加頻度について尋ねたところ、「あまり、あるいは殆ど参加していない」と認識している人が 56%であり、「わからない」という回答も 34%であった。

「外国人が居住することで、地区がどのように変化するか」を尋ねた結果では、「外国人との交流が進む」（50%）、「外国の文化に触れられる」（46%）といった回答の一方で、「治安が悪くなる」（56%）、「生活環境が悪くなる」（53%）、「ゴミ捨てなどの生活ルールが乱れる」（63%）という回答もみられたが、「治安が悪くなる」、「生活環境が悪くなる」、「日本人の仕事が減る」については、それぞれ「そう思わない」という回答者が、42%、45%、78%であった。

今後の外国人との交流については、「交流していきたい」（59%）、「交流したくない」（31%）、「交流しない」（9%）であった。また、外国人とうまく付き合えると思いますか」との質問に対して、「そう思う」（41%）、「そう思わない」（58%）となった。なお、その他の外国人および外国人政策の意見については、本文第五章を参照していただきたいが、いくつかの質問だけここで紹介しておく。外国人も地区の行事や活動に参加した方がよいと思う人は、75%にのぼっており、外国人も自治会に加入すべきだと考えている人も 79%に達していた。とはいえ、「日本に外国人が入ってくることに賛成か反対か」尋ねたところ、賛成は 30%、どちらとも言えないが 55%、反対は 14%であった。

ムスリム（イスラーム教徒）との交流およびイスラームに対する意識

津幡江地区には、1999 年にコンビニを改装した富山モスクが開堂したが、その存在を知っているか否か、まず尋ねたところ、「知っていた」（54%）、「知らなかった」（44%）で、半数以上の認知度であった。しかし、実際に訪問したことがある人やムスリムの知人がいる人は、いずれも 2%であった。

イスラームに対するイメージに関する質問への回答は、以下の通りであった。「イスラームは、先進的な教えである」と思う人が 5%、「イスラームは寛容な宗教である」と思う人が 11%といずれも少数であった。次いで、「イスラームは攻撃的な宗教である」と思う人は 41%であり、他方で「イスラームは平和を重んずる宗教である」と思う人は 15%とかなり少なかった。一方で、「イスラームは家族を大切にする宗教である」と思う人は 45%であり、「イスラム社会は世界社会の重要な一員である」も 32%であった。

次に、「日本にイスラーム教徒が入ってくることについて賛成か反対か」尋ねたところ、賛成は 2%、どちらとも言えないが 55%、反対は 41%であった。先の外国人一般の受け入れ意識との格差が際だっている。また、「イスラーム教徒とうまく付き合えると思いますか」

との質問に対して、「そう思う」12%、「そう思わない」85%であり、ここでも外国人一般との格差が大きい。

その他、イスラム教についての関心の度合いや情報への接触については、本文をご参照ください。

外国人との付き合いや本調査に対するご意見・ご感想

本調査では、最後に回答者の方々に、外国人との付き合いや調査に対するご意見・ご感想を自由に書いていただきました。参考資料として、主な自由記述回答を掲載させていただきましたので、そちらを参照していただければ幸いです。また、調査に対する疑問や厳しいご意見、また励ましのお言葉なども、数多くいただきました。全てを記載してはおりませんが、今後の調査研究に役立てて行きたいと存じます。なお、自由記述回答については、文意を損なわない範囲で、適宜、修正したり、省略したりした部分がありますので、この点は、ご了承ください。

第１章　調査企画から実施まで

企画準備

本調査は、科学研究費補助金による研究課題「滞日ムスリムの生活世界における多文化政策の影響と評価」の研究活動の一環として、岐阜市調査に次ぐ第 2 弾の調査として企画された。調査に至るまでの準備は、2011 年度初めより開始され、具体的な実査に至るまでのスケジュールが 2011 年 6 月に決定された。

本調査は、地域に居住する外国人住民と地域住民の関係構築の実態および滞日ムスリムを含む外国人に対する意識を明らかにすることを主な目的として設計されている。そのため調査の主題は、前回に引き続き「外国人に関する意識調査」とした。

本調査で使用した質問項目全体の構成は、巻末に付した調査票をご参照いただきたいが、ここでは、中項目に当たる部分を紹介する。

それらを分類すれば、基本属性、回答者の生活実態に関する項目、外国人との交流実態と交流への意識に関する項目、外国人および外国人政策への意見に関する項目、ムスリムとの交流実態とイスラーム（もしくはムスリム）に対する意識に関する項目などとなる。

本調査は、岐阜市調査に準じて、広く外国人に関する実態・意識を分析するための調査としての性格を有するが、調査の特徴として、上に挙げたイスラームあるいはムスリムに関する質問項目を挙げることができる。今回、射水市を調査対象地域とした背景としては、当地域周辺が、外国籍を有する方を中心として滞日ムスリム（日本に居住するイスラーム教徒）が多数居住し中古車業を中心とした活動の場としての地域であること、1999 年と既に 10 年以上前にマスジド（モスク）が設立されている地域であること等を挙げることができるが、それに加えて以下のような背景を考慮している。「序」でも述べたように、滞日ムスリム研究の現在の動向として、イスラーム、ムスリムに関する実態が徐々に明らかになりつつあるにも関わらず、ムスリム・コミュニティやムスリムが居住する地域における一般の地域住民（非ムスリム）との関係性に関する実証的なデータがこれまで提示されてこなかった点がそれに当たる。

なお、本調査の対象者については、20 歳から 70 歳までの男女とすることとした。調査方法については、近年の個人情報に関する市民意識の高まりや訪問調査に対する住民の警戒感や予算などを配慮して、最終的に発送は宅急メール便および返送は郵送による調査法を採用し、自記式調査とすることと決定した。

対象地域としての富山県射水市

対象地域は、富山県射水市を取り上げることとした。対象地域の選定理由としては、イスラーム、ムスリムに関する質問項目に係るものとしては、上述のとおりであるが、市役所政策推進課へのヒアリングを実施した際に、滞日ムスリム住民が多数居住しているにも

かかわらずこれまで同様の大規模調査が実施されてこなかった点、また富山県知事が理事長を務め「国際理解、 国際交流、国際協力及び多文化共生を促進」することを主唱している（財）とやま国際センターでは外国人を対象とした「多文化共生」施策が実施され、当地域の滞日ムスリムもその対象として考えれらている点などから、日本人地域住民を対象とした調査の必要性が認められたこと等も改めて挙げることができる。

調査票をほぼ確定した後、サンプリング実施のために住民基本台帳閲覧申出書を提出し、承認を受けている。サンプリングを行うに当たり、津幡江地区、大江地区（大江、鷲塚、小杉白石、西高木、稲積の 5 地区）、白石地区、摺出寺地区、八講地区を政策推進課からご提案いただき、それらの地区を選択した。サンプリングは、2011 年 8 月 22 日と 23 日（ともに 9 時から 16 時）にかけて、射水市役所内市民・保険課において、予め選定した調査対象地区の住民基本台帳の閲覧および、調査対象サンプルの抽出作業（884 人）を実施した。抽出方法は、単純無作為の系統抽出法を使用した。

調査方法とプロセス

郵送調査に関して、調査票の形式や事前の挨拶状の発送から回収に至るまでの手順や方法については、検討の結果以下のように実施した。

調査実施のプロセスとしては、第 1 段階として、地域の自治会長さんを通じて回覧板による調査協力の依頼、第 2 段階として挨拶状および調査票の送付、最終段階として、希望者への調査報告書の送付を予定した。

そして、2011 年 10 月 8 日に、第 2 段階となる挨拶状および調査票の発送が行われた。抽出ミスのあった 1 名を除き最終的には 883 名の対象者に対して、調査票を発送した。返送は、翌週以降に確認されるようになり、当初設定していた調査終了期日の 11 月 9 日までに 336 票の返送があった。その後若干の返送があり、最終的な有効回収数は 340 票（回収率 38.5%）となった。なお、ここまでの調査実施から回収に至るまでの主要項目をまとめると以下のようになる。

① 主な目的：外国人住民に関する意識・実態の把握
　　対外国人意識の規定要因の探索
② 調査地域：富山県射水市（津幡江地区、大江地区、白石地区、摺出寺地区、八講地区の各地区）
③ 調査対象：日本人住民（対象年齢 20 歳～70 歳）883 人
④ 調査票：日本語にて作成
⑤ 抽出方法：住民基本台帳を用いた系統抽出法
⑥ 有効回答数：340 票（回収率 38.5%）
⑦ 調査方法：質問紙を使用した宅急メール便および郵送調査
⑧ 調査時期：2011 年 10 月 8 日～11 月 9 日

⑨　調査実施者：早稲田大学大学院人間科学研究科アジア社会論研究室

調査実施と今後の課題

今回の調査では、対象者の方々のご理解とご協力によって 40%近い回収率を確保することができた。実施に当たっては、先述のとおり住民基本台帳を使用した形での対象者の抽出を行った。こうして作成された対象者の名簿の管理には細心の注意を払うこととした。名簿自体は、調査の第一段階が終了となる本報告書の発送時点を以って、全ての紙媒体や電子ファイルを廃棄処分とする予定である。これらの情報管理については、調査準備期間中より最も厳重な管理を要する項目としてきたが、改めて情報管理体制の厳重化を行った。

最後に、射水市調査による「外国人に関する意識調査」研究は、本報告書を研究計画における第一段階の成果とする。本報告書に記載された調査結果は、基礎的データとして提示されるものであるが、今後は、射水市への調査結果や報告書の提供、さらに対外国人意識の規定要因の探索・モデルの検討、他地域との比較分析などの調査研究を実施していく予定である。

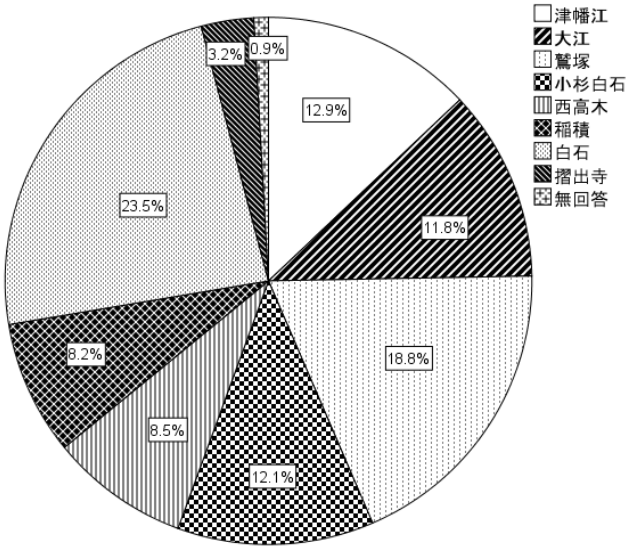
第 2 章　回答者の属性

本章では、計 340 名の回答者の属性について述べていく。

居住地区（Q1）

回答者の居住地区は、白石が 23.5%と最も多く、鷲塚 18.8%、津幡江 12.9%と続いた。

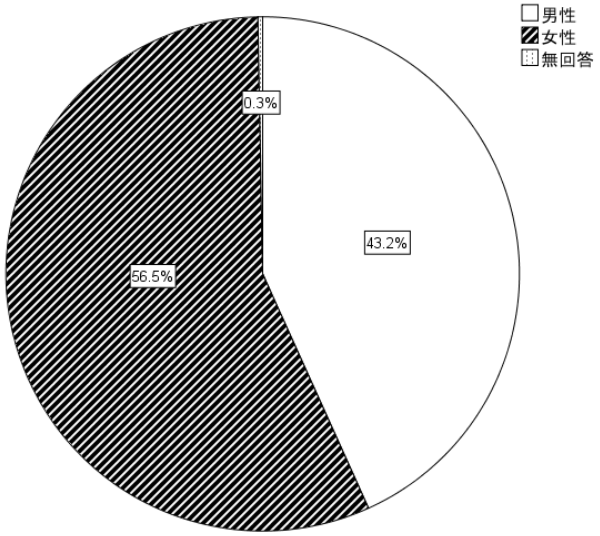
図表 2-1　居住地区（Q1）



性別（Q1-SQ1）

回答者の性別は男性 43.2%（147 名）、女性 56.5%（192 名）と、女性の方が多い結果となった。

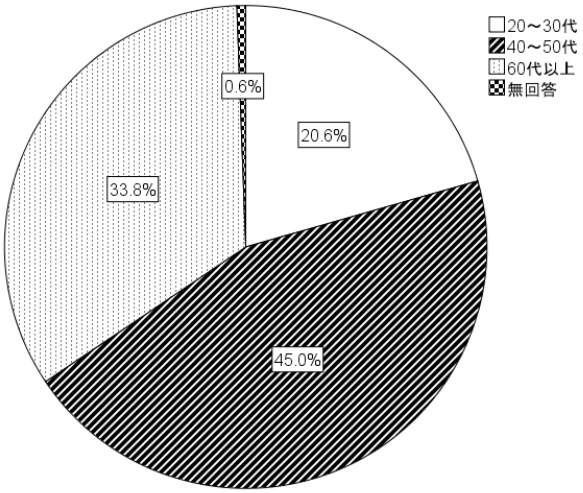
図表 2-2　性別（Q1-SQ1）



年齢（Q1-SQ2）

回答者の年齢については最年少が 20 歳、最年長が 71 歳で、平均年齢は 51.3 歳であった。また、年齢を 3 区分したところ、40～50 代の割合が 45.0%と最も高くなった。

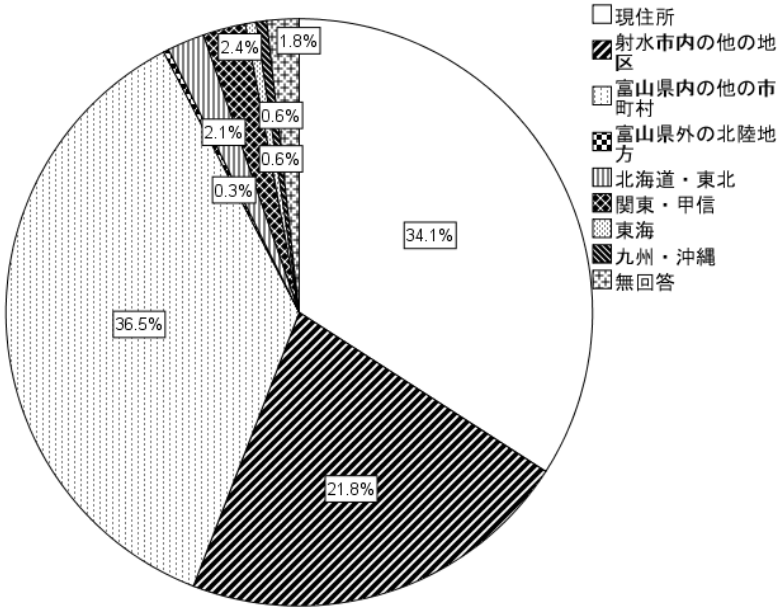
図表 2-3　年齢 3 区分（Q1-SQ2）



出生地（Q1-SQ3）

回答者の出生地は、「富山県内の他の市町村」（36.5%）、「現住所」（34.1%）、「射水市内の他の地区」（21.8%）の割合が順に高く、それ以外は一桁台にとどまった。回答者の 9 割以上が、富山県内で出生している結果となった。

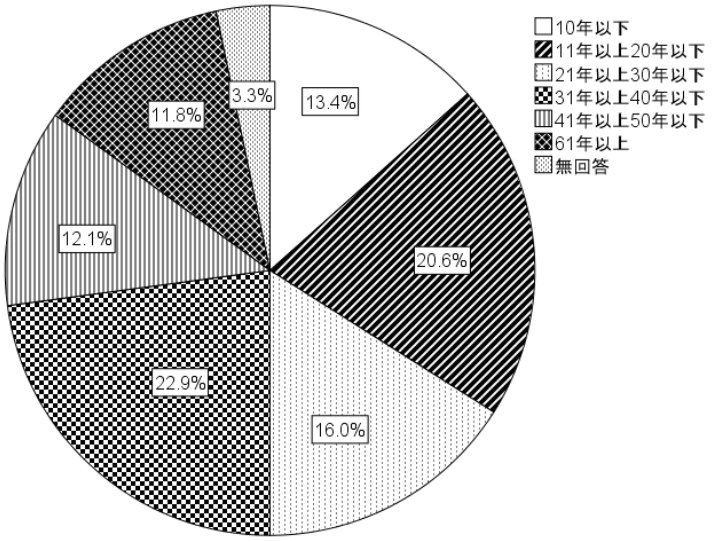
図表 2-4　出生地（Q1-SQ3）



居住年数（Q2）

回答者の居住年数は最短年数で 1 年、最長年数で 71 年であり、平均居住年数は 33.3 年となった。

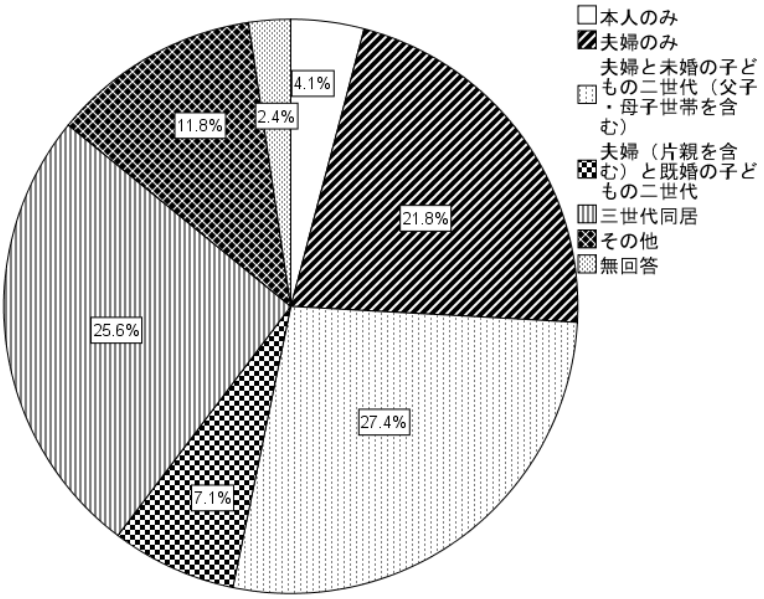
図表 2-5　居住年数（Q2）



現在の同居人（Q32）

回答者の現在の同居人は、「夫婦と未婚の子どもの二世代（父子・母子世帯を含む)」の割合が 27.4%と最も高く、「三世代同居」（25.6%)、「夫婦のみ」（21.8%）と続いた。

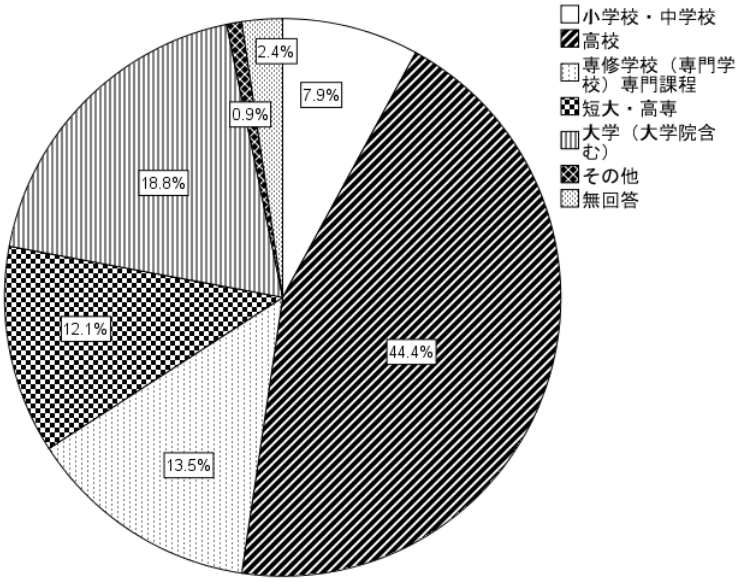
図表 2-6　現在の同居人（Q32）



最終（現）学歴（Q33）

最終（現）学歴は、「高校」（44.4%）の割合が最も高く、「大学（大学院含む）」（18.8%）が続いた。「小学校・中学校」は 7.9%にとどまり、8 割以上の回答者が、高校卒業以上の学歴を持つことがわかる。

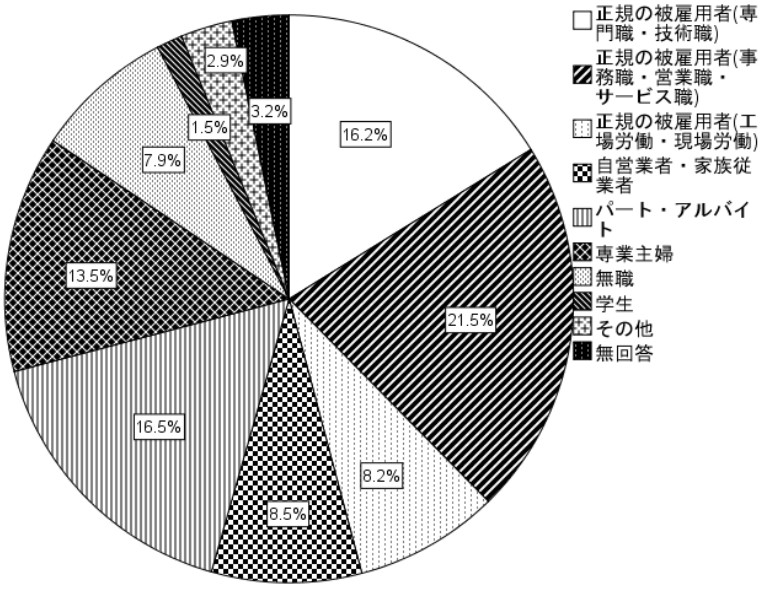
図表 2-7　最終（現）学歴（Q33）



回答者の職業（Q34-A）

回答者の職業では「正規の被雇用者(事務職・営業職・サービス職)」（21.5%）が最も高い割合を占め、「パート・アルバイト」（16.5%）、「正規の被雇用者(専門職・技術職)」（16.2%）が続いた。

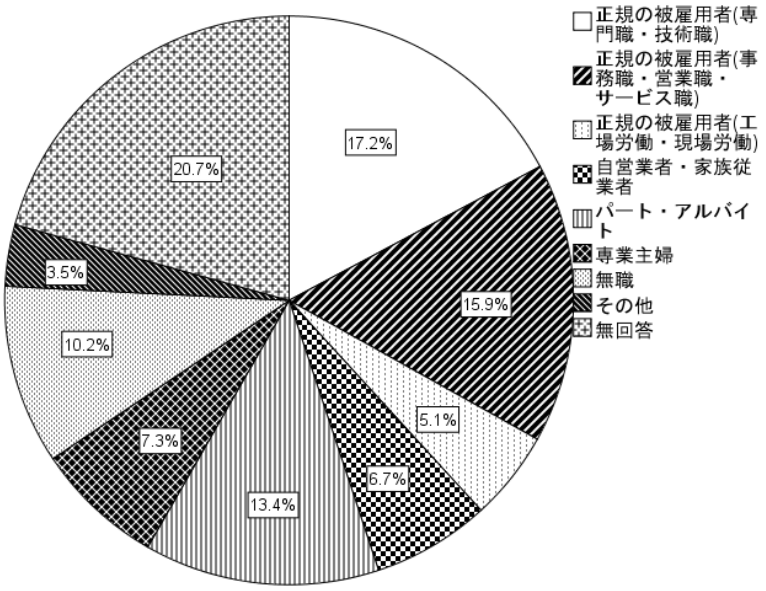
図表 2-8　回答者の職業（Q34-A）



配偶者の職業（Q34-B）

配偶者の職業について最も高い割合を占めたのは「正規の被雇用者(専門職・技術職)」（15.9%）であり、「正規の被雇用者(事務職・営業職・サービス職)」（14.7%）、「パート・アルバイト」（12.4%）が続いた。

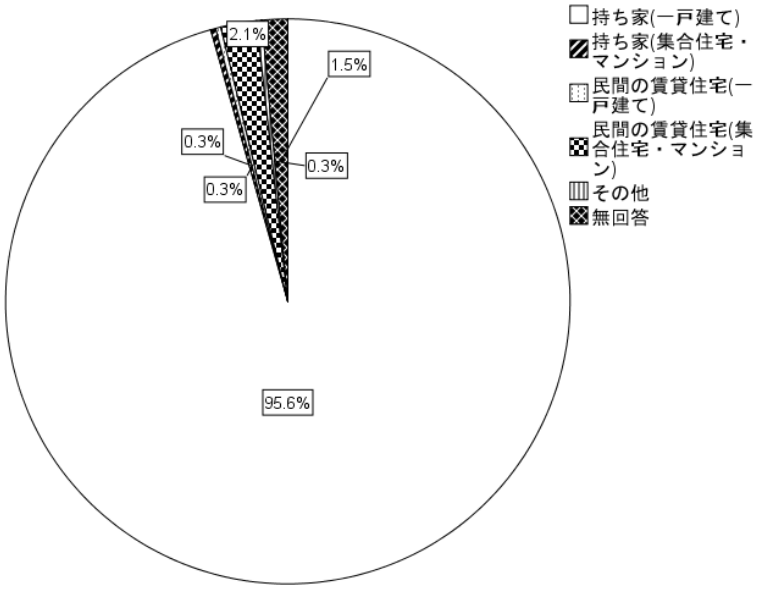
図表 2-9　配偶者の職業（Q34-B）



居住形態（Q35）

居住形態では「持ち家(一戸建て)」の割合が圧倒的に高く、95.6%を占めた。

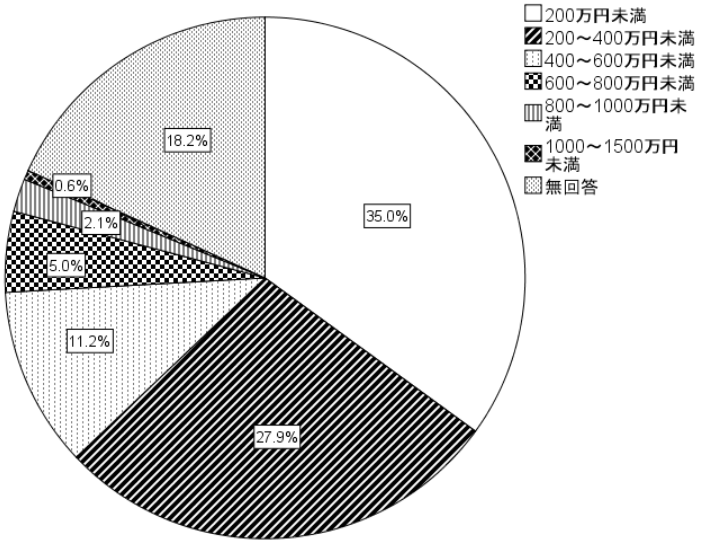
図表 2-10　居住形態（Q35）



回答者の個人年収（Q36-A）

個人年収では「200 万円未満」が最も高い割合を占め（35.0%）、続く「200～400 万円未満」（27.9%）と合わせると、無回答も含めた割合で 6 割以上の回答者の年収は 400 万円未満という結果となった。

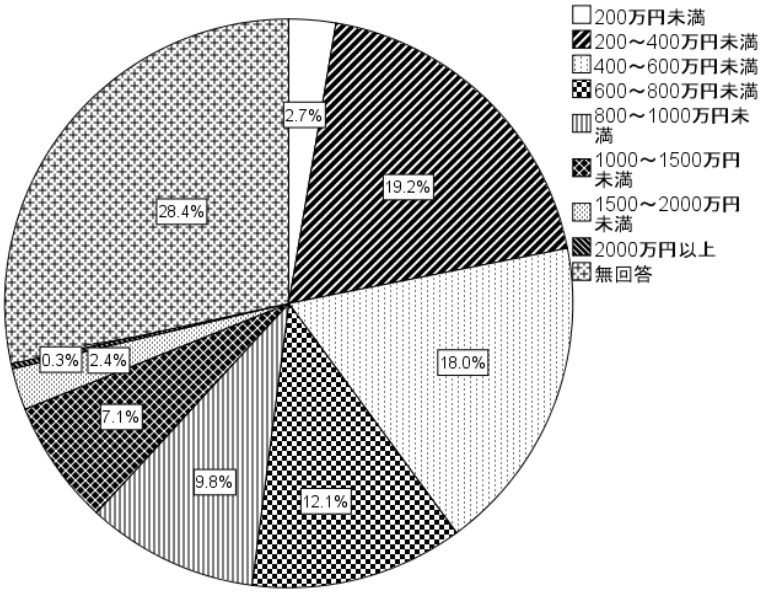
図表 2-11　回答者の個人年収（Q36-A）



世帯収入（Q36-B）

世帯収入では「200～400 万円未満」の割合が最も高く（19.1%）、「400～600 万円未満」（17.9%）が続いた。これらに「600～800 万円未満」（12.1%）、「200 万円未満」（2.6%）を合わせて、世帯年収が 800 万円未満である回答者が無回答を含めた割合の半数を占めた。

図表 2-12　世帯収入（Q36-B）



小結

本章では男性 147 名、女性 192 名、計 340 名（無回答 1 名を含む）からなる回答者の属性について述べた。平均年齢は 51.3 歳、平均居住年数は 33.3 年であり、回答者の 9 割以上が富山県内で出生している。「夫婦と未婚の子どもの二世代（父子・母子世帯を含む）」構成で暮らしている回答者の割合が最も多く、9 割以上の居住形態が「持ち家(一戸建て)」であった。最終（現）学歴は「高校」の割合が最も高く、職業は様々であった。個人年収では 400 万円未満、世帯年収では 800 万円未満がそれぞれ回答者の半数以上を占めた。次章以降で示される調査結果は、こうした属性をもつ人々の意見を反映したものである。

第 3 章　地区での生活

本章では、外国人が多く居住する地域の特徴を、住民の回答から概観する。具体的には地区での生活で感じること、地区行事の参加頻度、近所との関わり、そして今後の居住についてである。

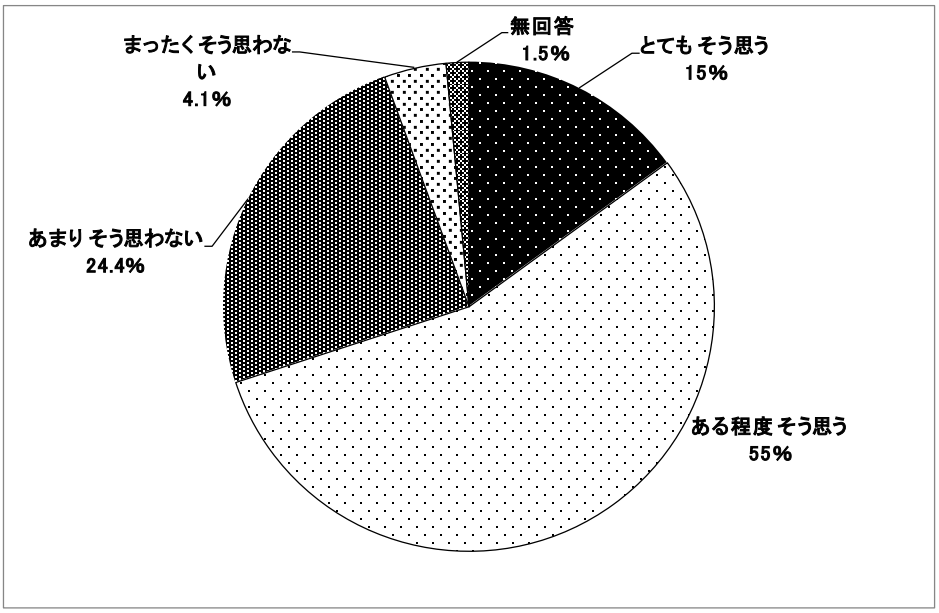
地区での生活で感じること（Q17）

まず地区での生活で感じることについて見ていく。個々の質問項目では住民間のまとまりの強さ、新たに来た者の受入れ、しきたりの影響度、交流頻度、古参者の意見の強さ、そして新しいものを積極的に取り入れるかどうかの 6 つに分類し、地区での生活について感じることの回答を得ている。

住民間のまとまりが強い（Q17-A）

住民間のまとまりの強さについては「ある程度そう思う」と回答が 55.0%と半数以上を占めた。また、「あまりそう思わない」との回答も 25.0%とやや高い割合を示した。

図表 3-1　住民間のまとまりが強い(Q17-A)



以下の図表 3-2 は、回答者の属性を性別、年齢別に分け、その結果を示したものである。性別・年齢別において、大きな差がない結果となった。年齢別に見ると、40～50 代で「ある程度そう思う」と回答した割合が最も高く（61.4%）、60 代以上が最も低い結果となった。

図表 3-2　住民間のまとまりが強い(Q17-A)

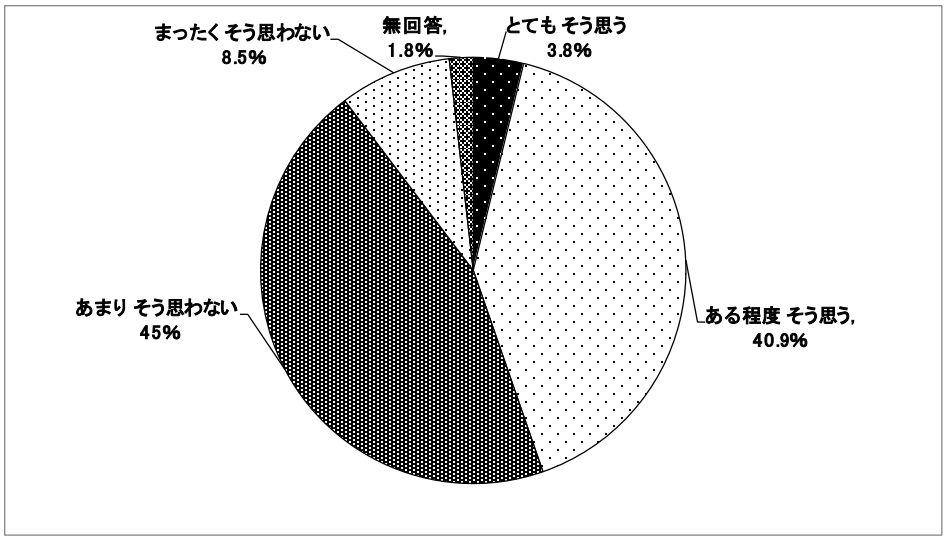
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	17.0%	55.1%	23.1%	2.7%	2.0%
	女性	192	13.0%	55.2%	25.5%	5.2%	1.0%
年齢	20～30代	70	18.6%	50.0%	22.9%	4.3%	4.3%
	40～50代	153	11.8%	61.4%	24.8%	2.0%	－
	60代以上	115	16.5%	49.6%	25.2%	7.0%	1.7%

（注：性別不詳：1 名、年齢不詳：2 名）

新しく来た人でもなじみやすい(Q17-B)

次に、新しく来た人びとについてなじみやすい地域であるかどうかを問うた設問を見ていく。結果的に「ある程度そう思う」（40.9%）と「あまりそう思わない」（45.0%）がほぼ同じ割合を示した。

図表 3-3　新しく来た人でもなじみやすい(Q17-B)



以下の図表 3-4 は、回答者の属性を性別、年齢別に分け、その結果を示したものである。

ここでは、性別において有意な差が見られなかった。男女ともに「あまりそう思わない」「全くそう思わない」の否定的な回答が多く、地域において新しい人がなじみにくいと考えている割合が高かった。一方、年齢別においても、有意な差は見られなかったが、性別と同様、否定的な回答の割合が高かった。

図表 3-4　新しく来た人でもなじみやすい(Q17-B)

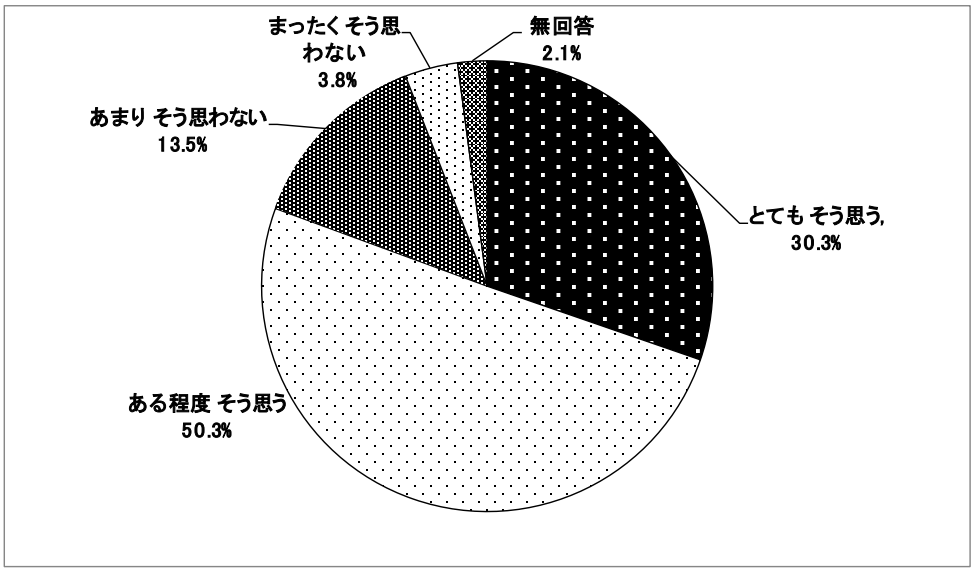
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	4.1%	41.5%	44.9%	7.5%	2.0%
	女性	192	3.1%	40.6%	45.3%	9.4%	1.6%
年齢	20～30代	70	1.4%	35.7%	48.6%	10.0%	4.3%
	40～50代	153	2.6%	41.2%	45.8%	9.8%	0.7%
	60代以上	115	6.1%	44.3%	41.7%	6.1%	1.7%

（注１：性別不詳：１名、年齢不詳：２名）

昔からのしきたりを大切にする(Q17-C)

次に、昔からのしきたりを大切にするかを問うた設問について見ていく。回答の割合の高い順に「ある程度そう思う」（50.3%）、「とてもそう思う」（30.3%）、「あまりそう思わない」（13.5%）、「まったくそう思わない」（3.8%）となった。

図表 3-5　昔からのしきたりを大切にする(Q17-C)



以下の図表 3-6 は、回答者の属性を性別、年齢別に分け、その結果を示したものである。性別に見ると、若干ではあるが女性が「とてもそう思う」と回答した割合が高くなっているが、あまり大きな差がない結果となった。一方、年齢別では有意な差がみられ、全体的に肯定的な回答が多かった。特に「とてもそう思う」の場合、20～30 代で最も高く、年齢が高くなることで低くなり、昔からのしきたりを大切にすることに世代間に意識の差がみられた。

図表 3-6　昔からのしきたりを大切にする(Q17-C)

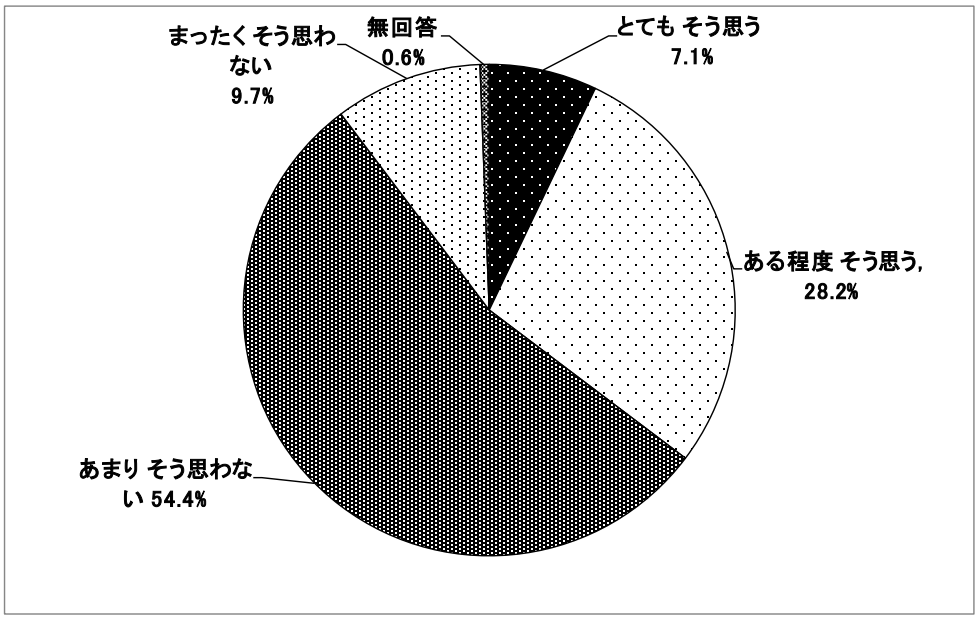
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	25.9%	55.1%	12.2%	4.8%	2.0%
	女性	192	33.3%	46.9%	14.6%	3.1%	2.1%
年齢 ※	20～30代	70	41.4%	42.9%	5.7%	4.3%	5.7%
	40～50代	153	30.1%	51.0%	15.0%	2.6%	1.3%
	60代以上	115	22.6%	54.0%	16.5%	5.2%	0.9%

（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳：2 名）
（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

住民同士の交流が少ない(Q17-D)

次に、住民同士の交流が少ないかどうかを問うた設問を見ていく。「あまりそう思わない」（54.4%）が最も多く、「まったくそう思わない」（9.7%）の割合を示し、6 割以上が住民交流に満足しているとの回答を得た。

図表 3-7　住民同士の交流が少ない(Q17-D)



以下の図表 3-8 は、回答者の属性を性別、年齢別に分け、その結果を示したものである。性別において、あまり大きな特徴はみられなかった。一方、年齢別では有意な差がみられ、住民同士の交流については満足している回答の割合が高かった。特に 60 代以上（49.6%）より 20～30 代（64.3%）の若い層からの回答が高く、ここでも世代間意識の差が目立つ。

図表 3-8　住民同士の交流が少ない(Q17-D)

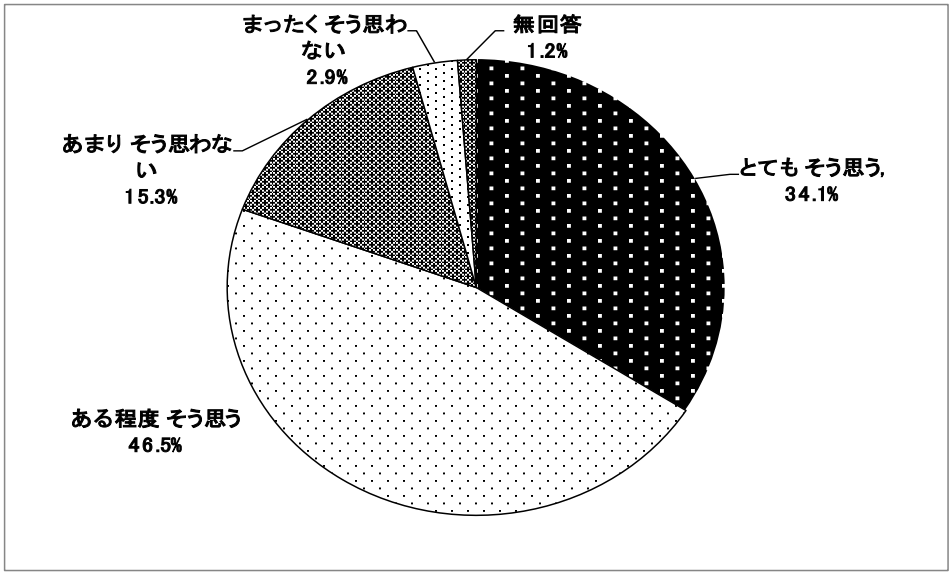
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	6.8%	28.6%	52.4%	10.9%	1.4%
	女性	192	7.1%	28.3%	54.6%	9.4%	0.6%
年齢※	20～30代	70	8.6%	17.1%	64.3%	7.1%	2.9%
	40～50代	153	7.2%	30.7%	53.6%	8.5%	－
	60代以上	115	6.1%	32.2%	49.6%	12.2%	－

（注 1：性別不詳：1 名、年齢不詳：2 名）
（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

昔から住んでいる人の意見が強い(Q17-E)

次に、昔から住んでいる人の意見が強いかどうかを問うた設問を見ていく。「ある程度そう思う」が 46.5%、次いで「とてもそう思う」が 34.1%という高い割合を示す結果となった。

図表 3-9　昔から住んでいる人の意見が強い(Q17-E)



以下の図表 3-10 は、回答者の属性を性別、年齢別にわけ、その結果を示したものである。ここでは、年齢別において有意な差がみられた。特に「とてもそう思う」と回答した割合をみると、20～30 代（41.4%）、40～50 代（40.5%）が比較的に高かったが、その反面 60 代以上になると、20.9%と回答の割合が低くなる傾向がみられ、世代間に意識の差が

あることが確認された。

図表 3-10 昔から住んでいる人の意見が強い(Q17-E)

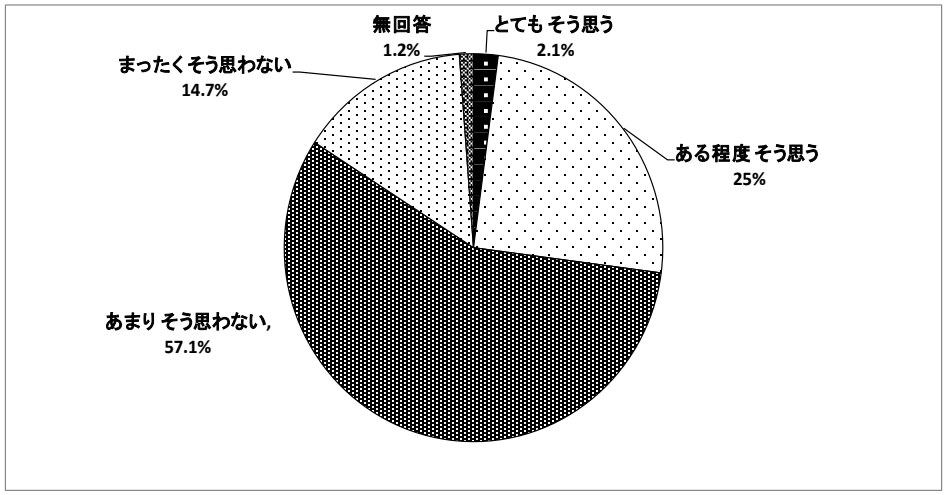
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	28.6%	52.4%	13.6%	3.4%	2.0%
	女性	192	38.0%	42.2%	16.7%	2.6%	0.5%
年齢 ※	20～30代	70	41.4%	37.1%	11.4%	5.7%	4.7%
	40～50代	153	40.5%	47.7%	9.8%	2.0%	－
	60代以上	115	20.9%	50.4%	25.2%	2.6%	0.9%

（注 1：性別不詳：1 名、年齢不詳：2 名）
（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

新しいものを積極的に取り入れる（Q17-F）

最後に、新しいものを積極的に取り入れる地区であるかどうかを問うた設問を見ていく。ここでは、「あまりそう思わない」が 62.8%と圧倒的に高い割合を示した。
「まったくそう思わない」の 14.7%を加えると 4 分の 3 弱が否定的な意見に回答する結果となった。

図表 3-11　新しいものを積極的に取り入れる（Q17-F）



以下の図表 3-12 は、回答者の属性を性別、年齢別に分け、その結果を示したものである。性別に見ると、結果に大きな差は見受けられなかった。一方、年齢別では、「全くそう思わない」の場合 20～30 代（24.3%）が他の年代より高い割合を示しているが、全世代に

かけて、新しいもの取り入れに関する積極的ではないとの意見が有意に高いことが分かった。

図表 3-12 新しいものを積極的に取り入れる(17-F)

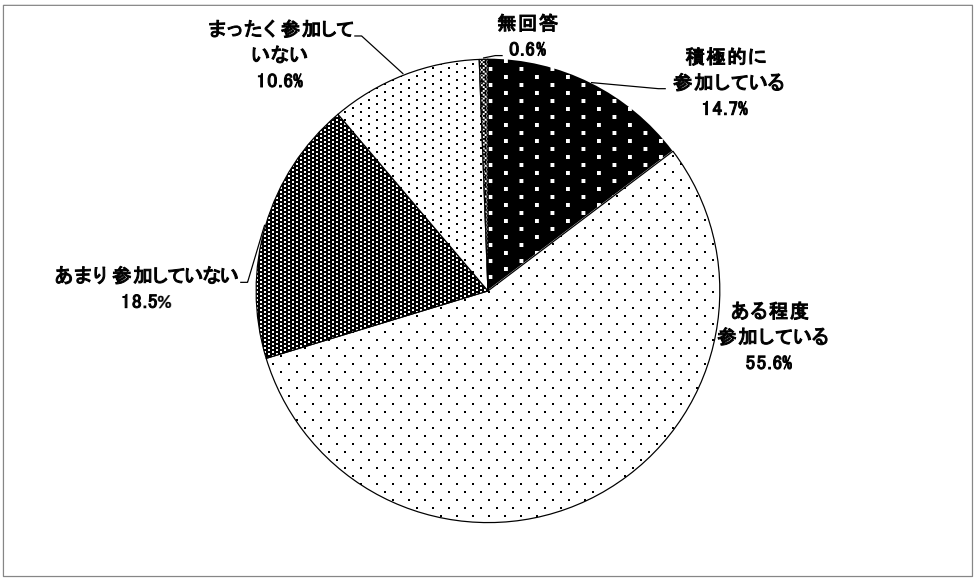
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	1.4%	25.9%	58.5%	12.2%	2.0%
	女性	192	2.6%	24.5%	55.7%	16.7%	0.5%
年齢 ※	20～30代	70	1.4%	11.4%	58.6%	24.3%	4.3%
	40～50代	153	2.6%	22.2%	59.5%	15.7%	－
	60代以上	115	1.7%	36.5%	53.0%	7.8%	0.9%

（注 1：性別不詳：1 名、年齢不詳：2 名）
（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05）

地区の行事や活動の参加頻度（Q18）

ここでは、回答者の地区の行事や活動への参加頻度について聞いた。回答者が高い順に、「ある程度参加している」（55.6%）「あまり参加していない」（18.5%）「積極的に参加している」（14.7%）「まったく参加していない」（10.6%）という結果となった。

図表 3-13　地区の行事や活動の参加度合（Q18）



以下の図表 3-14 は回答者の属性を性別、年齢別に分け、その結果を示したものである。

性別では、回答の割合が大きく変わる部分はなかった。一方、年代別に見ていくと、年を重ねていくにつれて、明らかに参加頻度の割合が高くなっている。特に「ある程度参加している」と回答した割合をみると、20～30 代（34.3%）に比べ、40～50 代（61.4%）・60 代以上（60.1%）の地域参加に対して肯定的意見が高くなる傾向がみられた。

図表 3-14 地区の行事や活動の参加度合い（Q18）

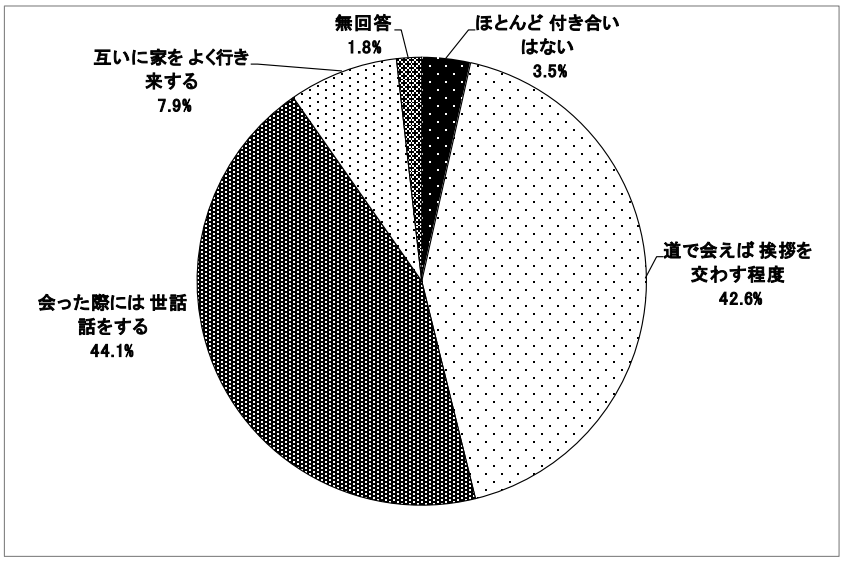
		回答者数	積極的に参加している	ある程度参加している	あまり参加してない	まったく参加していない	無回答
性別	男性	147	17.7%	55.1%	11.6%	24.3%	0.7%
	女性	192	12.5%	55.7%	21.4%	9.9%	0.5%
年齢※	20～30代	70	8.6%	34.3%	31.4%	24.3%	1.4%
	40～50代	153	13.7%	61.4%	16.3%	8.5%	－
	60代以上	115	20.0%	60.9%	13.9%	4.3%	0.9%

（注 1：性別不詳：1 名、年齢不詳：2 名）
（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

近所との交流（Q19）

ここでは、近所付き合いの度合いについて問われている。割合の高かった回答は、「あった際には世話話をする」（44.1%）、道で会えば挨拶を交わす程度」（42.6%）である。一方で、「互いに家を行き来する」（7.9%）、「ほとんど付き合いはない」（3.5%）は低い割合を示した。

図表 3-15 近所との交流頻度（Q19）



以下の図表 3-16 は、回答者の属性を性別、年齢別に分け、その結果を示したものであ

る。性別では、女性が「会った際には世話話をする」（51.0%）の方で高い割合を示し、男性は「道で会えば挨拶を交わす程度」と回答した方が高い割合を示したが、有意な差は見られなかった。年齢別に見ると、年代別に有意な差がみられ「ほとんど付き合いはない」の場合、20 代（10.0%）が他の年代より高い割合を示し、全体的に年代が若いほど近所付き合いは薄くなっている傾向がみられた。

図表 3-16 近所との交流頻度（Q19）

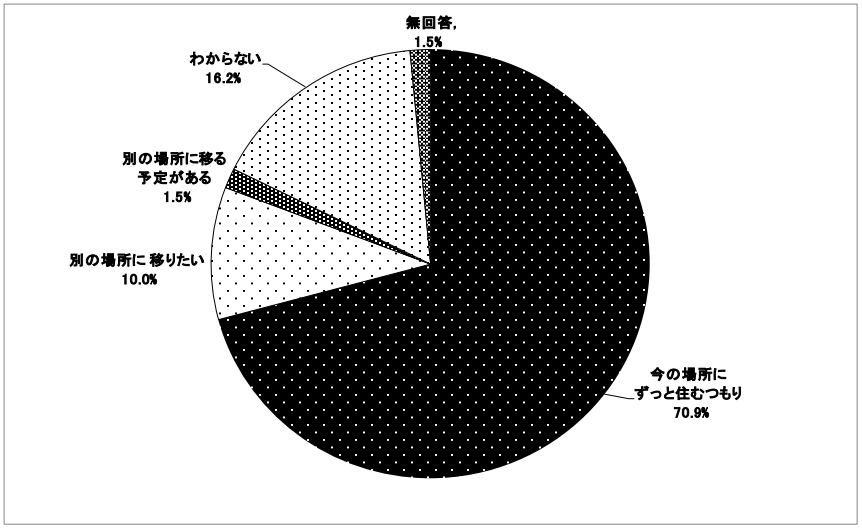
		回答者数	ほとんど付き合いはない	道で会えば挨拶を交わす程度	会った際には世間話をする	互いの家をよく行き来する	無回答
性別	男性	147	3.4%	50.3%	35.4%	9.5%	1.4%
	女性	192	3.6%	36.5%	51.0%	6.8%	2.1%
年齢※	20～30代	70	10.0%	55.7%	32.9%	－	1.4%
	40～50代	153	2.6%	50.3%	41.8%	3.9%	1.3%
	60代以上	115	0.9%	23.5%	54.8%	18.3%	2.6%

（注 1：性別不詳：1 名、年齢不詳：2 名）
（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

定住願望（Q20）

ここでは、今後も住んでいる地区に住みたいかどうかについて問った設問見ていく。「今の場所にずっと住むつもり」と回答した割合が 70.9%と圧倒的に高い割合を示した。ついで「わからない」（16.2%）、「別の場所に移りたい」（10.0%）、「別の場所に移る予定ある」（1.5%）という結果となった。

図表 3-17 この地区への定住願望（Q20）



以下の図表 3-18 は、回答者の属性を性別、年齢別に分け、その結果を示したものである。性別では、あまり大きな差がみられなかった。一方、年齢別からみると、「今の場所にずっと住むつもり」の回答から分かるように、年齢が高くなるほど、割合が高くなる傾向がみられた。

図表 3-18 この地区への定住願望（Q20）

		回答者数	今の場所にずっと住むつもり	別の場所に移りたい	別の場所に移る予定がある	わからない	無回答
性別	男性	147	72.1%	7.5%	1.4%	17.7%	1.4%
	女性	192	70.3%	11.5%	1.6%	15.1%	1.6%
年齢※	20～30代	70	45.7%	15.7%	5.7%	31.4%	1.4%
	40～50代	153	71.9%	10.5%	0.7%	16.3%	0.7%
	60代以上	115	86.1%	5.2%	－	6.1%	2.6%

（注 1：性別不詳：1 名、年齢不詳：2 名）
（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

小結

以上、回答者の地区での生活について概観した。

全体的に見て、性別ではあまり意見の差がみられない結果となった。その一方で、年代別にはそれぞれの差がみられる傾向であった。

各年代別の特徴を以下にまとめた。

特に、地区との関わりにおいて、20～30 代では基本的に他の年代と異なる結果を出していた。例えば、Q18 地区の行事や活動の参加頻度や Q19 近所と交流頻度を見て分かるように、地区における参加と交流が薄いことが見取れた。また、居住に関しても、現在住んでいる地区にずっと住むつもりと回答した者は、他年代に比べ圧倒的に少ない割合を示している。

それに比べ、60 代以上では、地域の関わりが比較的に高いことが特徴として挙げられる。特に、行事や参加と近所と近所の頻度では、若い年代より積極的に参加する傾向がみられた。また、「今の場所にずっと住むつもり」においては、60 代以上の年代の場合 8 割以上を示し、地区での参加や交流と居住願望は連動していることが窺える。

年代別の認識のずれが現れた設問としては、Q17-C と Q17-E の昔のしきたりの継承や住民の意見の強さがあげられる。Q17-C の昔のしきたりをとても大切している認識と Q7-E の住民の意見に関する設問では、20～30 代ではとても高い割合を示しているが、60

代以上になると低くなる傾向が見られた。いずれも地域において世代間認識の隔たりがあることが確認された。

以上のように本章では、外国人が居住する地域生活の特徴について、地区での生活・地域参加・近所との関わり、そして今後の居住の 4 つの枠組みを設定し、調査を行なった。結果、主に 20～30 代と 60 代以上の間での生活・認識面の認識の隔たりが存在していたが、いずれの設問でも、40～50 代が中間的な役割を果たしていることが確認された。

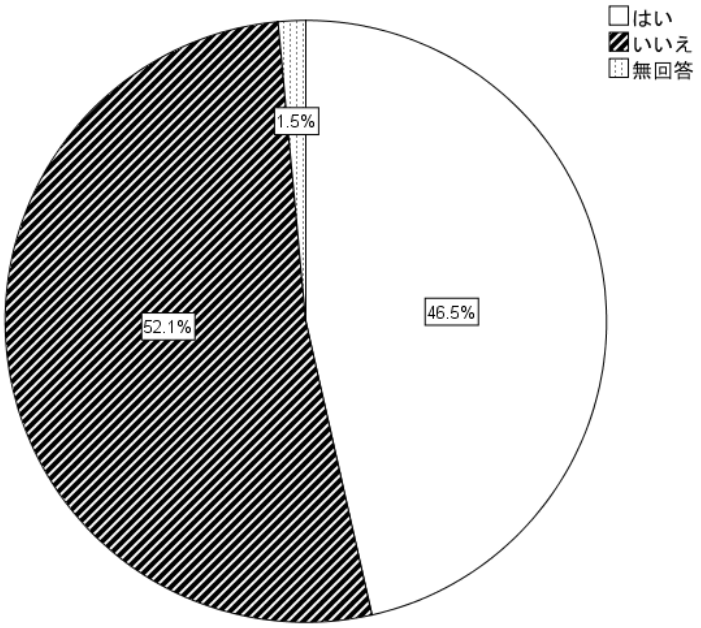
第 4 章　外国人との交流実態と交流への意識

本章では、外国人との交流実態と交流への意識についてみていく。また、他の章と同様に性別と年齢別にクロス集計をとりあげる。

近所の外国人居住の有無（Q3）

「あなたのご近所に外国人は住んでいますか」という質問に対して、回答者の 46.5%が、「はい」と回答している。一方で「いいえ」と回答したのは 52.1%であった。ここからほぼ半数の回答者の近所に外国人が居住しているという結果が得られた。性別および年齢とのクロス集計の結果は図表 4-2 に示した通りであるが、両カテゴリーともに有意差は確認できなかった。

図表 4-1　近所の外国人居住の有無（Q3）



図表 4-2　近所の外国人居住の有無（Q3）

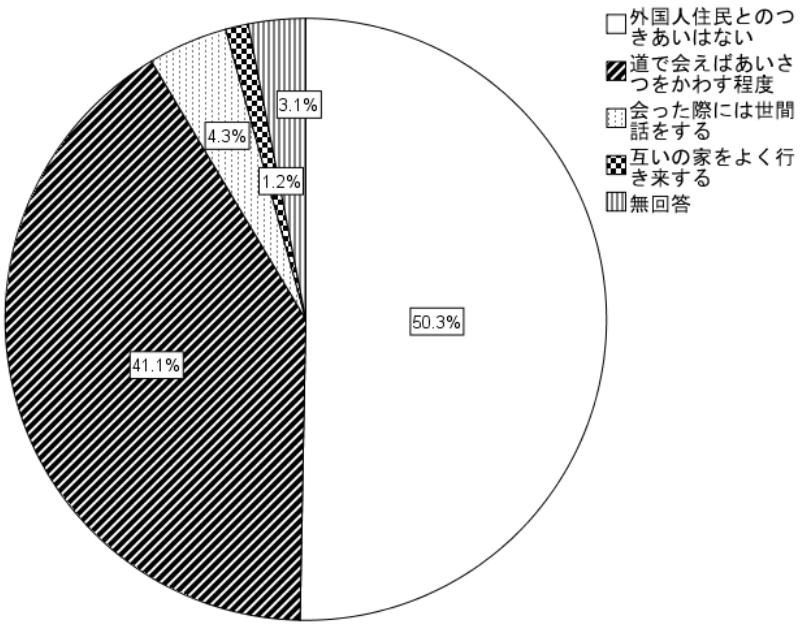
		回答者数	はい	いいえ	無回答
性別	男性	147	45.6%	52.4%	2.0%
	女性	192	46.9%	52.1%	1.0%
年齢	20～30 代	70	44.3%	52.9%	2.9%
	40～50 代	153	51.0%	48.4%	0.7%
	60 代以上	115	41.7%	56.5%	1.7%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

近所の外国人との交流程度（Q4）

近所の外国人との交流程度を尋ねると、回答者の 50.3%が「外国人住民とのつきあいはない」としている。次いで「道で会えばあいさつをかわす程度」が 41.1%である。「会った際には世間話をする」、「互いの家をよく行き来する」はそれぞれ 4.3%、1.2%とごく僅かであった。回答者の約半数の近所に外国人が居住しているが、あまり親密な交流は行われていないようである。親密な交流は行われていないものの何らかの交流をしている回答者が半数程度いることが明らかになった。性別および年齢とのクロス集計の結果は図表 4-4 に示した通りであるが、両カテゴリーともに有意差は確認されなかった。

図表 4-3　近所の外国人との交流程度（Q4）



図表 4-4　近所の外国人との交流程度（Q4）

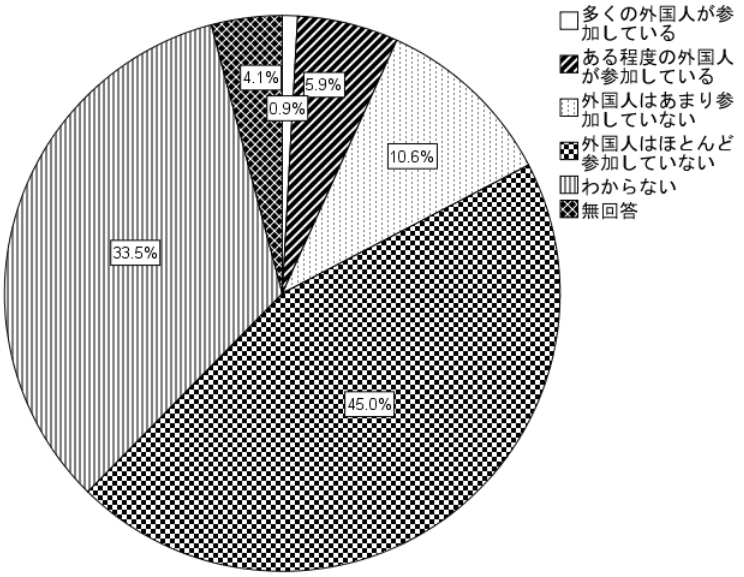
		回答者数	外国人住民とのつきあいはない	道で会えばあいさつをかわす程度	会った際には世間話をする	互いの家をよく行き来する	無回答
性別	男性	70	51.4%	42.9%	1.4%	—	4.3%
	女性	92	50.0%	39.1%	6.5%	2.2%	2.2%
年齢	20～30 代	33	60.6%	21.2%	12.1%	—	6.1%
	40～50 代	79	51.9%	41.8%	3.8%	1.3%	1.3%
	60 代以上	50	42.0%	52.0%	—	2.0%	4.0%

外国人による地区の活動や行事への参加程度（Q5）

「あなたがお住まいの地区にも外国人が住んでいますが、その人たちは地区の活動や行事に参加していますか」という質問に対しては、「外国人はほとんど参加していない」と答えた回答者が最も多く 45.0%となった。次いで、「わからない」が 33.5%となった。「多くの外国人が参加している」、「ある程度の外国人が参加している」を加えても 1 割に満たず、外国人は地区の活動や行事へあまり参加していないことが見て取れる。

一方で、「わからない」とする回答も多い。性別および年齢とのクロス集計の結果は図表 4-6 に示した通りであるが、この傾向は特に若い世代で強い。

図表 4-5　外国人による地区の活動や行事への参加程度（Q5）



図表 4-6　外国人による地区の活動や行事への参加程度（Q5）

		回答者数	多くの外国人が参加している	ある程度の外国人が参加している	外国人はあまり参加していない
性別	男性	147	—	4.1%	11.6%
	女性	192	1.6%	6.8%	9.9%
年齢※	20～30 代	70	—	7.1%	7.1%
	40～50 代	153	1.3%	3.3%	13.1%
	60 代以上	115	0.9%	7.8%	9.6%

		外国人はほとんど参加していない	わからない	無回答
性別	男性	53.1%	29.3%	2.0%
	女性	39.1%	37.0%	5.7%
年齢※	20～30 代	30.0%	51.4%	4.3%
	40～50 代	50.3%	30.1%	2.0%
	60 代以上	47.8%	27.0%	7.0%

（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Pearson のカイ二乗検定で有意差のあるもの（P＜0.05））

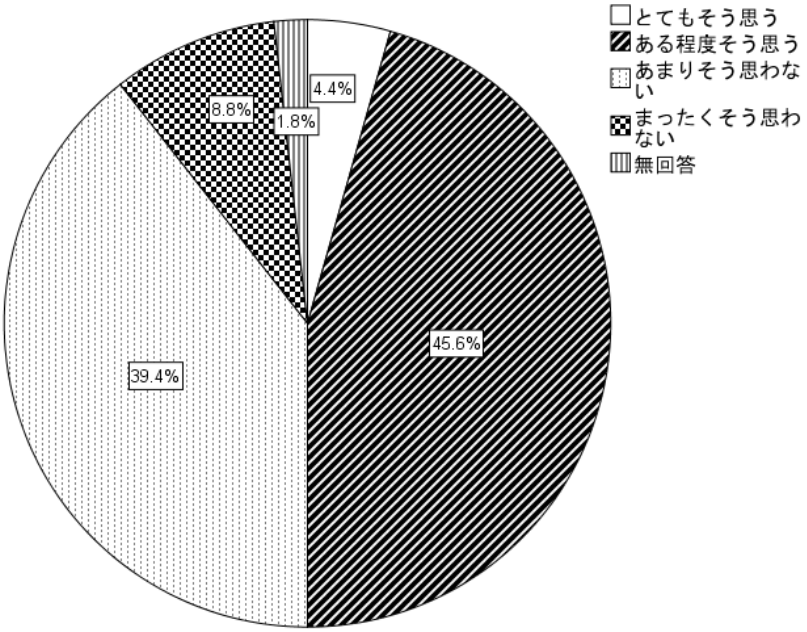
外国人居住による地区の変化（Q7）

ここでは「外国人が居住することで、お住まいの地区がどのように変化すると思いますか」という質問に対し、それぞれの考えについて、「とてもそう思う」、「ある程度そう思う」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の 4 段階評価で回答を得た。以下順にみてゆく。

外国人との交流が進む（Q7-A）

まず外国人との交流が進むかについては「ある程度そう思う」が 45.6%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が 39.4%となった。「ある程度そう思う」、「とてもそう思う」の合計は 5 割程度であり、肯定的意見と否定的意見はほぼ二分されている。

図表 4-7　外国人との交流が進む（Q7-A）



下表は性別、年齢別のクロス集計表であるが、両カテゴリーともに回答に有意差は確認されなかった。

図表 4-8　外国人との交流が進む（Q7-A）

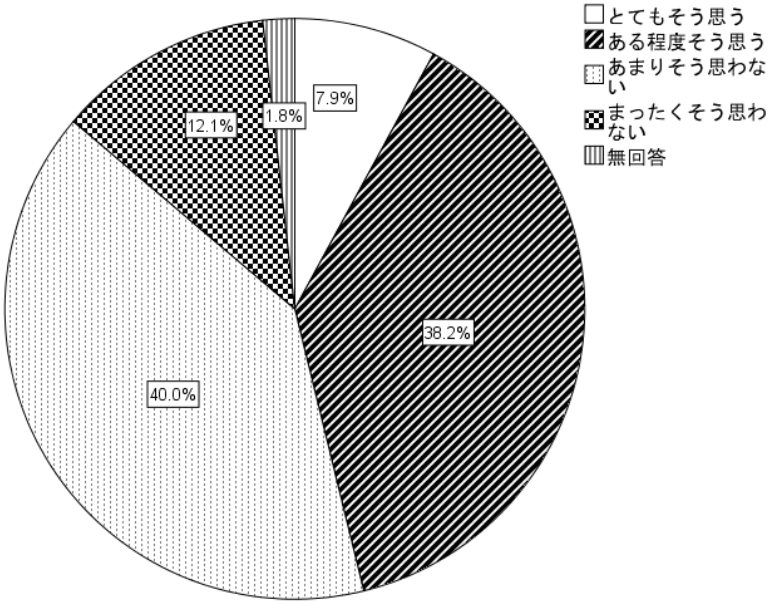
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	3.4%	43.5%	43.5%	8.8%	0.7%
	女性	192	5.2%	47.4%	36.5%	8.3%	2.6%
年齢	20～30 代	70	7.1%	51.4%	34.3%	5.7%	1.4%
	40～50 代	153	6.5%	41.8%	41.2%	8.5%	2.0%
	60 代以上	115	—	47.0%	40.9%	10.4%	1.7%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

外国の文化に触れられる（Q7-B）

外国の文化に触れられるかについては、「あまりそう思わない」が 40.0%と最も多く、次いで「ある程度そう思う」が 38.2%となった。「ある程度そう思う」、「とてもそう思う」の合計（46.1%）が、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の合計（52.1%）を僅かに下回った。性別および年齢とのクロス集計の結果は図表 4-10 に示した通りであるが、両カテゴリーともに有意差は確認されなかった。

図表 4-9　外国の文化に触れられる（Q7-B）



図表 4-10　外国の文化に触れられる（Q7-B）

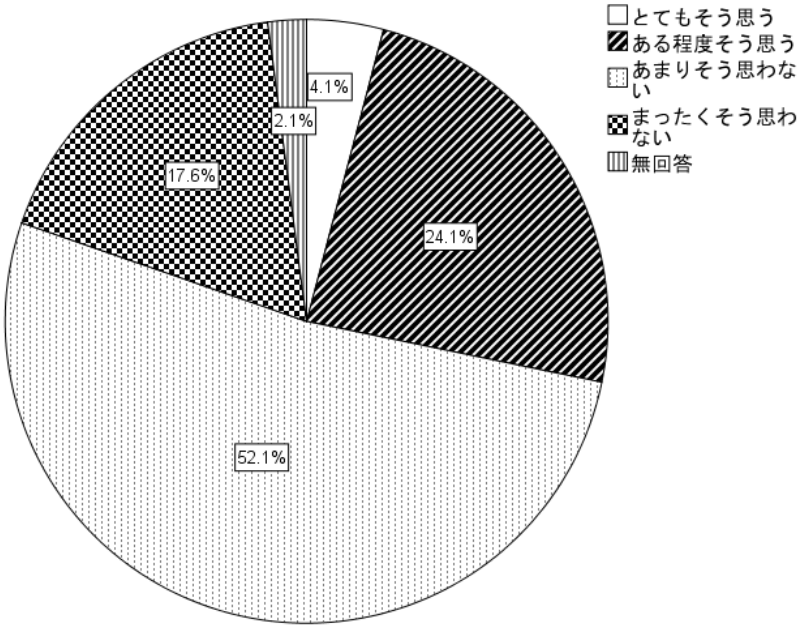
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	6.1%	35.4%	44.2%	13.6%	0.7%
	女性	192	9.4%	40.6%	36.5%	10.9%	2.6%
年齢	20～30 代	70	10.0%	44.3%	35.7%	8.6%	1.4%
	40～50 代	153	10.5%	32.7%	43.1%	12.4%	1.3%
	60 代以上	115	3.5%	41.7%	38.3%	13.9%	2.6%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

にぎやかになる（Q7-C）

にぎやかになるかどうかについて集計結果をみると、「あまりそう思わない」が 52.1%と最も多く、次いで「ある程度そう思う」が 24.1%となった。「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合計すると約 7 割となり、過半数の回答者は外国人が居住してもにぎやかにはなるとは思えないと回答している。性別および年齢とのクロス集計の結果は図表 4-12 に示した通りであるが、両カテゴリーともに有意差は確認されなかった。

図表 4-11　にぎやかになる（Q7-C）



図表 4-12　にぎやかになる（Q7-C）

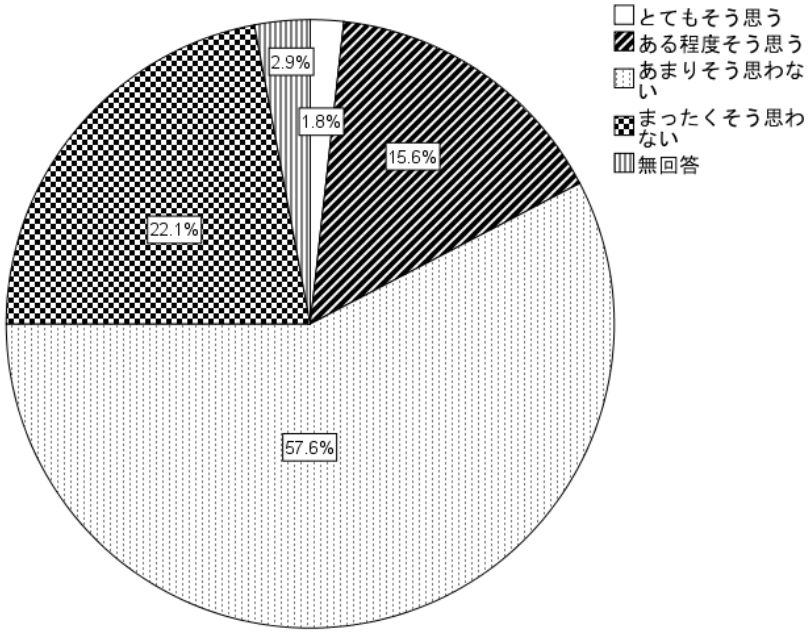
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	4.1%	20.4%	53.7%	20.4%	1.4%
	女性	192	4.2%	27.1%	51.0%	15.1%	2.6%
年齢	20～30 代	70	7.1%	31.4%	48.6%	11.4%	1.4%
	40～50 代	153	5.2%	20.3%	54.2%	18.3%	2.0%
	60 代以上	115	0.9%	24.3%	52.2%	20.0%	2.6%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イメージがよくなる（Q7-D）

外国人が居住することによって地域のイメージがよくなるかどうかについて集計結果をみると、「あまりそう思わない」が 57.6%と最も多く、次いで「全くそう思わない」が 22.1%となった。「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合計すると約 8 割となり、多くの回答者が「そう思わない」としている。

図表 4-13　イメージがよくなる（Q7-D）



図表 4-14 に性別、年齢別のクロス集計表を示した。ここでは性別によって回答に有意差が見られた。女性の方が男性よりも外国人が居住することによってイメージがよくなると回答する傾向にあることが見て取れる。一方で、年齢別には有意差が確認できなかった。

図表 4-14　イメージがよくなる（Q7-D）

		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別※	男性	147	1.4%	12.2%	59.2%	25.9%	1.4%
	女性	192	2.1%	18.2%	56.8%	18.8%	4.2%
年齢	20～30 代	70	2.9%	15.7%	64.3%	15.7%	1.4%
	40～50 代	153	2.6%	16.3%	56.2%	23.5%	1.3%
	60 代以上	115	―	14.8%	55.7%	23.5%	6.1%

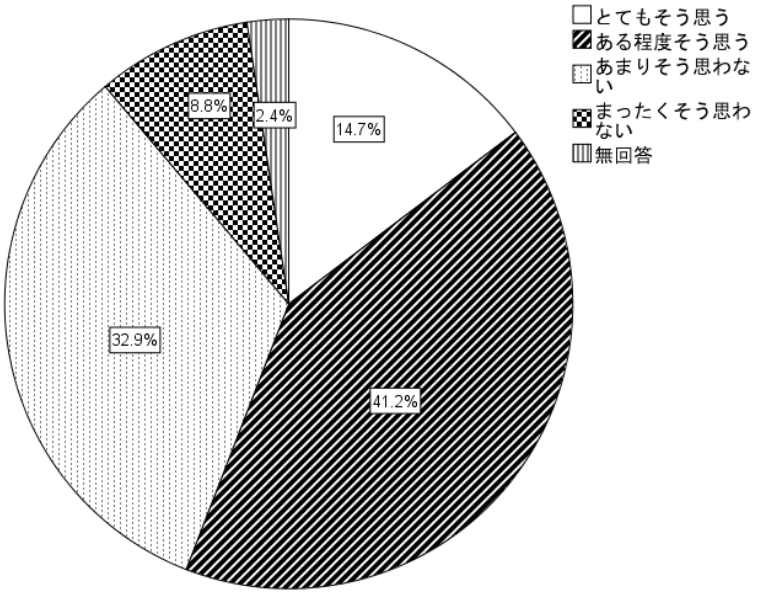
（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Wilcoxon の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

治安が悪くなる（Q7-E）

治安が悪くなるかについては、「ある程度そう思う」が 41.2%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が 32.9%となった。「とてもそう思う」、「ある程度そう思う」を合計すると約 5 割強となり、「そう思わない」とする回答をやや上回った。性別および年齢とのクロス集計の結果は図表 4-16 に示した通りであるが、両カテゴリーともに有意差は確認されなかった。

図表 4-15　治安が悪くなる（Q7-E）



図表 4-16　治安が悪くなる（Q7-E）

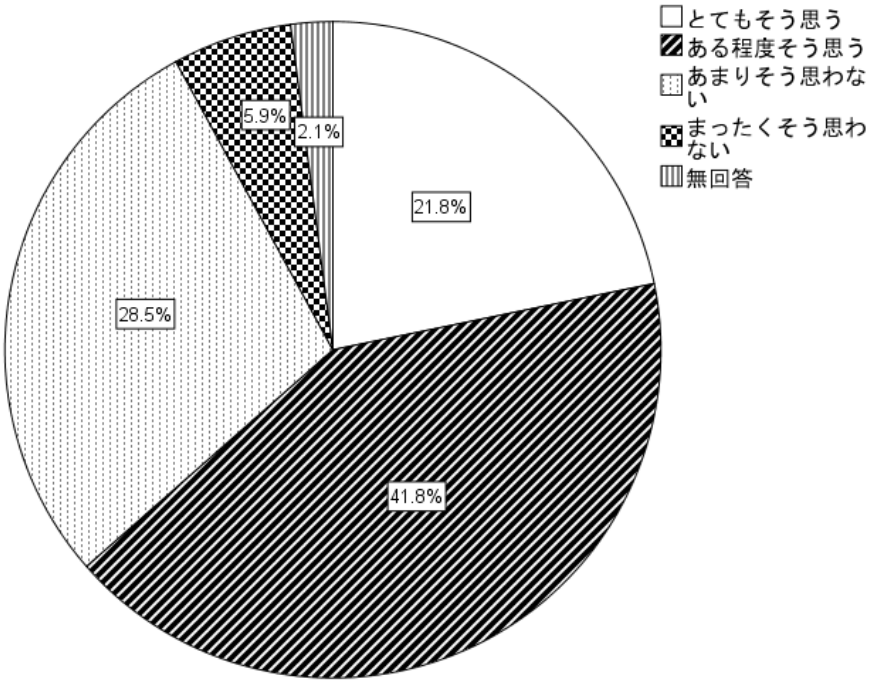
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	13.6%	42.2%	33.3%	10.2%	0.7%
	女性	192	15.6%	40.6%	32.3%	7.8%	3.6%
年齢	20～30 代	70	5.7%	45.7%	35.7%	11.4%	1.4%
	40～50 代	153	14.4%	40.5%	33.3%	9.8%	2.0%
	60 代以上	115	20.9%	39.1%	30.4%	6.1%	3.5%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

ゴミ捨てなど生活ルールが乱れる（Q7-F）

ゴミ捨てに代表される生活に関わるルールが乱れるかについては、「ある程度そう思う」が 41.8%と最も多く、次いで「あまりそう思わない」が 28.5%となった。「とてもそう思う」、「ある程度そう思う」の合計は約 6 割であり、「そう思わない」とする回答を上回った。性別、年齢別のクロス集計表は図表 4-18 に示した通りであるが、生活のルールが乱れるとする回答は特に高い年齢層において顕著である。一方で、性別には有意差が確認できなかった。

図表 4-17　ゴミ捨てなど生活ルールが乱れる（Q7-F）



図表 4-18　ゴミ捨てなど生活ルールが乱れる（Q7-F）

		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	20.4%	45.6%	26.5%	6.8%	0.7%
	女性	192	22.9%	39.1%	30.2%	4.7%	3.1%
年齢※	20～30 代	70	7.1%	52.9%	31.4%	7.1%	1.4%
	40～50 代	153	20.9%	44.4%	27.5%	5.9%	1.3%
	60 代以上	115	32.2%	31.3%	28.7%	4.3%	3.5%

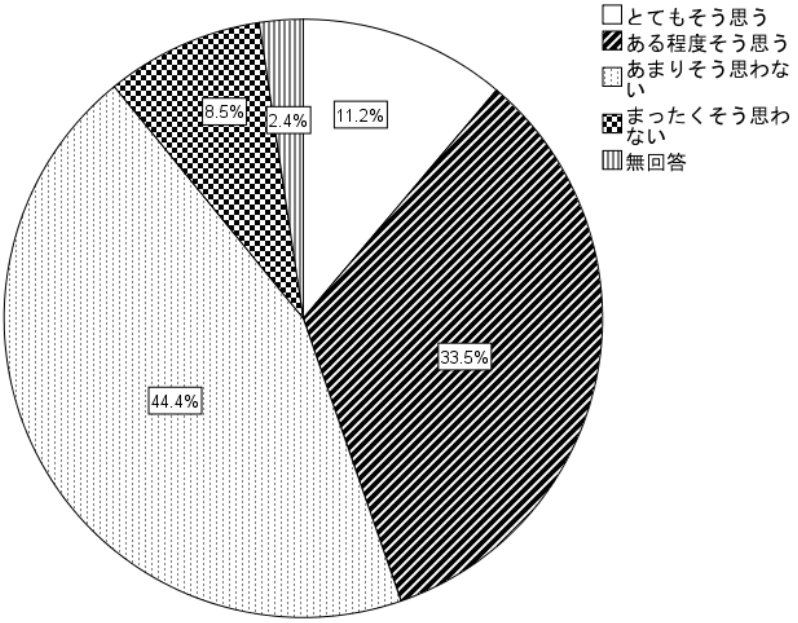
（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

生活環境が悪くなる（Q7-G）

生活環境が悪くなるかについて集計結果をみると、「あまりそう思わない」が 44.4%と最も多く、次いで「ある程度そう思う」が 33.5%となった。「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の合計は約 5 割であり、肯定的な回答と否定的な回答はほぼ二分されている。しかし、クロス集計で確認すると属性によって回答傾向に差があることが見て取れる。ここでも先の生活のルールと同様に年齢によって回答に有意差が見られた。年齢が高くなるに従って外国人が居住することによって生活環境が悪くなると回答する傾向にある。

図表 4-19　生活環境が悪くなる（Q7-G）



図表 4-20　生活環境が悪くなる（Q7-G）

		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	10.2%	35.4%	44.2%	9.5%	0.7%
	女性	192	12.0%	32.3%	44.8%	7.3%	3.6%
年齢※	20～30 代	70	2.9%	24.3%	61.4%	10.0%	1.4%
	40～50 代	153	10.5%	37.9%	39.9%	9.2%	2.6%
	60 代以上	115	17.4%	33.0%	40.9%	6.1%	2.6%

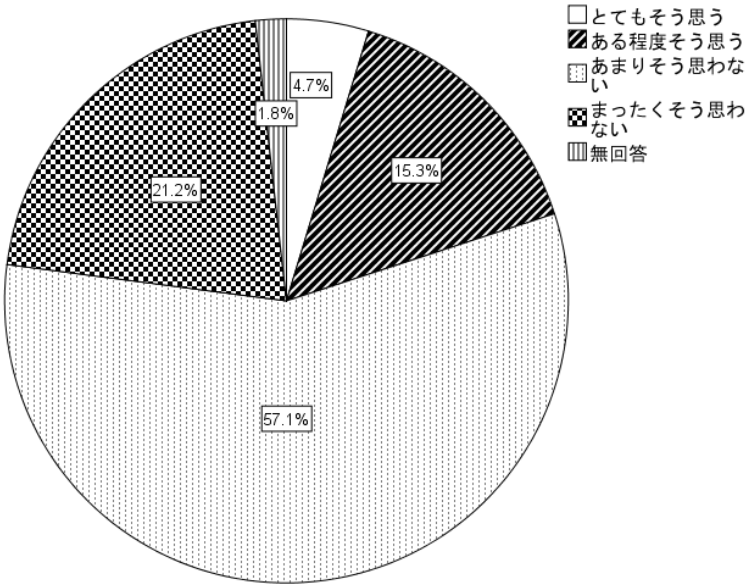
（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

日本人の仕事が減る（Q7-H）

外国人が居住することによって日本人の仕事が減るかどうかについては、「あまりそう思わない」が 57.1%と最も多く、次いで「まったくそう思わない」が 21.2%となった。「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」を合わせると約 8 割であり、多くの回答者は外国人が居住しても仕事が減少するとは考えていないことが見て取れる。性別および年齢とのクロス集計の結果は図表 4-22 に示した通りであるが、両カテゴリーともに有意差は確認されなかった。

図表 4-21　日本人の仕事が減る（Q7-H）



図表 4-22　日本人の仕事が減る（Q7-H）

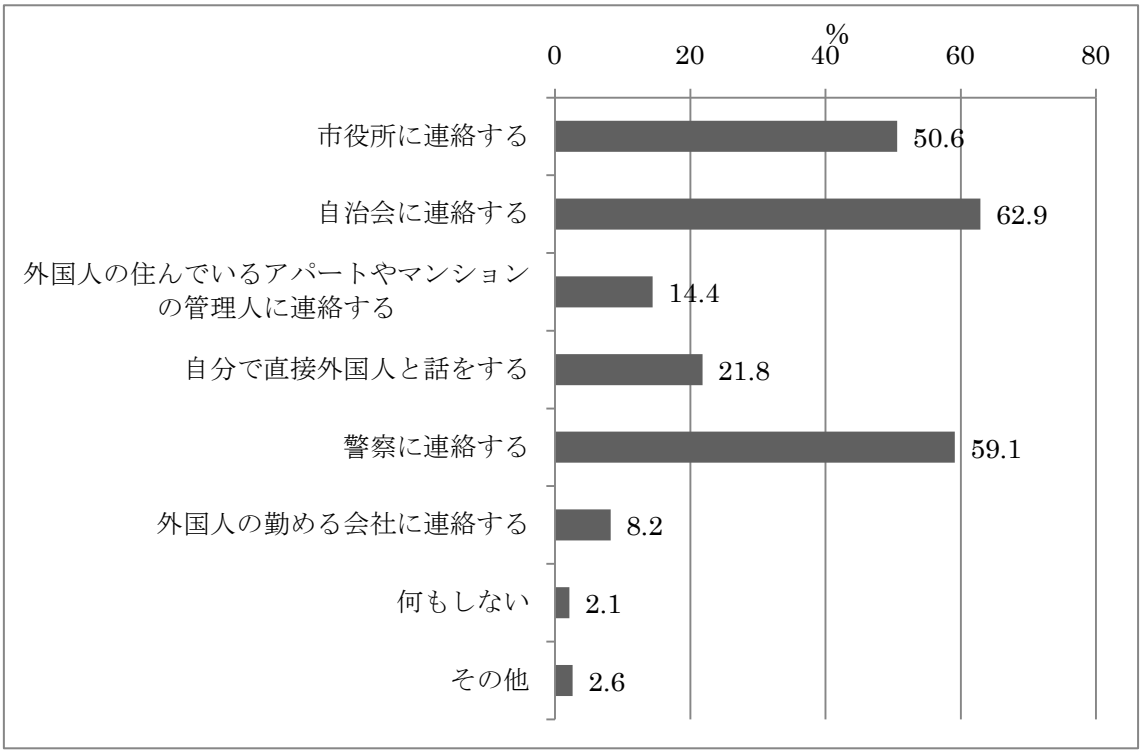
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	2.7%	14.3%	61.9%	20.4%	0.7%
	女性	192	6.3%	16.1%	53.6%	21.4%	2.6%
年齢	20～30 代	70	5.7%	15.7%	47.1%	30.0%	1.4%
	40～50 代	153	4.6%	15.0%	62.1%	17.0%	1.3%
	60 代以上	115	4.3%	15.7%	56.5%	20.9%	2.6%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

外国人居住者との問題への対応（Q9）

外国人居住者との問題への対応では、「自治会に連絡する」が最も多く（62.9%）、「警察に連絡する」（59.1%）、「市役所に連絡する」（50.6%）が続いた。「自分で直接外国人と話をする」は 2 割程度であり、多くの回答者は公的な機関を通して問題へ対応するとしている（図表 4-23）。性別、年齢別に回答割合をみると、「外国人の住んでいるアパートやマンションの管理人に連絡する」で性別による有意差が確認された。女性の方がより住居の管理者を通して外国人居住者との問題に対応するとしている（図表 4-24）。

図表 4-23　外国人居住者との問題への対応（Q9）



図表 4-24　外国人居住者との問題への対応（Q9）＜複数回答＞

		回答者数	市役所に連絡する	自治会に連絡する	外国人の住んでいるアパートやマンションの管理人に連絡する
性別	男性	147	51.0%	63.9%	5.4%
	女性	192	50.5%	62.5%	20.8%
年齢	20～30 代	70	48.6%	55.7%	18.6%
	40～50 代	153	50.3%	60.8%	15.0%
	60 代以上	115	52.2%	70.4%	10.4%

		自分で直接外国人と話をする	警察に連絡する	外国人の勤める会社に連絡する	何もしない	その他
性別	男性	22.4%	59.9%	4.8%	0.7%	2.7%
	女性	21.4%	58.9%	10.9%	3.1%	2.6%
年齢	20～30 代	32.9%	61.4%	4.3%	4.3%	2.9%
	40～50 代	21.6%	54.2%	11.8%	2.0%	1.3%
	60 代以上	15.7%	64.3%	6.1%	0.9%	4.3%

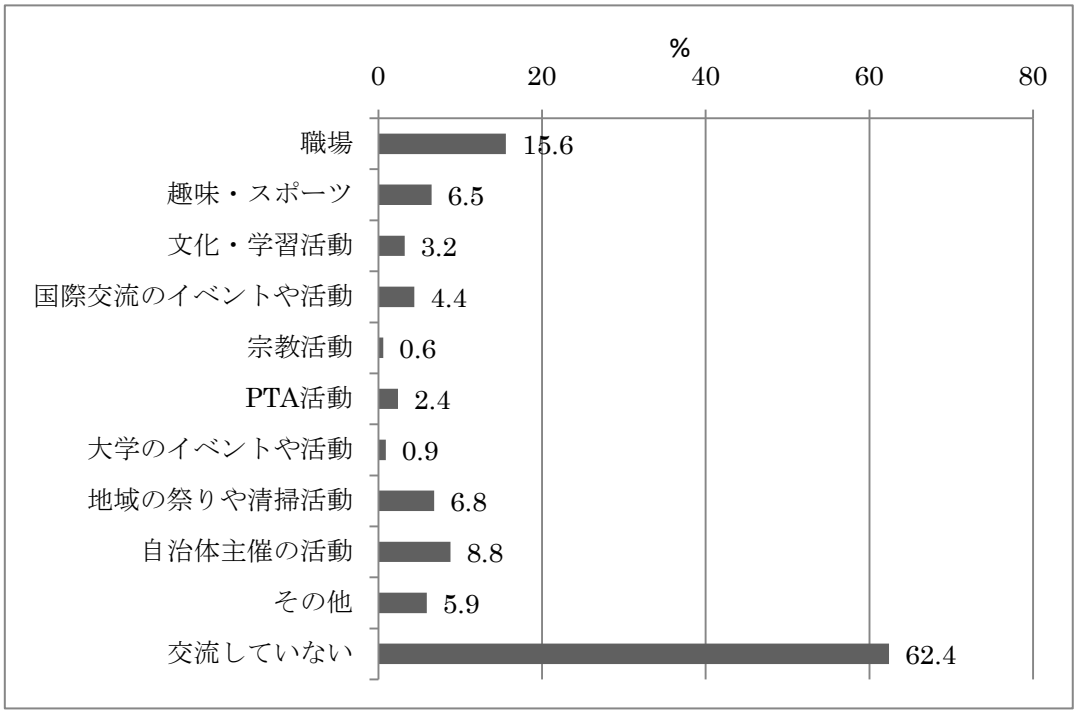
（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：網掛けは Pearson のカイ二乗検定で有意差のあるもの（P＜0.05））

外国人との交流の場（Q13）

外国人との交流の場では、「交流していない」の回答割合が 62.4%と最も高くなった。次いで、「職場」（15.6%）、「自治体主体の活動」（8.8%）、「地域の祭りや清掃活動」（6.8%）の順となった。近所の外国人との交流程度を聞いた Q4 でも「外国人住民とのつきあいはない」とする回答はほぼ半数に上ったが、ここでも交流していないとする回答が半数を超えている。交流の場として最も回答割合の高かった「職場」については、年齢による有意差が確認できる（図表 4-26）。若い年齢層ほど「職場」を外国人との交流の場として回答する傾向にある。

図表 4-25　外国人との交流の場（Q13）



図表 4-26　外国人との交流の場（Q13）＜複数回答＞

		回答者数	職場	趣味・スポーツ	文化・学習活動
性別	男性	147	13.6%	7.5%	3.4%
	女性	192	17.2%	5.7%	3.1%
年齢	20～30 代	70	24.3%	11.4%	5.7%
	40～50 代	153	16.3%	6.5%	2.6%
	60 代以上	115	9.6%	3.5%	2.6%

		国際交流のイベントや活動	宗教活動	PTA 活動	大学のイベントや活動
性別	男性	3.4%	0.7%	—	0.7%
	女性	5.2%	0.5%	4.2%	1.0%
年齢	20～30 代	8.6%	—	4.3%	2.9%
	40～50 代	3.3%	0.7%	2.6%	—
	60 代以上	3.5%	0.9%	0.9%	0.9%

		地域の祭りや清掃活動	自治体主催の活動	その他	交流なし
性別	男性	8.2%	7.5%	2.7%	66.0%
	女性	5.7%	9.9%	8.3%	59.4%
年齢	20～30 代	7.1%	2.9%	15.7%	45.7%
	40～50 代	7.8%	9.8%	5.9%	62.1%
	60 代以上	5.2%	11.3%	―	72.2%

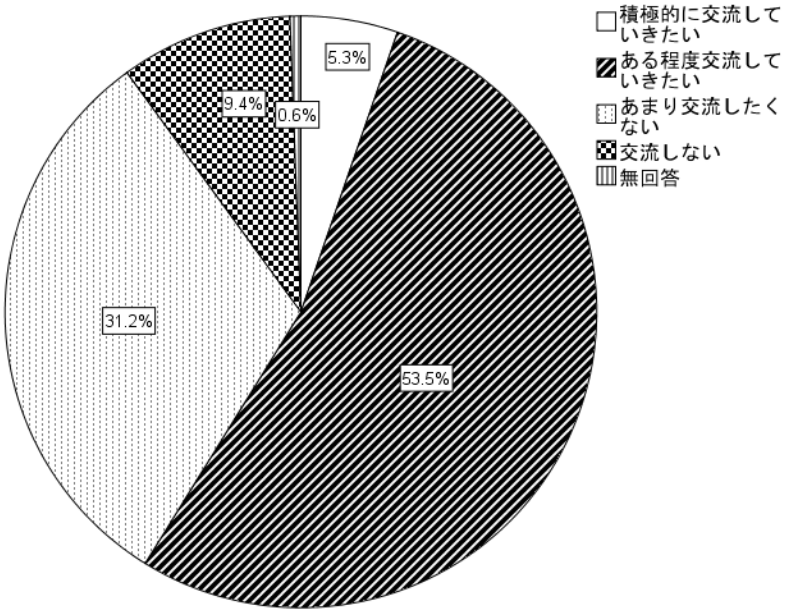
（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：網掛けは Pearson のカイ二乗検定で有意差のあるもの（P＜0.05））

今後の外国人との交流（Q14）

「あなたご自身は、今後どのように外国人と交流していきたいと思っていますか」という問いに対する回答は、「ある程度交流していきたい」（53.5%）が最も高い割合を占め、「あまり交流したくない」（31.2%）が続いた。「ある程度交流していきたい」、「積極的に交流していきたい」の合計（58.8%）が、「あまり交流したくない」、「交流しない」の合計（40.6%）を上回った（図表 4-27）。また、年齢が若い世代ほどより積極的に外国人と交流していきたいとする回答が高くなった（図表 4-28）。20～30 代では「ある程度交流していきたい」、「積極的に交流していきたい」の回答割合の合計は 8 割程度である。

図表 4-27　今後の外国人との交流（Q14）



図表 4-28　今後の外国人との交流（Q14）

		回答者数	積極的に交流していきたい	ある程度交流していきたい	あまり交流したくない	交流しない	無回答
性別	男性	147	2.7%	55.1%	32.0%	9.5%	0.7%
	女性	192	7.3%	52.6%	30.7%	8.9%	0.5%
年齢※	20～30 代	70	11.4%	67.1%	11.4%	8.6%	1.4%
	40～50 代	153	4.6%	52.9%	35.3%	7.2%	—
	60 代以上	115	2.6%	46.1%	38.3%	12.2%	0.9%

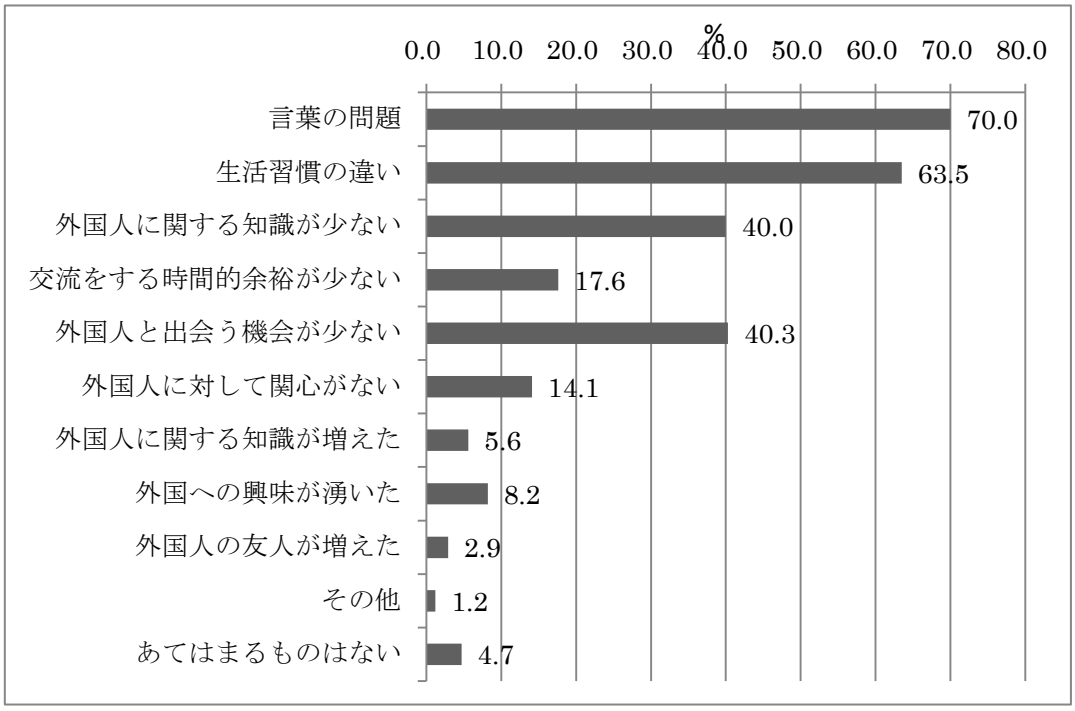
（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

外国人との交流で感じること（Q15）

外国人と交流する上で感じることでは、「言葉の問題」（70.0%）の割合が最も高く、「生活習慣の違い」（63.5%）、「外国人と出会う機会が少ない」（40.3%）が続いた（図表 4-29）。先の今後の外国人との交流との質問（Q14）と同様に若い世代では「外国への興味が湧いた」、「外国人の友人が増えた」という外国（人）に対して積極的な回答の割合が高くなっている（図表 4-30）。

図表 4-29　外国人との交流で感じること（Q15）



図表 4-30　外国人との交流で感じること（Q15）＜複数回答＞

		回答者数	言葉の問題	生活習慣の違い	外国人に関する知識が少ない
性別	男性	147	66.7%	67.3%	38.8%
	女性	192	72.9%	60.4%	41.1%
年齢	20～30 代	70	68.6%	54.3%	38.6%
	40～50 代	153	72.5%	63.4%	35.3%
	60 代以上	115	67.8%	69.6%	47.8%

		交流する時間的余裕がない	外国人と出会う機会が少ない	外国人に対して関心がない	外国人に関する知識が増えた
性別	男性	21.8%	40.1%	16.3%	6.1%
	女性	14.6%	40.6%	12.0%	5.2%
年齢	20～30 代	15.7%	50.0%	11.4%	11.4%
	40～50 代	20.3%	35.9%	13.7%	4.6%
	60 代以上	15.7%	40.9%	15.7%	3.5%

		外国への興味が湧いた	外国人の友人が増えた	その他	あてはまるものはない
性別	男性	4.8%	3.4%	0.7%	4.1%
	女性	10.9%	2.6%	1.6%	5.2%
年齢	20～30 代	18.6%	8.6%	1.4%	1.4%
	40～50 代	5.9%	1.3%	1.3%	4.6%
	60 代以上	5.2%	1.7%	0.9%	7.0%

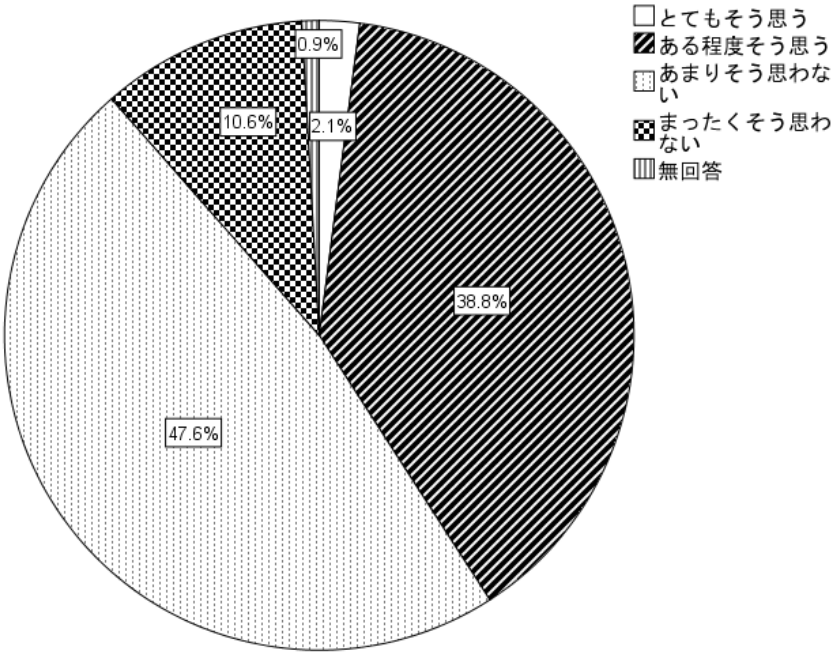
（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）
（注 2：網掛けは Pearson のカイ二乗検定で有意差のあるもの（P＜0.05））

外国人との付き合い（Q16）

「あなたご自身は、外国人とうまく付き合えると思いますか」という質問に対する回答は、「あまりそう思わない」（47.6%）の割合が最も高く、「ある程度そう思う」(38.8%)が続いた。「ある程度そう思う」、「とてもそう思う」の合計（40.9%）が、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の合計（58.2%）を下回った（図表 4-31）。

また、性別・年齢別にみると、ここまで確認してきた Q14 や Q15 と同様に若い世代ほど外国人に対して積極的な回答をする傾向にある（図表 4-32）。「ある程度そう思う」、「とてもそう思う」の合計は 20～30 代で約 6 割であるのに対して、60 代以上は 3 割程度である。

図表 4-31　外国人との付き合い（Q16）



図表 4-32　外国人との付き合い（Q16）

		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	1.4%	38.1%	49.0%	10.9%	.7%
	女性	192	2.6%	39.6%	46.9%	9.9%	1.0%
年齢※	20～30 代	70	1.4%	57.1%	30.0%	8.6%	2.9%
	40～50 代	153	2.0%	37.3%	52.3%	7.8%	.7%
	60 代以上	115	2.6%	30.4%	52.2%	14.8%	.0%

（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

小結

本章では、外国人一般との交流実態や交流への意識について確認してきた。ここでは、本章の調査結果を概括的にみていくことにする。本調査の対象地区である射水市白石、鷲塚、津幡江など（詳細は第 2 章）に居住する回答者のうちほぼ半数の回答者の近所に外国人が居住しているという結果が得られた。こうした外国人との交流については、親密な交流は行われていないものの挨拶程度のなんらかの交流をしている回答者が約半数に上った。

一方で、外国人は地区の活動や行事へほとんど参加していないことも明らかになった。また、特に若年層では外国人が地区の活動等へ参加しているか「わからない」とする回答が多かった。

こうした回答結果を反映して、外国人との交流の場に関する質問では、「交流していない」の回答割合が最も高くなった。次いで、「職場」、「自治体主体の活動」、「地域の祭りや清掃活動」の順となった。こうした場で外国人と交流する上で感じることでは、「言葉の問題」を感じる割合が最も高く、「生活習慣の違い」、「外国人と出会う機会が少ない」が続いた。若い世代では「外国への興味が湧いた」、「外国人の友人が増えた」という外国（人）に対して積極的な回答の割合が高くなった。

一方で、「あなたご自身は、外国人とうまく付き合えると思いますか」という質問に対しては、「あまりそう思わない」の回答割合が最も高く、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の合計は過半数を超えている。また、年齢別にみると若い世代ほど外国人との付き合いに対して積極的な回答をする傾向にある。「ある程度そう思う」、「とてもそう思う」の合計は 20～30 代で約 6 割であるのに対して、60 代以上は 3 割程度である。

また、外国人居住者と問題が起きた場合の対応では、「自治会に連絡する」が最も多く、「警察に連絡する」、「市役所に連絡する」が続いた。「自分で直接外国人と話をする」は相対的に少数意見であり、多くの回答者は公的な機関を通して問題へ対応するとしている。

次に、「外国人が居住することで、お住まいの地区がどのように変化すると思いますか」という質問に対しては、「外国人との交流が進む」、「外国の文化に触れられる」、「治安が悪くなる」、「生活環境が悪くなる」で肯定的意見と否定的意見はほぼ二分された。一方で、「にぎやかになる」、「イメージがよくなる」、「ゴミ捨てなどの生活ルールが乱れる」では否定的意見の方が多かった。また、「生活環境が悪くなる」、「ゴミ捨てなどの生活ルールが乱れる」等の生活に関連した変化では、特に高い年齢層で否定的な意見が多い。性別にみると、女性の方が男性よりも外国人が居住することによって「イメージがよくなる」と回答する傾向にあることが見て取れた。

以上の結果が示すように射水市における地域住民の外国人との交流は親密なものではなく外国人に対する否定的意見も散見された。一方で、外国人側も地域の活動等にあまり参加できておらず、普段接する機会がないことが否定的意見の一因と考えられるだろう。接触の機会は外国人に対する意識に影響を与えるという研究結果がすでに示されており、いかに接触の機会を作っていくかが今後も継続されるべき課題となってくるはずである。

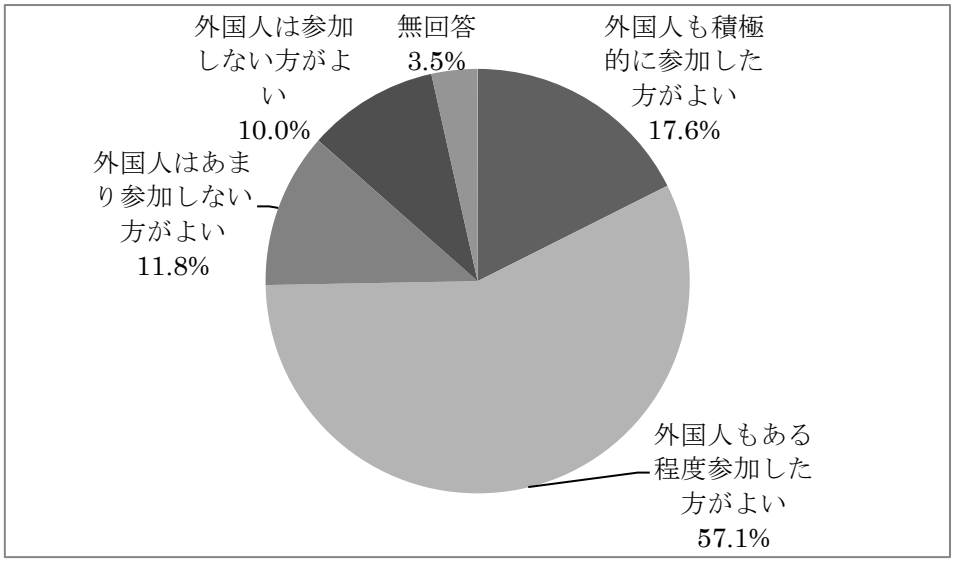
第 5 章　外国人および外国人政策への意見

本章では、調査対象となった日本人住民が持つ、外国人および外国人政策に対する意見を概観する。具体的には、地区行事への外国人の参加、外国人への考え、日本に外国人が入ってくることについて、外国人政策について、そして外国人理解の政策についてである。

外国人の地区の行事や活動(Q6)

まず、外国人の地区の行事や活動に対する意見についてみていく。外国人が地区の行事や活動にどの程度参加したらよいかを問うた設問に対し、「外国人も積極的に参加したほうがよい」が 17.6%、「外国人もある程度参加した方がよい」が 57.1%となっており、「参加した方がよい」と回答した者が 7 割以上にのぼった。

図表 5-1　外国人の地区の行事や活動(Q6)



以下の図表 5-2 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別にみても、有意な差は見られず、いずれのカテゴリーにおいても、「外国人もある程度参加した方がよい」が最も多くなっている。

図表 5-2　外国人の地区の行事や活動(Q6)

		回答者数	外国人も積極的に参加した方がよい	外国人もある程度参加した方がよい	外国人はあまり参加しない方がよい	外国人は参加しない方がよい	無回答
性別	男性	147	15.6%	60.5%	9.5%	11.6%	2.7%
	女性	192	18.8%	54.7%	13.5%	8.9%	4.2%
年齢	20～30 代	70	12.9%	65.7%	11.4%	5.7%	4.3%
	40～50 代	153	19.6%	56.9%	10.5%	9.8%	3.3%
	60 代以上	115	17.4%	52.2%	13.9%	13.0%	3.5%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

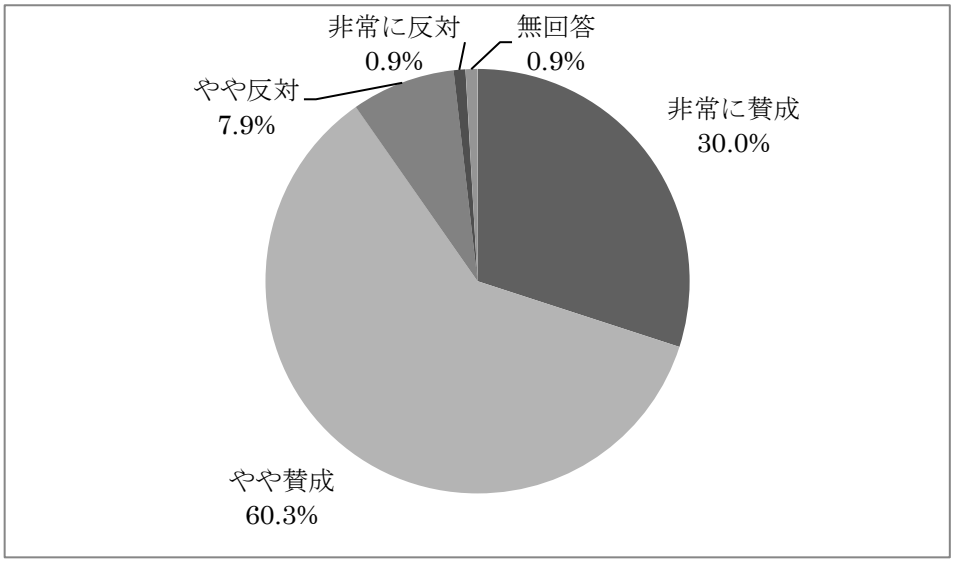
外国人への考え(Q8)

ここでは、対象者となった日本人住民の外国人への考えについてみていく。具体的には、日本語を使用するべきか、自治会へ加入するべきか、日本の学校へ通うべきかについて質問した。

外国人も日本語を使用するべきだ(Q8-A)

まず外国人も日本語を使用すべきかどうかに対しては、「非常に賛成」が 30.0%、「やや賛成」が 60.3%となっており、「賛成」と回答した者が 9 割にのぼっている。

図表 5-3　外国人も日本語を使用するべきだ(Q8-A)



(

以下の図表 5-4 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、

年齢別ともに有意な差がみられた。性別にみると、男性の方が「非常に賛成」と回答した者の割合が高くなっており、「非常に賛成」と「やや賛成」の合計に関しても、男性の方が高くなっている。また、年齢別にみると、年齢が上がるにつれ、「非常に賛成」の割合が高くなっていく傾向がみられた。

図表 5-4　外国人も日本語を使用するべきだ(Q8-A)

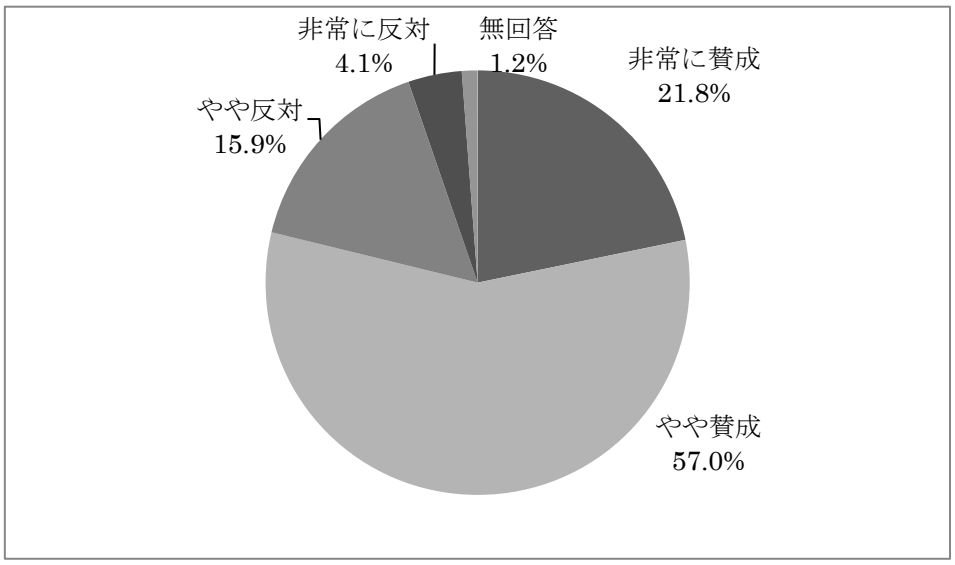
		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別※	男性	147	35.4%	57.1%	6.1%	0.7%	0.7%
	女性	192	25.5%	63.0%	9.4%	1.0%	1.0%
年齢※	20～30 代	70	22.9%	54.3%	21.4%	—	1.4%
	40～50 代	153	27.5%	66.7%	3.9%	1.3%	0.7%
	60 代以上	115	36.5%	56.5%	5.2%	0.9%	0.9%

（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）
（注 2：※は Wilcoxon、あるいは Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

外国人も自治会に加入するべきだ（Q8-B）

外国人も自治会に加入すべきかどうかに対しては、「非常に賛成」が 21.8%、「やや賛成」が 57.0%となっており、「賛成」と回答した者が約 8 割にのぼっている。

図表 5-5　外国人も自治会に加入するべきだ（Q8-B）



以下の図表 5-6 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別にみても有意な差はみられなかった。いずれのカテゴリーにおいても、「やや賛成」

と回答した者が最も多くなっている。

図表 5-6　外国人も自治会に加入すべきだ(Q8-B)

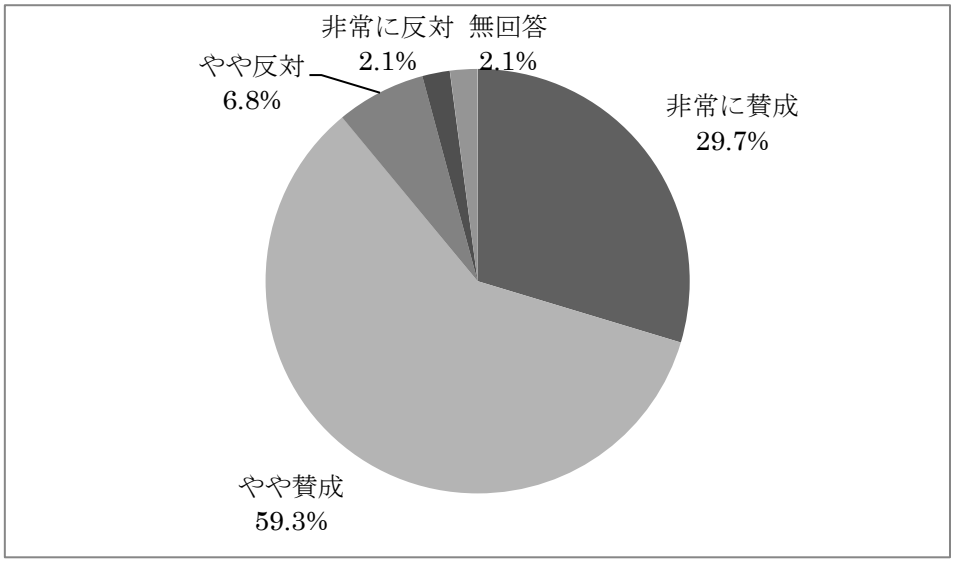
		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別	男性	147	19.0%	57.1%	19.0%	4.1%	0.7%
	女性	192	23.4%	57.3%	13.5%	4.2%	1.6%
年齢	20～30 代	70	17.1%	61.4%	18.6%	1.4%	1.4%
	40～50 代	153	22.2%	59.5%	13.7%	3.3%	1.3%
	60 代以上	115	23.5%	51.3%	17.4%	7.0%	0.9%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

外国人の子どもも日本の学校に通うべきだ(Q8-C)

外国人の子どもも日本の学校に通うべきかどうかに対しては、「非常に賛成」が 29.7%、「やや賛成」が 59.3%となっていろ、賛成と回答した者が 9 割にのぼっている。

図表 5-7　外国人の子どもも日本の学校に通うべきだ(Q8-C)



以下の図表 5-8 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別にみても、有意な差はみられなかった。いずれのカテゴリーにおいても、「やや賛成」と回答した者が最も多くなっている。

図表 5-8　外国人の子どもも日本の学校に通うべきだ(Q8-C)

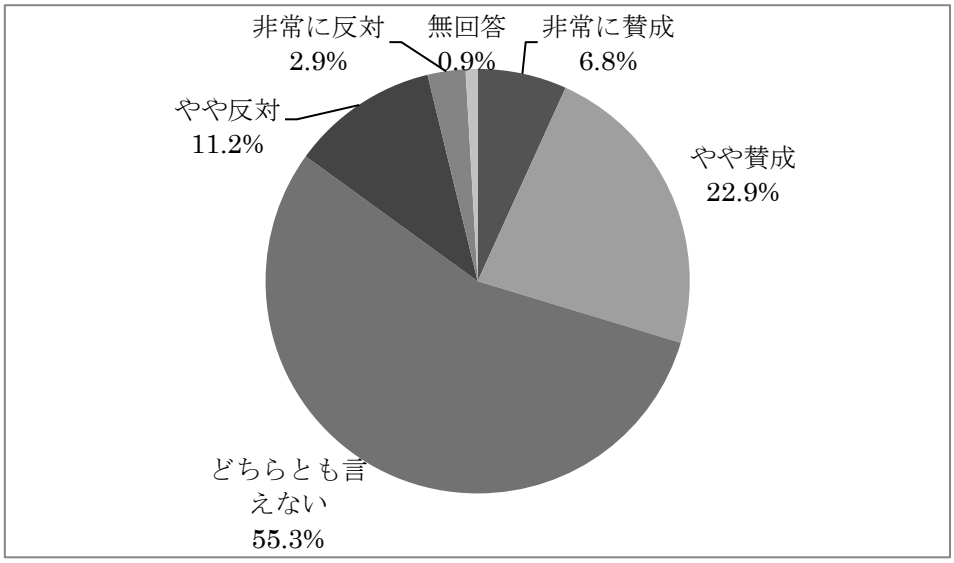
		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別	男性	147	26.5%	63.3%	6.1%	3.4%	0.7%
	女性	192	31.8%	56.8%	7.3%	1.0%	3.1%
年齢	20～30 代	70	24.3%	60.0%	11.4%	—	4.3%
	40～50 代	153	30.7%	60.8%	3.9%	2.6%	2.0%
	60 代以上	115	30.4%	58.3%	7.8%	2.6%	0.9%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

日本に外国人が入ってくることについて(Q10)

ここでは、日本に外国人が入ってくることに対する、日本人住民の意見についてみていく。「どちらとも言えない」が 55.3%と最も多く、ついで「やや賛成」22.9%となっている。「非常に賛成」と「やや賛成」の合計は 29.7%、「非常に反対」と「やや反対」の合計は 14.1%となっており、「賛成」と回答した者の方が多かった。

図表 5-9　日本に外国人が入ってくることについて(Q10)



以下の図表 5-10 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別においては有意な差は見られなかったが、年齢別においては有意な差がみられた。年齢があがるにつれて「非常に賛成」の割合が高くなっている。「非常に賛成」と「やや賛成」の合計についても、20~30 代は他のカテゴリーよりも高くなっている。

図表 5-10　日本に外国人が入ってくることについて(Q10)

		回答者数	非常に賛成	やや賛成	どちらとも言えない	やや反対	非常に反対	無回答
性別	男性	147	6.1%	19.7%	56.5%	13.6%	3.4%	0.7%
	女性	192	7.3%	25.5%	54.2%	9.4%	2.6%	1.0%
年齢※	20～30 代	70	17.1%	25.7%	44.3%	10.0%	1.4%	1.4%
	40～50 代	153	6.5%	18.3%	62.1%	7.8%	4.6%	0.7%
	60 代以上	115	0.9%	27.8%	52.2%	16.5%	1.7%	0.9%

（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

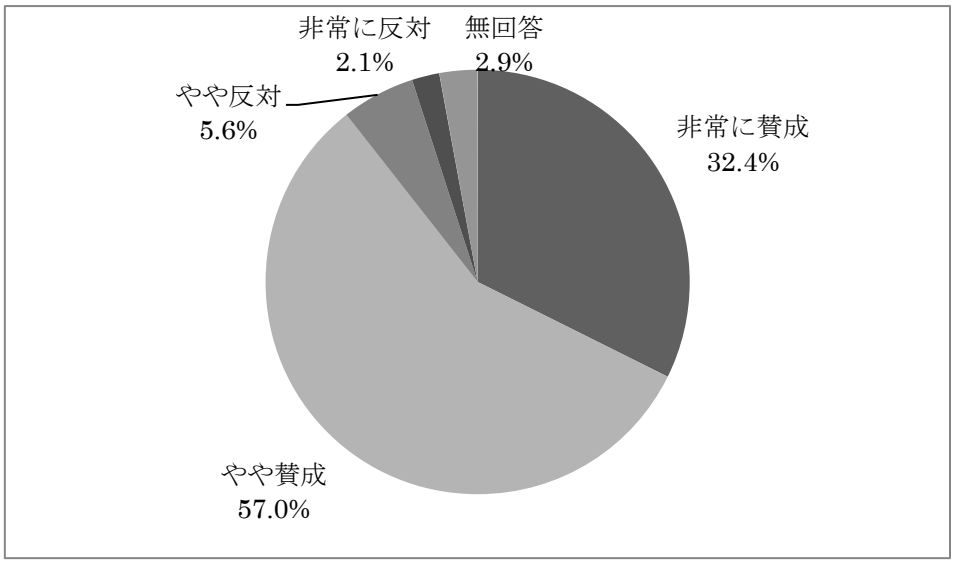
外国人政策について(Q11)

ここでは、外国人政策に対する意見についてみていく。

子どもへの学校教育の充実(Q11-A)

「子どもへの学校教育の充実をはかる」に対しては、「非常に賛成」が 32.4%、「やや賛成」が 57.0%となっており、「賛成」と回答した者が 9 割近くにのぼっている。

図表 5-11　子どもへの学校教育の充実(Q11-A)



以下の図表 5-12 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別ともに有意な差が見られた。性別にみると、女性の方が「非常に賛成」と回答した者の割合が高く、男性の方が「やや反対」と回答した者の割合が高かった。年齢別にみる

と、年齢が上がるにつれ、「非常に賛成」と回答した者の割合が低くなっている。

図表 5-12　子どもへの学校教育の充実(Q11-A)

		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別※	男性	147	27.2%	61.2%	8.2%	2.0%	1.4%
	女性	192	36.5%	53.6%	3.6%	2.1%	4.2%
年齢※	20～30 代	70	45.7%	44.3%	4.3%	2.9%	2.9%
	40～50 代	153	31.4%	58.2%	4.6%	2.6%	3.3%
	60 代以上	115	25.2%	63.5%	7.8%	0.9%	2.6%

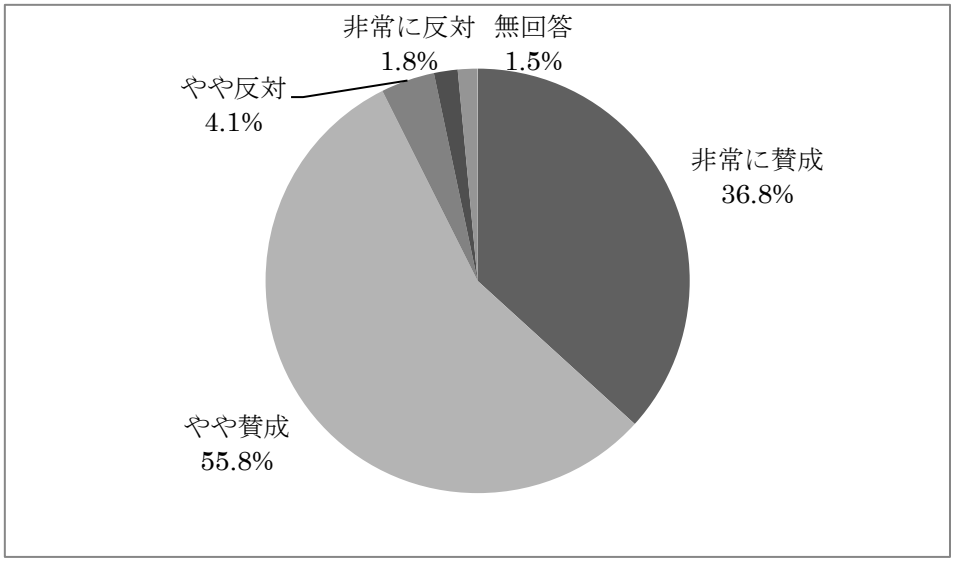
（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Wilcoxon、あるいは Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

日本文化と日本語を学ぶ機会を増やす（Q11-B）

「日本文化と日本語を学ぶ機会を増やす」に対しては、「非常に賛成」が 36.8%、「やや賛成」が 55.8%となっており、「賛成」と回答した者が 9 割にのぼっている。

図表 5-13　日本文化と日本語を学ぶ機会を増やす（Q11-B）



以下の図表 5-14 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別にみても、有意な差は見られなかった。いずれのカテゴリーにおいても、「賛成」と回答した者の割合が高くなっている。

図表 5-14　日本文化と日本語を学ぶ機会を増やす（Q11-B）

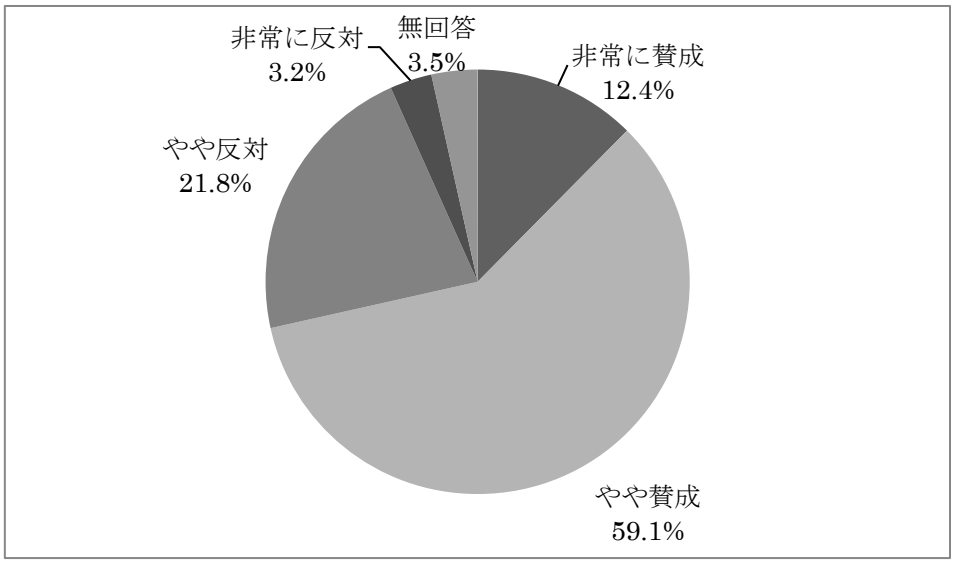
		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別	男性	147	32.7%	59.9%	4.1%	2.0%	1.4%
	女性	192	40.1%	52.6%	4.2%	1.6%	1.6%
年齢	20～30 代	70	48.6%	44.3%	2.9%	2.9%	1.4%
	40～50 代	153	35.9%	56.9%	3.9%	2.0%	1.3%
	60 代以上	115	30.4%	61.7%	5.2%	0.9%	1.7%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

母国語（外国語）教育の充実(Q11-C)

「母国語（外国語）教育を充実させる」に対しては、「非常に賛成」と回答した者が 12.4%、「やや賛成」と回答した者が 59.1%のなっており、「賛成」と回答した者が 7 割以上にのぼっている。

図表 5-15　母国語（外国語）教育の充実(Q11-C)



以下の図表 5-16 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別ともに有意な差が見られた。性別にみると、男性より女性の方が「非常に賛成」と回答した者の割合が高く、女性より男性の方が「やや反対」と反対した者の割合が高くなっている。年齢別にみると、20 代～30 代において、「賛成」と回答した者の割合が高くなっている。

図表 5-16　母国語(外国語)教育の充実(Q11-C)

		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別※	男性	147	8.2%	61.2%	25.2%	4.1%	1.4%
	女性	192	15.6%	57.8%	18.8%	2.6%	5.2%
年齢※	20～30 代	70	20.0%	64.3%	12.9%	1.4%	1.4%
	40～50 代	153	7.8%	62.1%	23.5%	2.6%	3.9%
	60 代以上	115	13.0%	53.0%	24.3%	5.2%	4.3%

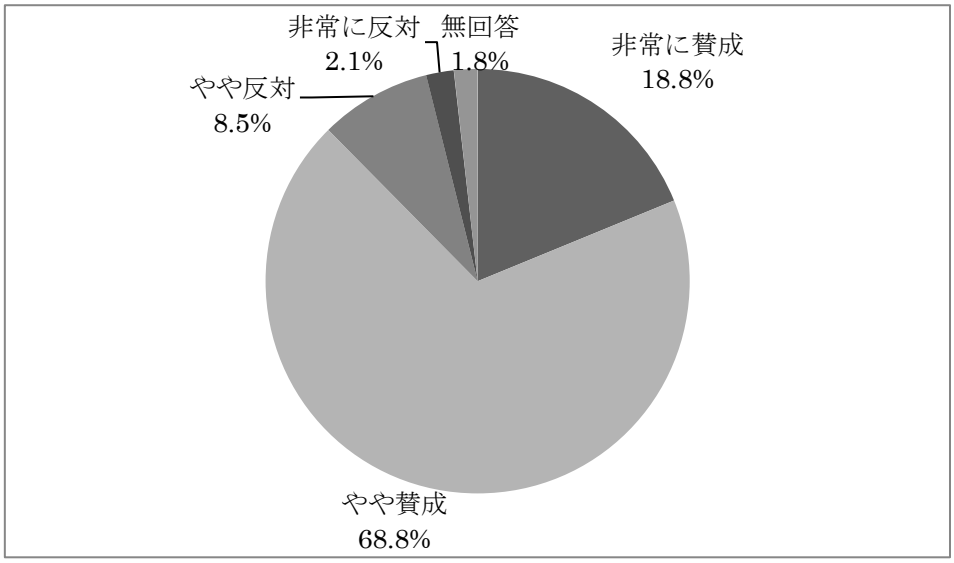
（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Wilcoxon、あるいは Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

労働環境の改善(Q11-D)

「労働環境の改善をはかる」に対しては、「非常に賛成」と回答した者が 18.8%、「やや賛成」と回答した者が 68.8%となっており、「賛成」と回答した者が 8 割以上にのぼっている。

図表 5-17　労働環境の改善(Q11-D)



以下の図表 5-18 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別にみても有意な差はみられなかった。いずれのカテゴリーにおいても、「やや賛成」が最も多く、次いで「非常に賛成」となっている。

図表 5-18　労働環境の改善(Q11-D)

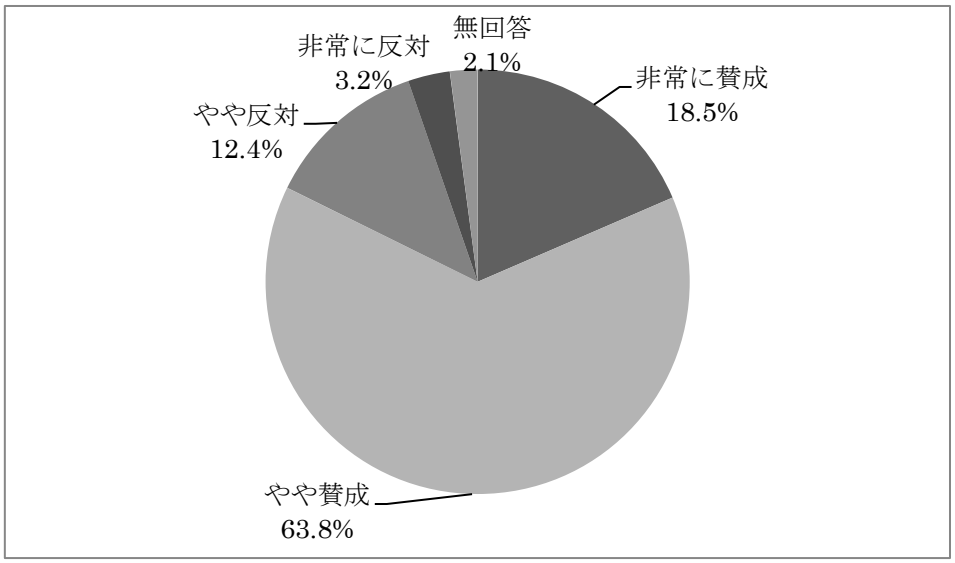
		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別	男性	147	16.3%	68.0%	11.6%	2.7%	1.4%
	女性	192	20.8%	69.3%	6.3%	1.6%	2.1%
年齢	20～30 代	70	25.7%	65.7%	5.7%	1.4%	1.4%
	40～50 代	153	16.3%	72.5%	7.8%	2.0%	1.3%
	60 代以上	115	17.4%	66.1%	11.3%	2.6%	2.6%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

福祉・医療サービスの充実(Q11-E)

「福祉・医療サービスの充実をはかる」に対しては、「非常に賛成」が 18.5%、「やや賛成」が 63.8%となっており、「賛成」と回答した者が 8 割にのぼっている。

図表 5-19　福祉・医療サービスの充実(Q11-E)



以下の図表 5-20 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別にみても、有意な差はみられなかった。いずれのカテゴリーにおいても「やや賛成」が最も多く、次いで「非常に賛成と」なっている。

図表 5-20　福祉・医療サービスの充実(Q11-E)

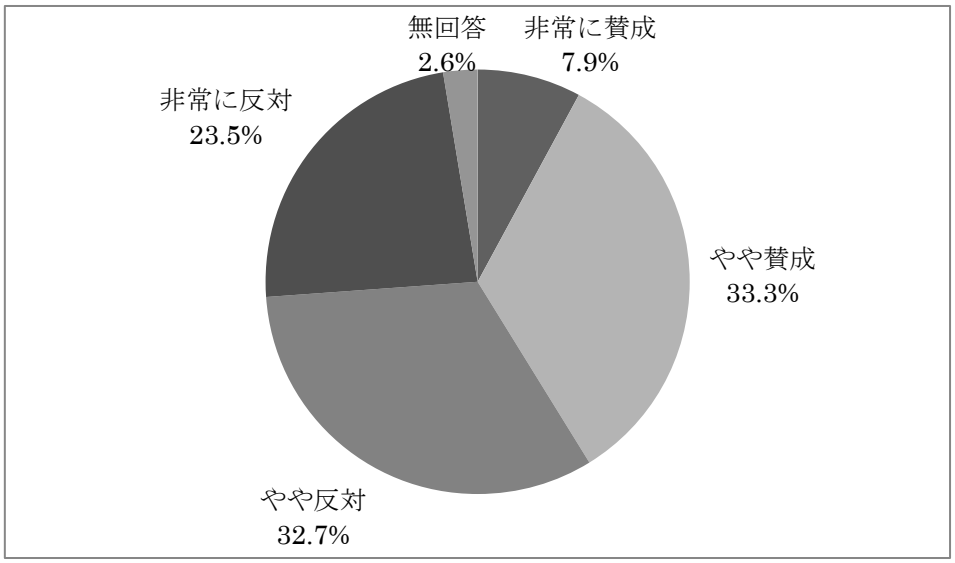
		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別	男性	147	14.3%	67.3%	14.3%	3.4%	0.7%
	女性	192	21.9%	60.9%	10.9%	3.1%	3.1%
年齢	20～30 代	70	22.9%	62.9%	10.0%	2.9%	1.4%
	40～50 代	153	18.3%	66.0%	11.8%	2.6%	1.3%
	60 代以上	115	15.7%	61.7%	14.8%	4.3%	3.5%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

参政権を与える(Q11-F)

「参政権を与える」に対しては、「非常に賛成」「やや賛成」の合計が 41.2%、「非常に反対」「やや反対」の合計が 56.2%と、「反対」と回答した者が多くなっている。

図表 5-21　参政権を与える(Q11-F)



以下の図表 5-22 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別ともに有意な差がみられた。性別にみると、女性の方が「賛成」と回答したものの割合が高くなっている。年齢別にみると、年齢が上がるにつれて「賛成」と回答し者の割合が低くなっている。

図表 5-22　参政権を与える(Q11-F)

		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別※	男性	147	5.4%	29.9%	33.3%	29.9%	1.4%
	女性	192	9.9%	35.4%	32.3%	18.8%	3.6%
年齢※	20～30 代	70	14.3%	40.0%	24.3%	18.6%	2.9%
	40～50 代	153	7.8%	33.3%	34.0%	22.9%	2.0%
	60 代以上	115	4.3%	27.8%	36.5%	27.8%	3.5%

（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Wilcoxon、あるいは Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

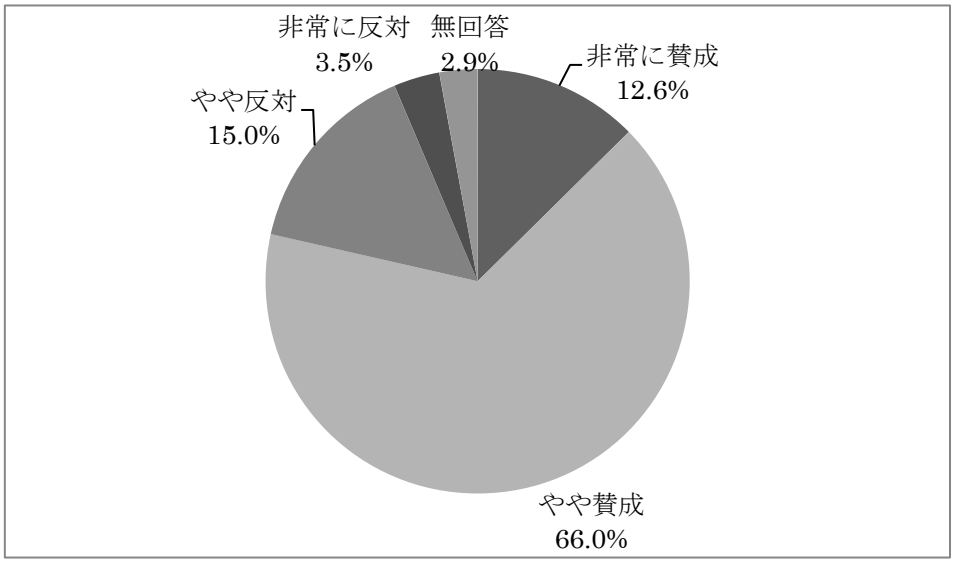
外国人理解の政策について(Q12)

ここでは、外国人理解の政策に対する、日本人住民の意見をみていく。

外国人との交流機会の充実(Q12-A)

まず、「外国人との交流の機会をさらに豊富にする」に対しては、「非常に賛成」が 12.6%、「やや賛成」が 66.0%となっており、「賛成」と回答した者が 8 割近くにのぼっている。

図表 5-23　外国人との交流機会の充実(Q12-A)



以下の図表 5-24 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別にみても有意な差はみられなかった。いずれのカテゴリーにおいても「やや賛成」と回答した者が最も多くなっている。

図表 5-24　外国人との交流機会の充実(Q12-A)

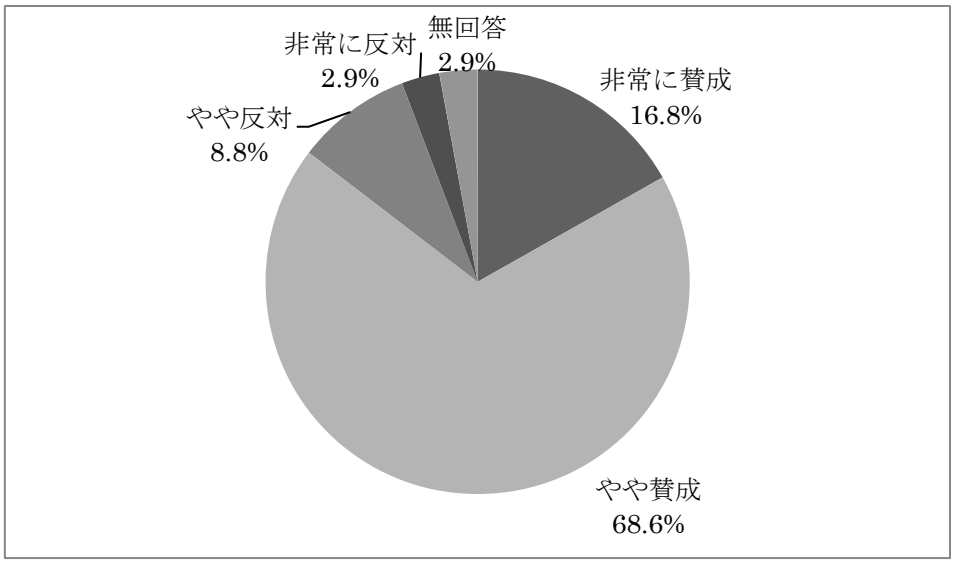
		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別	男性	147	11.6%	67.3%	14.3%	4.1%	2.7%
	女性	192	13.5%	65.1%	15.1%	3.1%	3.1%
年齢	20～30 代	70	18.6%	60.0%	15.7%	1.4%	4.3%
	40～50 代	153	11.8%	68.0%	13.1%	4.6%	2.6%
	60 代以上	115	10.4%	67.0%	16.5%	3.5%	2.6%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

住民に対する国際理解教育の充実(Q12-B)

「住民に対する国際理解教育の充実をはかる」に対しては、「非常に賛成」が 16.8%、「やや賛成」が 68.6%となっており、「賛成」と回答した者が 8 割以上にのぼっている。

図表 5-25　住民に対する国際理解教育の充実(Q12-B)



以下の図表 5-26 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別においては有意な差はみられなかったが、年齢別にみると有意な差がみられた。20~30 代において、「非常に賛成」と回答した者の割合が他のカテゴリーより高くなっている。

図表 5-26　住民に対する国際理解教育の充実(Q12-B)

		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別	男性	147	14.3%	71.4%	8.2%	2.7%	3.4%
	女性	192	18.8%	66.1%	9.4%	3.1%	2.6%
年齢※	20～30 代	70	25.7%	61.4%	5.7%	1.4%	5.7%
	40～50 代	153	13.7%	71.9%	8.5%	3.9%	2.0%
	60 代以上	115	15.7%	67.8%	11.3%	2.6%	2.6%

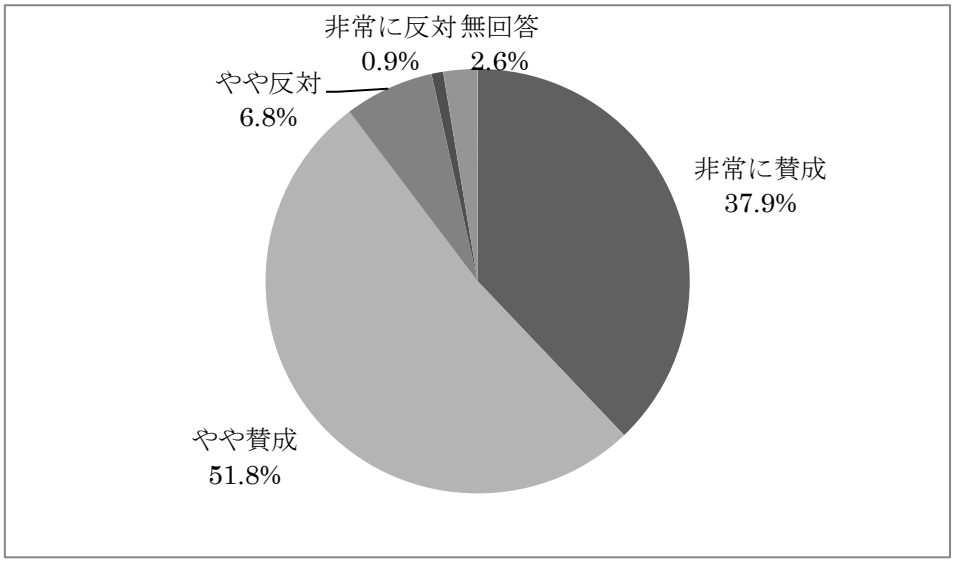
（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Kruskal-Wallis の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

外国人の情報や実態の公開(Q12-C)

「外国人についての情報・実態を市民に明らかにする」に対しては、「非常に賛成」が 37.9%、「やや賛成」が 51.8%となっており、「賛成」と回答した者が 9 割近くにのぼっている。

図表 5-27　外国人の情報や実態の公開(Q12-C)



以下の図表 5-28 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。年齢別においては有意な差はみられなかったが、性別にみると有意な差が見られた。男女ともに「賛成」回答したものが 9 割にのぼっているが、女性の方が「非常に賛成」した者の割合が高くなっている。

図表 5-28　外国人の情報や実態の公開(Q12-C)

		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別※	男性	147	29.9%	58.5%	7.5%	1.4%	2.7%
	女性	192	43.8%	46.9%	6.3%	0.5%	2.6%
年齢	20～30 代	70	41.4%	44.3%	7.1%	2.9%	4.3%
	40～50 代	153	35.9%	56.9%	4.6%	0.7%	2.0%
	60 代以上	115	37.4%	50.4%	9.6%	—	2.6%

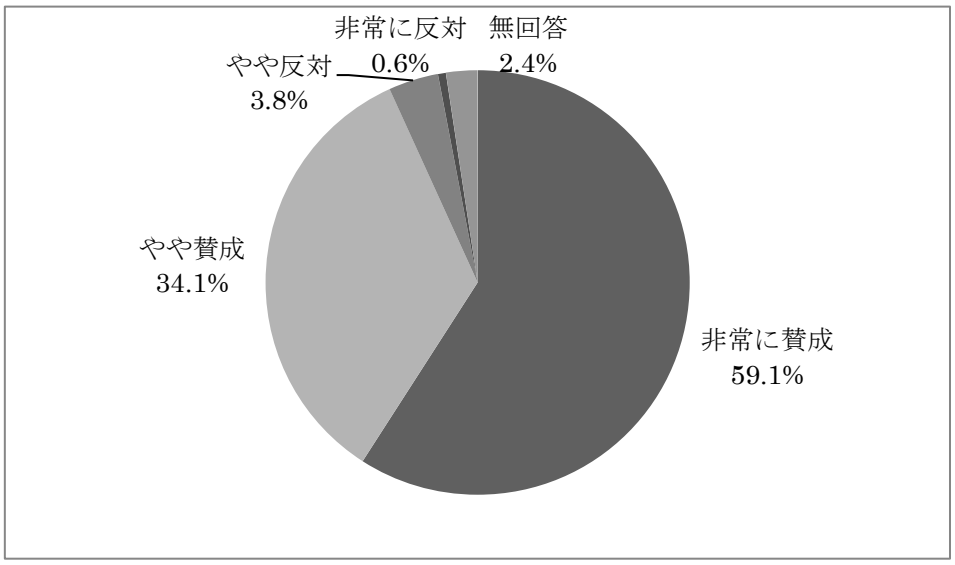
（注 1：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：※は Wilcoxon の順位和検定で有意差あり（P＜0.05））

トラブル時の市役所の積極的介入(Q12-D)

「トラブルがあった時には市役所が積極的に関わる」に対しては、「非常に賛成」が 59.1%、「やや賛成」が 34.1%となっており、「賛成」と回答した者が 9 割以上にのぼっている。

図表 5-29　トラブル時の市役所の積極的介入(Q12-D)



以下の図表 5-30 は性別および年齢別によるクロス集計結果を示したものである。性別、年齢別にみても有意な差はみられなかった。いずれのカテゴリーにおいても「非常に賛成」が最も多く、次いで「やや賛成」となっている。

図表 5-30　トラブル時の市役所の積極的介入(Q12-D)

		回答者数	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対	無回答
性別	男性	147	56.5%	34.0%	5.4%	1.4%	2.7%
	女性	192	60.9%	34.4%	2.6%	—	2.1%
年齢	20～30 代	70	67.1%	20.0%	7.1%	1.4%	4.3%
	40～50 代	153	55.6%	39.9%	2.6%	0.7%	1.3%
	60 代以上	115	58.3%	35.7%	3.5%	—	2.6%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

小結

以上、対象となった日本人住民が抱く、外国人および外国人政策に対する意見について概観した。全体をまとめると、外国人に対しても、地区活動への参加や日本語の使用など、日本人と同様の行動を望む意見が多かった。外国人の受け入れそのものに関しては、賛否が分かれる結果となった。外国人政策に対しては、ほとんどの外国人を支援する政策に肯定的に意見を持っている回答者が多いものの、「参政権を与える」ことに関しては、反対が賛成を上回った。男女別にみると、女性の方が外国人および外国人政策に肯定的であるという傾向が見られた。また年齢別にみると、年齢が上がるにつれ、外国人および外国人政策に対して否定的な意見が増えるという傾向が見られた。

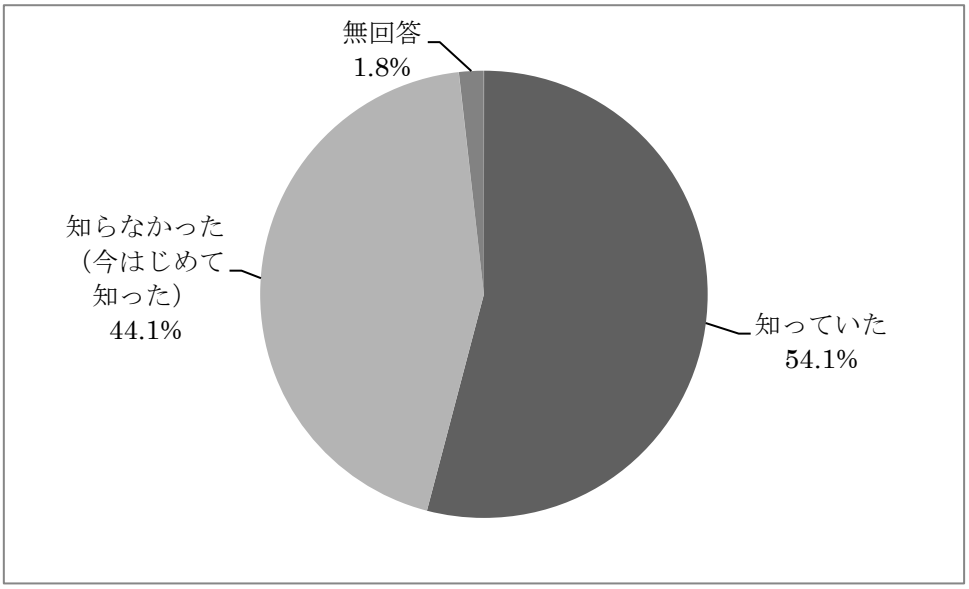
第 6 章　ムスリムとの交流とイスラム教に対する意識

本章ではムスリム（イスラム教徒）との交流実態とイスラム教（もしくはムスリム）に対する意識をみていく。クロス集計については、性別と年齢別をとりあげている。

モスクの認知（Q21）

まず、ここではモスクの認知についてみていくことにする。図表 6-1 は全体の集計結果を示したものである。モスクがあることを「知っていた」と回答したのは 54.1%、「知らなかった（今はじめて知った）」と回答したのは 44.1%であった。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果では、項目間における有意差は確認できなかった。

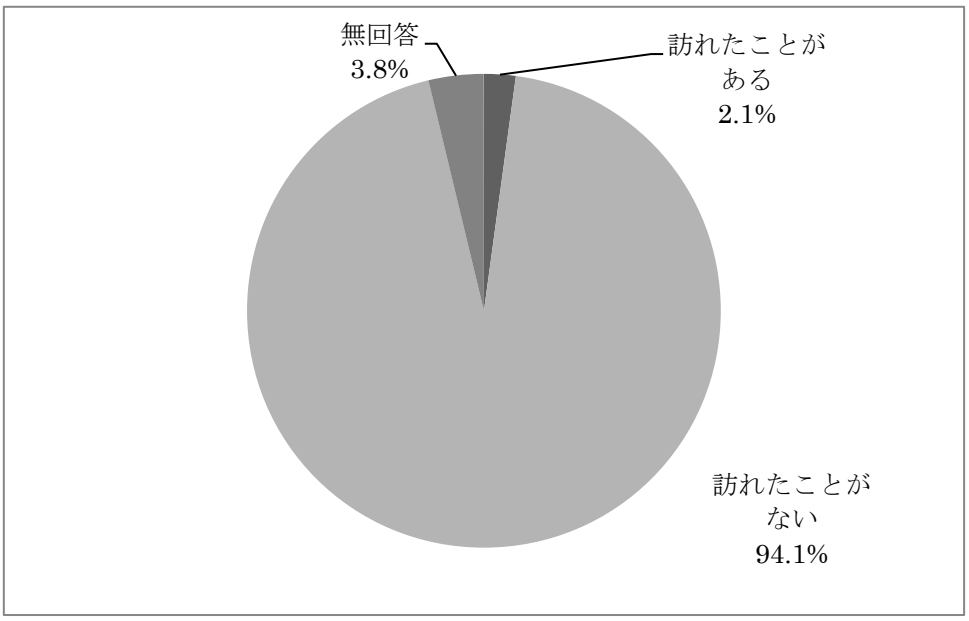
図表 6-1　モスクの認知（Q21）



モスク訪問の有無（Q22）

ここでは、実際に当地のモスクを訪れたことがあるかについてみていく。図表 6-2 は全体の集計結果を示したものである。実際にモスクを「訪れたことがある」と回答したのは 2.1%で、「訪れたことがない」と回答したのは 94.1%であった。Q21 で 54.1%の回答者がモスクの存在を知っていたが、実際に訪れたことがある回答者はごく一部（2.1%）にとどまっていることが見て取れる。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果では、項目間における有意差は確認できなかった。

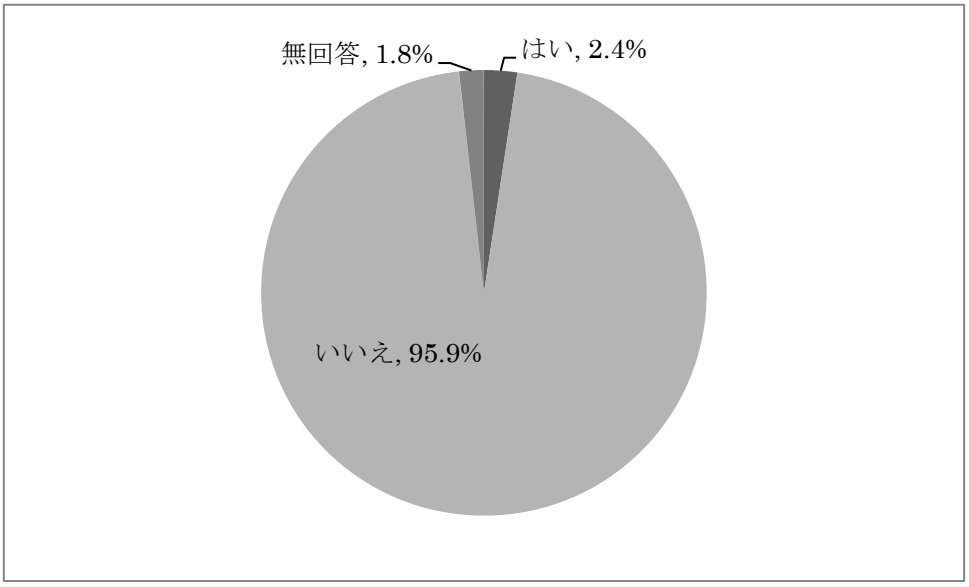
図表 6-2　モスク訪問の有無（Q22）



ムスリムの知人の有無（Q24）

ここでは、ムスリムの知人の有無についてみていく。図表 6-3 は、全体の集計結果を示したものである。ムスリムの知人がいると回答した人は 2.4%にとどまり、知人はいないと回答した人が全体の 95.9%を占める結果となった。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-4 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-3　ムスリムの知人の有無（Q24）



図表 6-4　ムスリムの知人の有無（Q24）

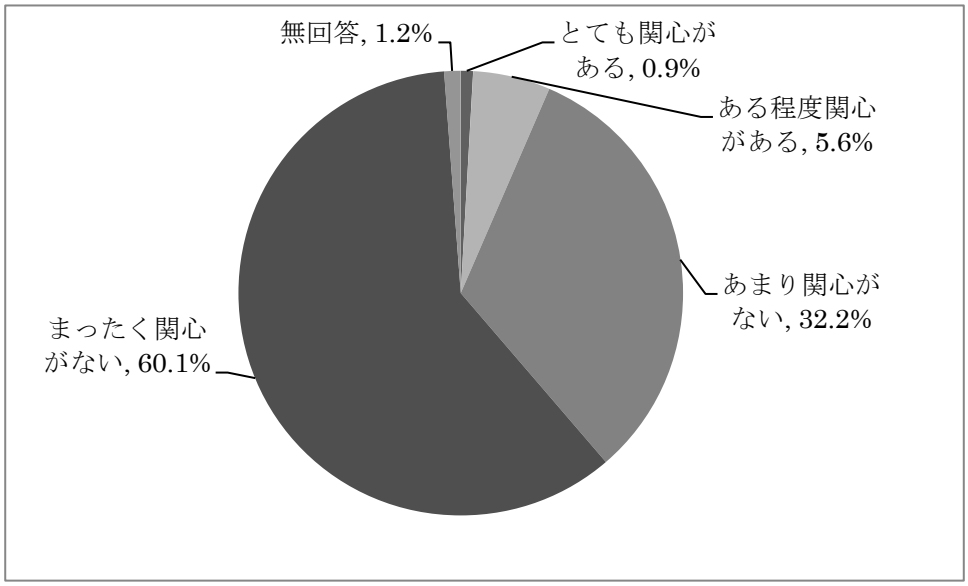
		回答者数	はい	いいえ	無回答
性別	男性	147	3.4%	95.9%	0.7%
	女性	192	1.6%	95.8%	2.6%
年齢	20～30 代	70	—	100.0%	—
	40～50 代	153	3.9%	94.8%	1.3%
	60 代以上	115	1.7%	94.8%	3.5%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム教への関心の度合い（Q25）

ここでは、イスラム教への関心の度合いについてみていく。図表 6-5 は、全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に「全く関心がない（60.1%）」、「あまり関心がない（32.2%）」、「ある程度関心がある（5.6%）」、「とても関心がある（0.9%）」となっており、「関心がない」と回答したグループで、全体の 9 割以上を占める結果となっている。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-6 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-5　イスラム教への関心の度合い（Q25）



図表 6-6　イスラム教への関心の度合い（Q25）

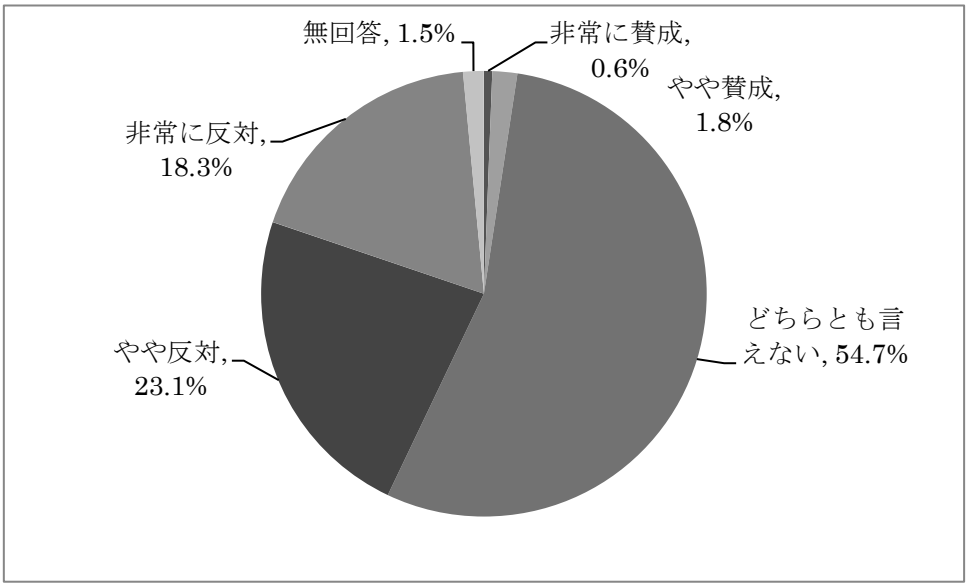
		回答者数	とても関心がある	ある程度関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	無回答
性別	男性	147	1.4%	7.5%	32.7%	57.8%	0.7%
	女性	192	0.5%	4.2%	32.3%	61.5%	1.6%
年齢	20～30代	70	—	8.6%	35.7%	55.7%	—
	40～50代	153	1.3%	4.6%	33.3%	59.5%	1.3%
	60代以上	115	0.9%	5.2%	28.7%	63.5%	1.7%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

ムスリムの受け入れに対する賛否（Q26）

ここではムスリムの受け入れに関する賛否についてみていく。図表 6-7 は、全体の集計結果を示したものである。回答の多い順に、「どちらとも言えない（54.7%）」、「やや反対（23.1%）」、「非常に反対（18.3%）」、「やや賛成（1.8%）」、「非常に賛成（0.6%）」となった。賛否を保留する回答者が過半数を占める結果となり、次いで「反対」とする回答が続く結果となった。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-8 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-7　ムスリムの受け入れに対する賛否（Q26）



図表 6-8　ムスリムの受け入れに対する賛否（Q26）

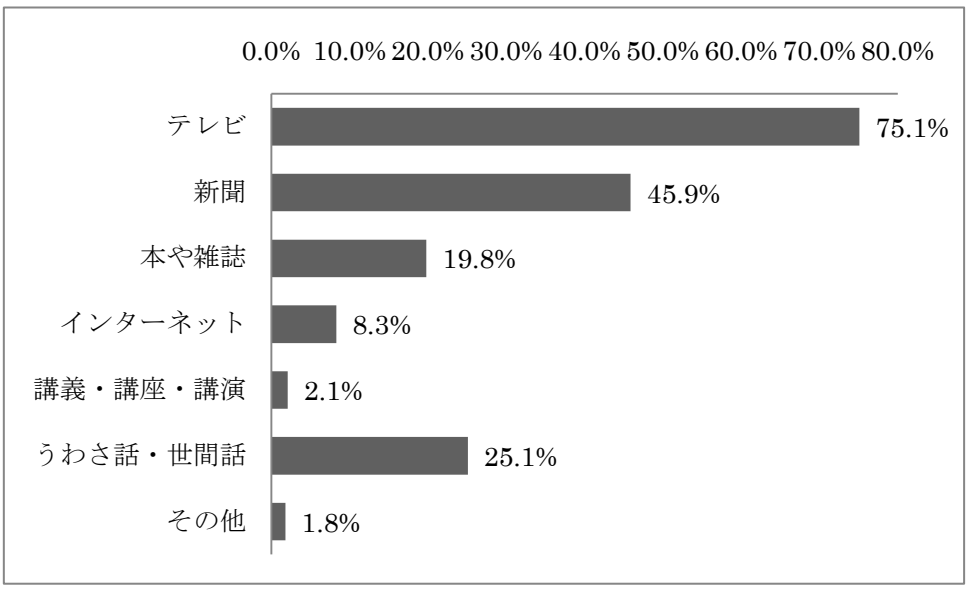
		回答者数	非常に賛成	やや賛成	どちらとも言えない	やや反対	非常に反対	無回答
性別	男性	147	0.7%	1.4%	51.7%	29.3%	15.6%	1.4%
	女性	192	0.5%	2.1%	57.3%	18.2%	20.3%	1.6%
年齢	20～30 代	70	—	5.7%	61.4%	20.0%	12.9%	—
	40～50 代	153	1.3%	0.7%	57.5%	21.6%	17.0%	2.0%
	60 代以上	115	—	0.9%	47.0%	27.0%	23.5%	1.7%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム教に関する情報の情報源（Q27）

ここでは、イスラム教に関する情報をどのようなソースから得ているかについてみていく。図表 6-9 は、全体の集計結果を示したものである（複数回答）。回答の多い順に見ると、「テレビ（75.1%）」、「新聞（45.9%）」、「うわさ話・世間話(25.1%)」、「本や雑誌（19.8%）」、「インターネット（8.3%）」、「講義・講座・講演（2.1%）」、「その他（1.8%）」となっており、「新聞」、「インターネット」、「講義・講座・講演」において年齢による有意差が確認される。

図表 6-9　イスラム教に関する情報の情報源（Q27）



図表 6-10　イスラム教に関する情報の情報源（Q27）＜複数回答＞

		回答者数	テレビ	新聞	本や雑誌
性別	男性	147	76.2%	50.3%	22.4%
	女性	192	74.5%	42.2%	17.7%
年齢	20～30 代	70	74.3%	35.7%	17.1%
	40～50 代	153	75.8%	41.8%	19.6%
	60 代以上	115	74.8%	57.4%	21.7%

		インターネット	講義・講座・講演	うわさ話・世間話	その他
性別	男性	9.5%	2.7%	20.4%	1.4%
	女性	7.3%	1.6%	28.6%	2.1%
年齢	20～30 代	22.9%	7.1%	27.1%	1.4%
	40～50 代	6.5%	0.7%	24.8%	3.3%
	60 代以上	1.7%	0.9%	24.3%	―

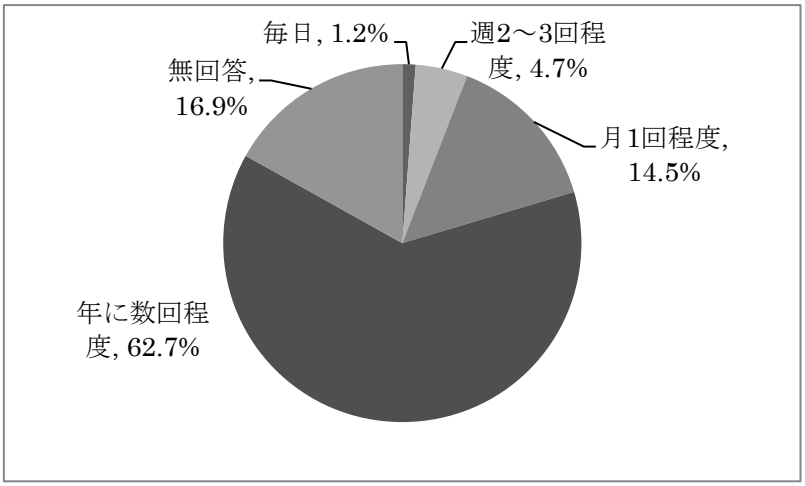
（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

（注 2：網掛けは Pearson のカイ二乗検定で有意差のあるもの（P＜0.05））

イスラム教に関する情報への接触頻度（Q28）

ここでは、イスラム教に関する情報へ接触頻度についてみていく。図表 6-11 は全体の集計結果を示したものである。選択肢中最も頻度の低い「年に数回程度」が全体の 62.7%を占め、「月 1 回程度（14.5%）」、「週 2~3 回程度（4.7%）」、「毎日（1.2%）」が続く結果となった。

図表 6-11　イスラム教に関する情報への接触頻度（Q28）



なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-12 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-12　イスラム教に関する情報への接触頻度（Q28）

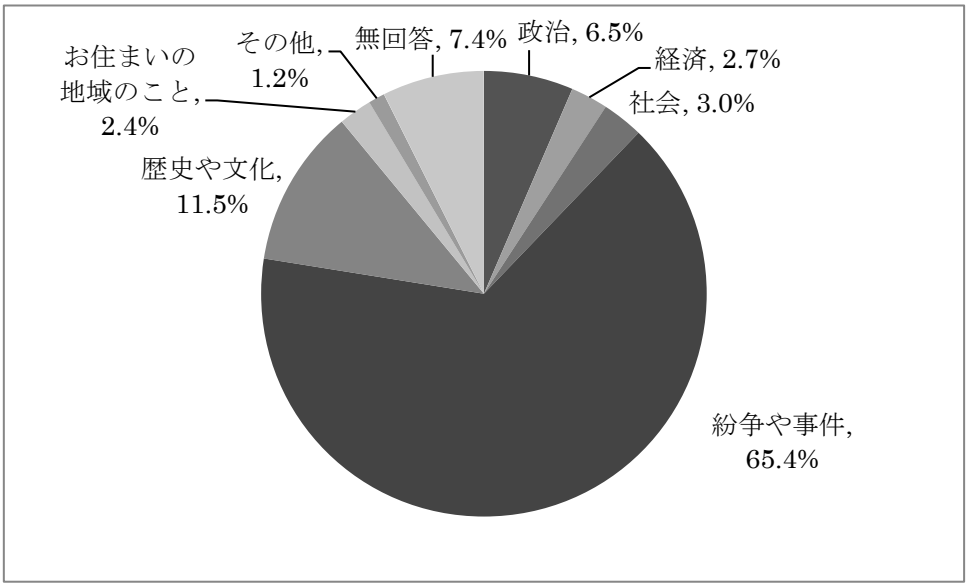
		回答者数	毎日	週 2～3 回程度	月 1 回程度	年に数回程度	無回答
性別	男性	147	1.4%	4.8%	21.8%	57.8%	14.3%
	女性	192	1.0%	4.7%	8.9%	66.7%	18.8%
年齢	20～30 代	70	1.4%	2.9%	15.7%	71.4%	8.6%
	40～50 代	153	1.3%	3.9%	17.0%	66.7%	11.1%
	60 代以上	115	0.9%	7.0%	10.4%	52.2%	29.6%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

最もよく耳にするイスラム教にかかわる内容（Q29）

ここでは、イスラム教に関して回答者が耳にする内容についてみていく。図表 6-13 は、全体の集計結果を示したものであるが、「紛争や事件」が 65.4%を占め、「歴史や文化（11.5%）」、政治（6.5%）」、「社会（3.0%）」、「経済（2.7%）」、「お住まいの地域のこと（2.4%）」、「その他（1.2%）」と続いている。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-14 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-13　最もよく耳にするイスラム教にかかわる内容（Q29）



図表 6-14　最もよく耳にするイスラム教にかかわる内容（Q29）

		回答者数	政治	経済	社会	紛争や事件
性別	男性	147	5.4%	2.7%	3.4%	72.1%
	女性	192	7.8%	2.6%	2.6%	59.9%
年齢	20～30 代	70	5.7%	4.3%	2.9%	57.1%
	40～50 代	153	5.9%	3.3%	3.3%	69.3%
	60 代以上	115	7.8%	0.9%	2.6%	65.2%

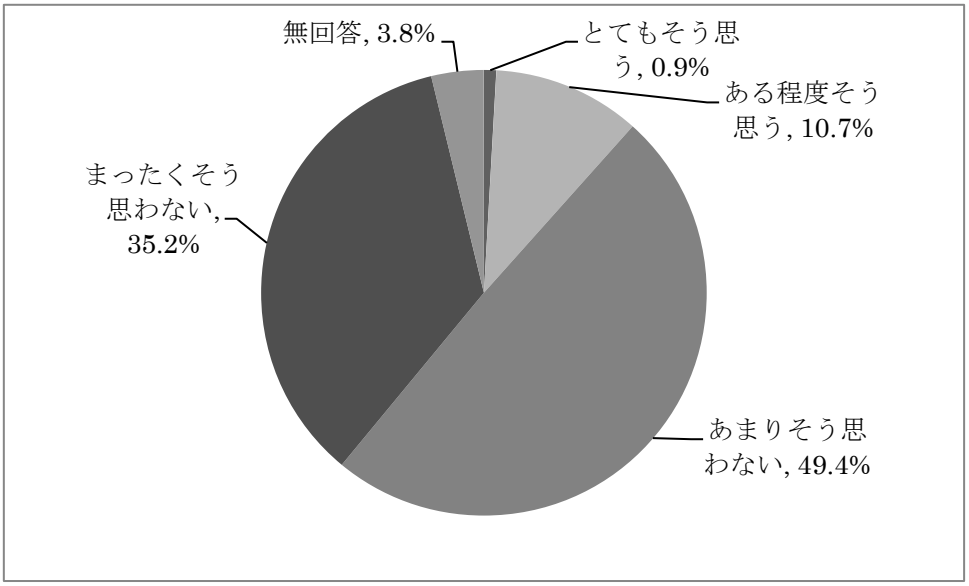
		歴史や文化	お住まいの地域のこと	その他	無回答
性別	男性	8.2%	0.7%	1.4%	6.1%
	女性	14.1%	3.6%	1.0%	8.3%
年齢	20～30 代	20.0%	2.9%	2.9%	4.3%
	40～50 代	11.1%	1.3%	0.7%	5.2%
	60 代以上	7.0%	3.5%	0.9%	12.2%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

ムスリムとうまく付き合えるか（Q30）

ここではムスリムとの付き合いについてみていく。図表 6-15 は全体の集計結果を示したものである。「ムスリム（イスラム教徒）とうまく付き合えると思いますか」という質問に対する回答は、割合の高い順に、「あまりそう思わない」49.4%、「まったくそう思わない」35.2%、「ある程度そう思う」10.7%、「とてもそう思う」0.7%となった。「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計は 84.6%、「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の合計は 11.6%となっており、「そう思わない」回答者の方が圧倒的に多いという結果になった。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-16 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-15　ムスリムとうまく付き合えるか（Q30）



図表 6-16　ムスリムとうまく付き合えるか（Q30）

		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	0.7%	14.3%	48.3%	34.0%	2.7%
	女性	192	1.0%	7.8%	50.5%	35.9%	4.7%
年齢	20～30 代	70	—	22.9%	48.6%	24.3%	4.3%
	40～50 代	153	1.3%	8.5%	53.6%	32.0%	4.6%
	60 代以上	115	0.9%	6.1%	44.3%	46.1%	2.6%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム教に対するイメージ（Q31）

Q31 の一連の質問項目は、9 つのイスラム教ないしイスラム教徒に関連する意見について、それぞれどう思うかを、4 段階の尺度（1.とてもそう思う、2.ある程度そう思う、3.あまりそう思わない、4.まったくそう思わない）で問うたものである。

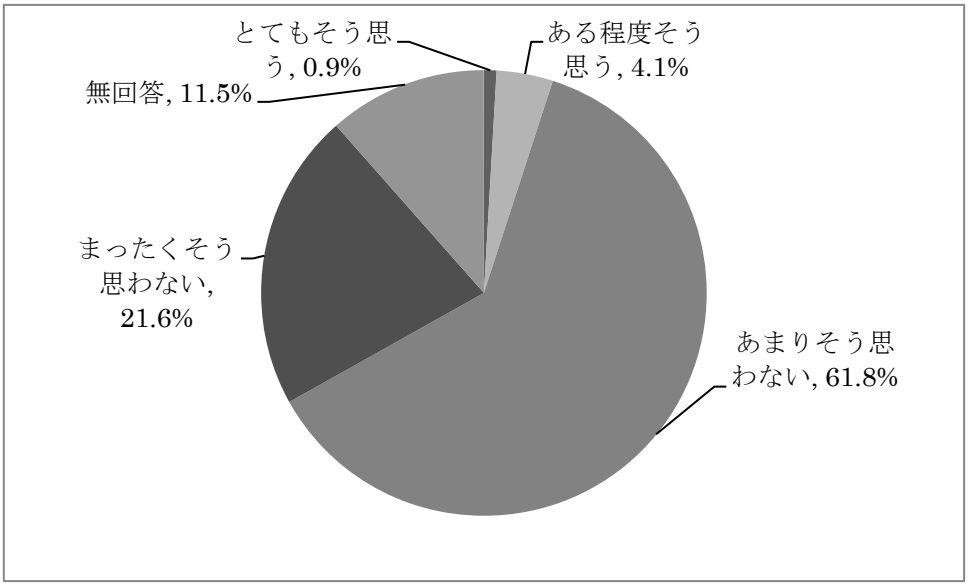
以下ではそれぞれの意見について、集計結果をみていく。

イスラム教は先進的な教えである（Q31-A）

まず、「イスラム教は先進的な教えである」という意見に対する回答をみていく。図表 6-17 は全体の集計結果を示したものである。回答割合の高い順に、「あまりそう思わない」61.8%、「まったくそう思わない」21.6%、「ある程度そう思う」4.1%、「とてもそう思う」

0.9%となった。「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の合計が 5.0%、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計が 83.4%で、「そう思わない」回答者が圧倒的に多くなっている。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-18 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-17　イスラム教は先進的な教えである（Q31-A）



図表 6-18　イスラム教は先進的な教えである（Q31-A）

		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	—	5.4%	63.9%	21.8%	8.8%
	女性	192	1.6%	3.1%	60.4%	21.4%	13.5%
年齢	20～30 代	70	2.9%	4.3%	65.7%	22.9%	4.3%
	40～50 代	153	0.7%	3.9%	62.7%	22.2%	10.5%
	60 代以上	115	—	4.3%	58.3%	20.0%	17.4%

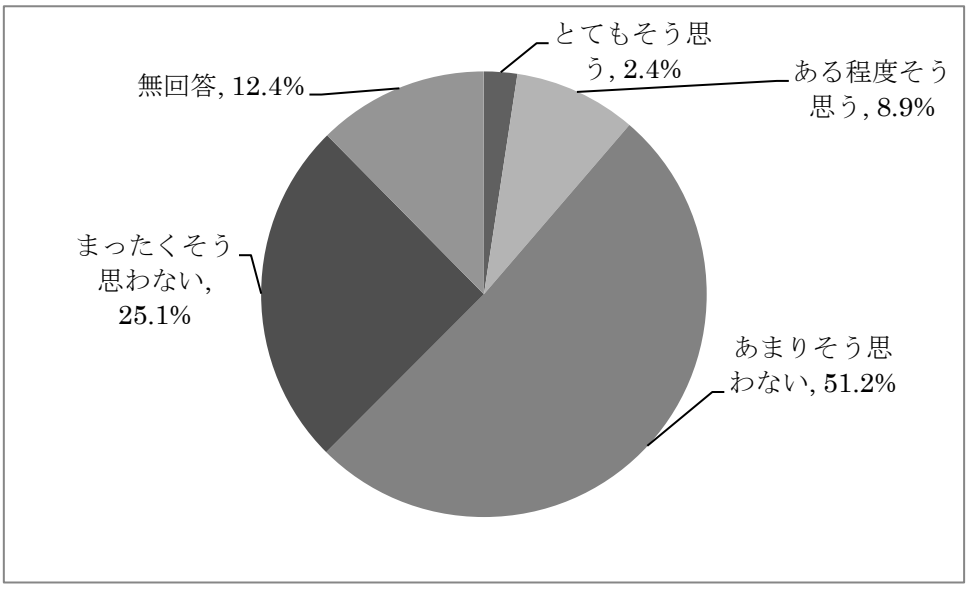
（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム教は寛容な宗教である（Q31-B）

ここでは「イスラム教は寛容な宗教である」という意見に対する回答をみていく。図表 6-19 は全体の集計結果を示したものである。回答割合の多い順に、「あまりそう思わない」51.2%、「まったくそう思わない」25.1%、「ある程度そう思う」8.9%、「とてもそう思う」2.4%となった。「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の合計は 11.3%、「あまりそう思

わない」「そう思わない」の合計は 76.3%となっており、「そう思わない」回答者が圧倒的に多いという結果になった。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-20 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-19　イスラム教は寛容な宗教である（Q31-B）



図表 6-20　イスラム教は寛容な宗教である（Q31-B）

		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	2.0%	10.9%	51.0%	25.9%	10.2%
	女性	192	2.6%	7.3%	51.6%	24.5%	14.1%
年齢	20～30 代	70	1.4%	8.6%	61.4%	22.9%	5.7%
	40～50 代	153	2.0%	7.8%	52.9%	25.5%	11.8%
	60 代以上	115	3.5%	10.4%	42.6%	26.1%	17.4%

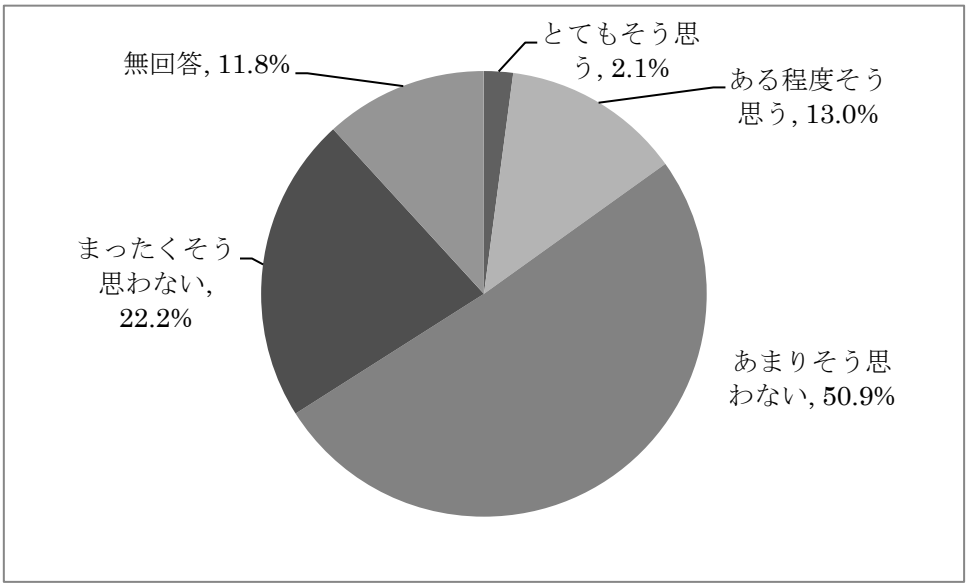
（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム教は平和を重んずる宗教である（Q31-C）

ここでは「イスラム教は平和を重んずる宗教である」という意見に対する回答をみていく。図表 6-21 は全体の集計結果を示したものである。回答割合の高い順に「あまりそう思わない」50.9%、「まったくそう思わない」22.2%、「ある程度そう思う」13.0%、「とてもそう思う」2.1%となった。「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の合計は 15.1%、「あまりそう思う」「まったくそう思わない」の合計は 73.1%で、「そう思わない」回答者の方

が圧倒的に多いという結果になった。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-22 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-21　イスラム教は平和を重んずる宗教である（Q31-C）



図表 6-22　イスラム教は平和を重んずる宗教である（Q31-C）

		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	1.4%	13.6%	52.4%	23.8%	8.8%
	女性	192	2.6%	12.5%	50.0%	20.8%	14.1%
年齢	20～30 代	70	2.9%	17.1%	52.9%	22.9%	4.3%
	40～50 代	153	1.3%	10.5%	54.2%	21.6%	12.4%
	60 代以上	115	2.6%	13.9%	45.2%	22.6%	15.7%

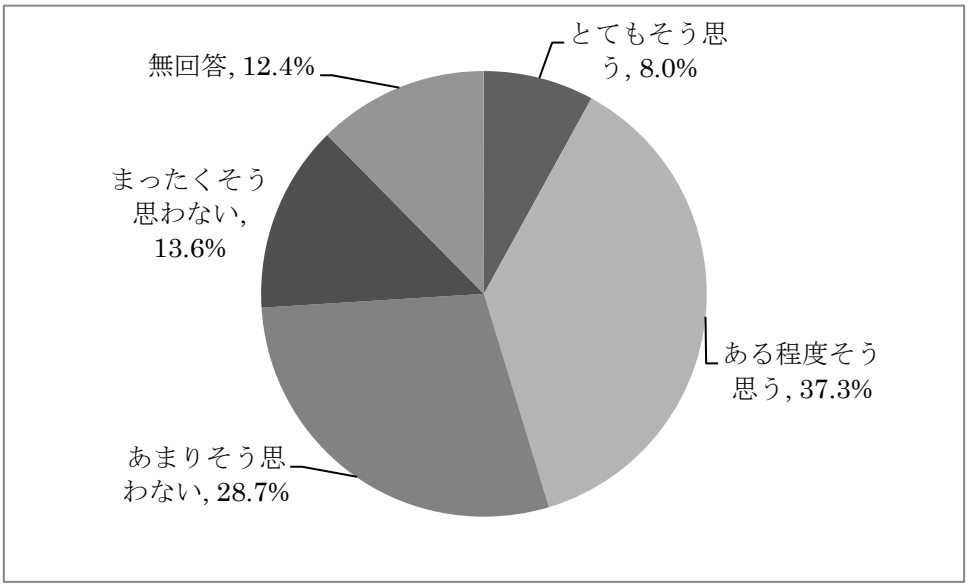
（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム教は家族を大切にする宗教である（Q31-D）

ここでは「イスラム教は家族を大切にする宗教である」という意見に対する回答をみていく。図表 6-23 は全体の集計結果を示したものである。回答割合の高い順に、「ある程度そう思う」37.3%、「あまりそう思わない」28.7%、「まったくそう思わない」13.6%、「とてもそう思う」8.0%となった。「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の合計は 45.3%、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計は 42.3%となっており、「そう思う」回答者のほうがやや多いという結果になった。なお、性別および年齢区分によるクロ

ス集計結果は図表 6-24 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-23　イスラム教は家族を大切にする宗教である（Q31-D）



図表 6-24　イスラム教は家族を大切にする宗教である（Q31-D）

		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	6.8%	42.9%	29.3%	11.6%	9.5%
	女性	192	8.9%	33.3%	28.1%	15.1%	14.6%
年齢	20～30 代	70	10.0%	47.1%	24.3%	14.3%	4.3%
	40～50 代	153	7.2%	34.6%	32.0%	14.4%	11.8%
	60 代以上	115	7.8%	34.8%	27.0%	12.2%	18.3%

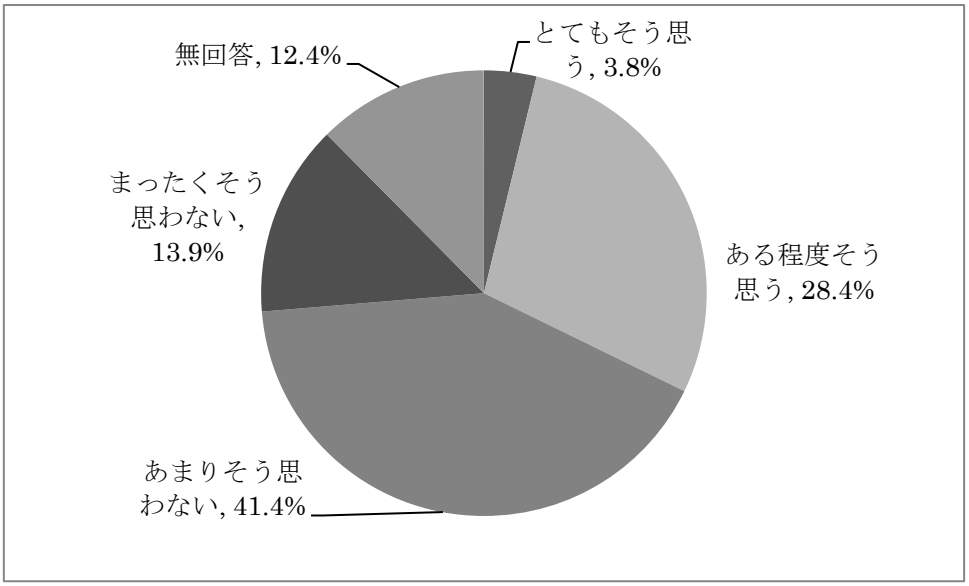
（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム社会は世界社会の重要な一員である（Q31-E）

ここでは「イスラム社会は世界社会の重要な一員である」という意見に対する回答をみていく。図表 6-25 の全体の集計結果を示したものである。回答割合の高い順に、「あまりそう思わない」41.4%、「ある程度そう思う」28.4%、「まったくそう思わない」13.9%、「とてもそう思う」3.8%となった。「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の合計は 32.2%、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計は 55.3%となっており、「そう思わない」回答者の方が多いという結果になった。なお、性別および年齢区分によるクロス

集計結果は図表 6-26 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-25　イスラム社会は世界社会の重要な一員である（Q31-E）



図表 6-26　イスラム社会は世界社会の重要な一員である（Q31-E）

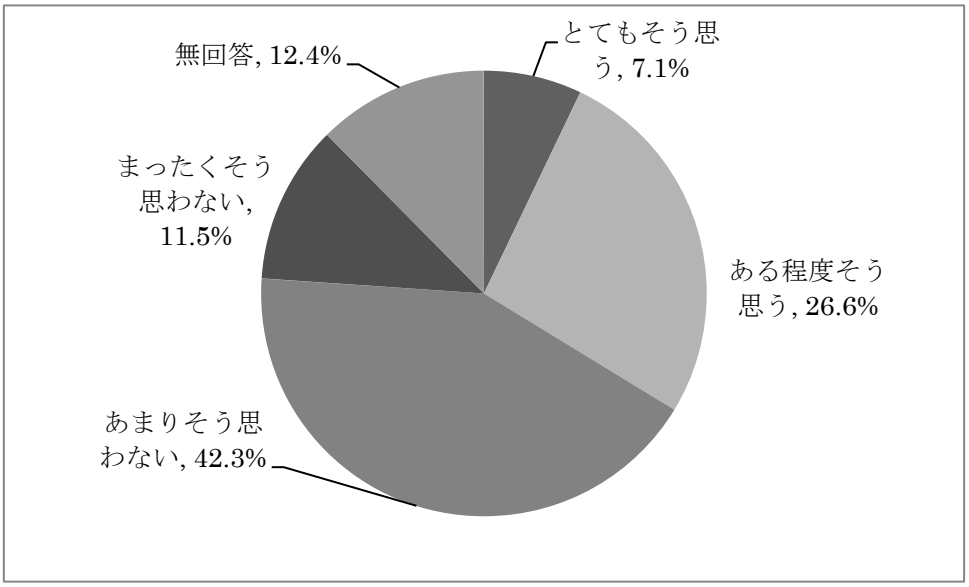
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	4.1%	28.6%	45.6%	11.6%	10.2%
	女性	192	3.6%	28.1%	38.5%	15.6%	14.1%
年齢	20～30 代	70	4.3%	35.7%	44.3%	11.4%	4.3%
	40～50 代	153	3.9%	27.5%	41.8%	15.0%	11.8%
	60 代以上	115	3.5%	25.2%	39.1%	13.9%	18.3%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム教徒は商売が上手である（Q31-F）

ここでは「イスラム教徒は商売が上手である」という意見に対する回答をみていく。図表 6-27 は全体の集計結果を示したものである。回答割合の高い順に、「あまりそう思わない」42.3%、「ある程度そう思う」26.6%、「まったくそう思わない」11.5%、「とてもそう思う」7.1%となった。「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の合計は 33.7%、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計は 53.8%となっており、「そう思わない」回答者の方が多いという結果になった。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-28 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-27　イスラム教徒は商売が上手である（Q31-F）



図表 6-28　イスラム教徒は商売が上手である（Q31-F）

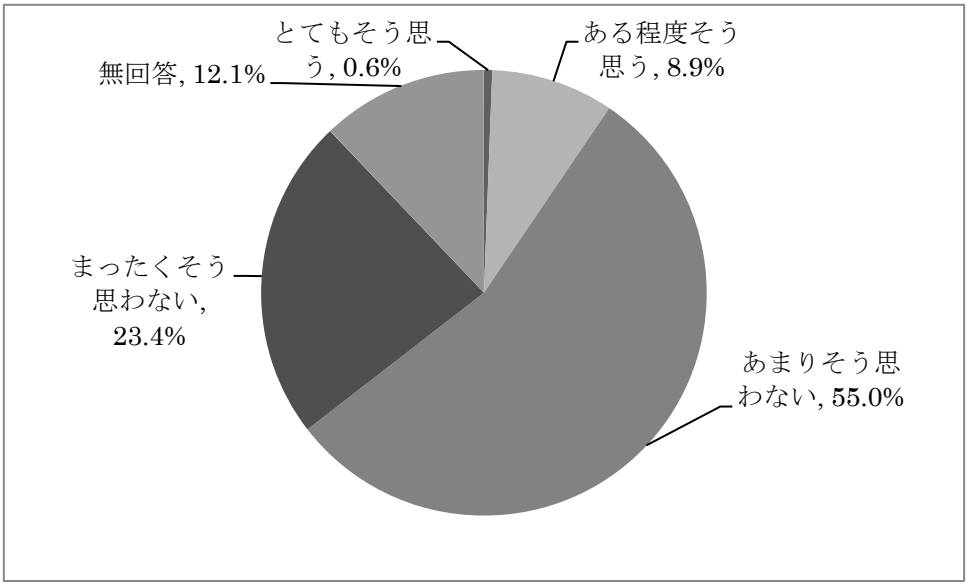
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	8.2%	30.6%	38.8%	12.2%	10.2%
	女性	192	6.3%	23.4%	45.3%	10.9%	14.1%
年齢	20～30 代	70	2.9%	28.6%	51.4%	12.9%	4.3%
	40～50 代	153	8.5%	26.1%	40.5%	13.1%	11.8%
	60 代以上	115	7.8%	26.1%	39.1%	8.7%	18.3%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム教は民主的な宗教である（Q31-G）

ここでは「イスラム教は民主的な宗教である」という意見に対する回答をみていく。図表 6-29 は全体の集計結果を示したものである。回答割合の高い順に、「あまりそう思わない」55.0%、「まったくそう思わない」23.4%、「ある程度そう思う」8.9%、「とてもそう思う」0.6%となった。「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の合計は 9.5%、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計は 78.4%となっており、「そう思わない」回答者の方が圧倒的に多いという結果になった。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-30 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-29　イスラム教は民主的な宗教である（Q31-G）



図表 6-30　イスラム教は民主的な宗教である（Q31-G）

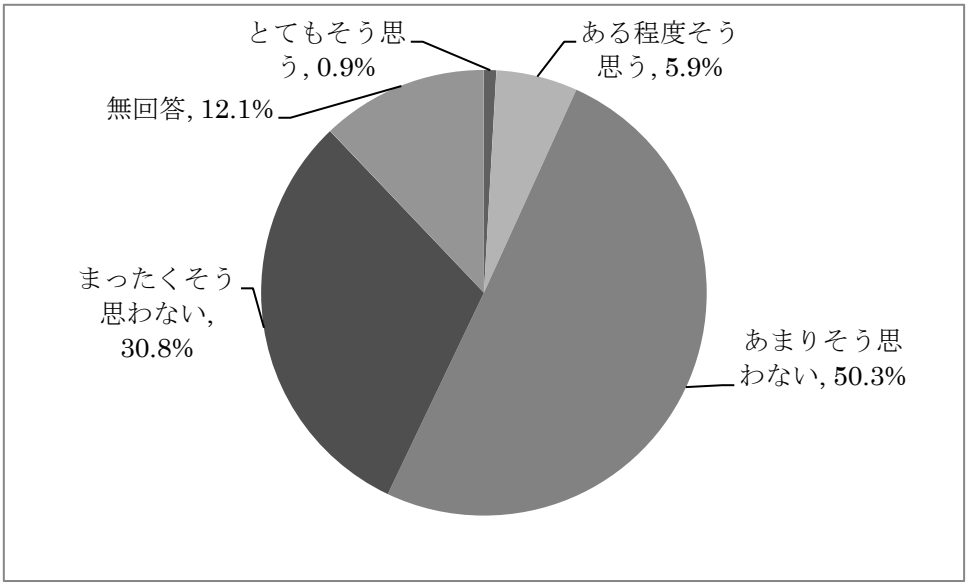
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	—	8.2%	57.8%	23.8%	10.2%
	女性	192	1.0%	9.4%	53.1%	22.9%	13.5%
年齢	20～30 代	70	1.4%	15.7%	57.1%	21.4%	4.3%
	40～50 代	153	0.7%	3.9%	59.5%	24.2%	11.8%
	60 代以上	115	—	11.3%	47.8%	23.5%	17.4%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム教は自由な宗教である（Q31-H）

ここでは「イスラム教は自由な宗教である」という意見に対する回答をみていく。図表 6-31 は全体の集計結果を示したものである。回答割合の高い順に、「あまりそう思わない」50.3%、「まったくそう思わない」30.8%、「ある程度そう思う」5.9%、「とてもそう思う」0.9%となった。「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の合計は 6.8%、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計は 81.2%となっており、「そう思わない」回答者の方が圧倒的に多いという結果になった。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-32 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-31　イスラム教は自由な宗教である（Q31-H）



図表 6-32　イスラム教は自由な宗教である（Q31-H）

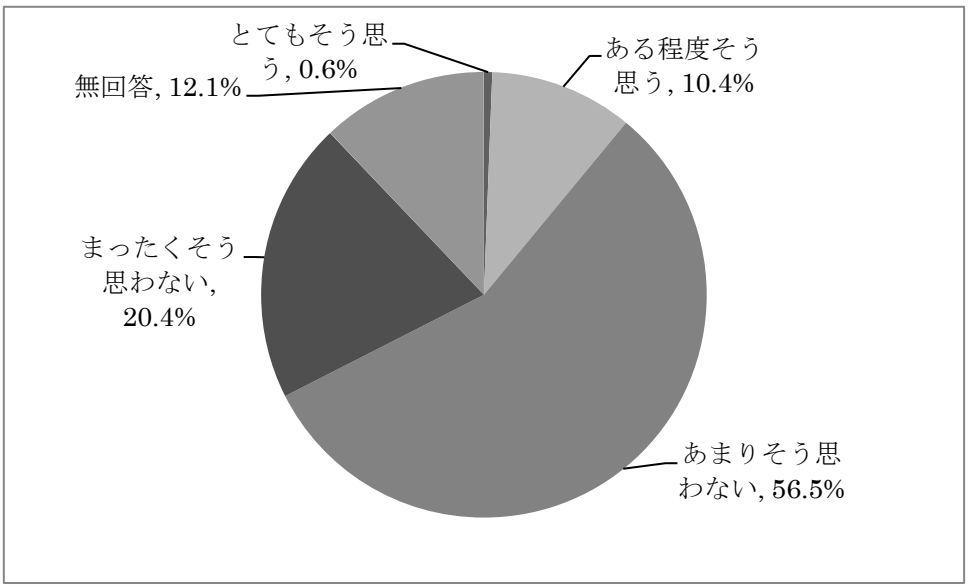
		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	—	8.2%	52.4%	29.3%	10.2%
	女性	192	1.6%	4.2%	49.0%	31.8%	13.5%
年齢	20～30 代	70	1.4%	5.7%	54.3%	34.3%	4.3%
	40～50 代	153	1.3%	5.9%	49.7%	31.4%	11.8%
	60 代以上	115	—	6.1%	48.7%	27.8%	17.4%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

イスラム教徒は社交的である（Q31-I）

ここでは「イスラム教は民主的な宗教である」という意見に対する回答をみていく。図表 6-33 は全体の集計結果を示したものである。回答割合の高い順に、「あまりそう思わない」56.5%、「まったくそう思わない」20.4%、「ある程度そう思う」10.4%、「とてもそう思う」0.6%となった。「とてもそう思う」「ある程度そう思う」の合計は 11.0%、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の合計は 76.9%となっており、「そう思わない」回答者の方が圧倒的に多いという結果になった。なお、性別および年齢区分によるクロス集計結果は図表 6-34 に示した通りであるが、項目間における有意差は確認できなかった。

図表 6-33　イスラム教徒は社交的である（Q31-I）



図表 6-34　イスラム教徒は社交的である（Q31-I）

		回答者数	とてもそう思う	ある程度そう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない	無回答
性別	男性	147	—	10.2%	61.2%	19.0%	9.5%
	女性	192	1.0%	10.4%	53.1%	21.4%	14.1%
年齢	20～30 代	70	1.4%	12.9%	64.3%	17.1%	4.3%
	40～50 代	153	0.7%	9.2%	55.6%	22.2%	12.4%
	60 代以上	115	—	10.4%	53.0%	20.0%	16.5%

（注：性別不詳 1 名、年齢不詳 2 名）

小結

本章では、地域におけるムスリム（イスラム教徒）との交流と、イスラム教およびムスリムに対する意識をみてきた。以下では、本章の結果について概観しておくこととする。

まず、ムスリムとの交流実態に関する結果についてみると、射水市に位置するモスクの存在は、過半数の 54.1%の人が知っていると回答している。しかし、「知っている」と回答した人のうち、実際にモスクを訪れたことがある人は 2.1%にとどまる結果となった。同時に、ムスリムの知人がいる回答者の割合も 2.4%にとどまり、イスラム教そのものへの関心も全体の 9 割以上が「あまり」ないし「まったく」ないと回答している。この結果自体は、仮に「ムスリム」の友人・知人がいたとして、その事実を認識していないケースも想定しておく必要があるが、いずれにしても、イスラム教ないしムスリムといったカテゴリ

ーに対しての関心の薄さの表れと見ることができる。イスラム教およびムスリムに対するイメージについては、全体的にネガティブなイメージに回答が偏る傾向が確認できる。全体としてのネガティブなイメージを反映してか、イスラム教に関する知識習得や、受け入れや付き合いに関しても、消極的な回答が多く得られる結果となった。

イスラム教に関する情報摂取のソースについては、テレビや新聞といったメディアからの情報を多く得ていることが特徴としてあげられ、「新聞」、「インターネット」、「講義・講座・講演」において年齢による有意差が確認された。また、「うわさ話・世間話」が高い割合を占めた点は特徴的である。本選択肢は 2009 年に実施した岐阜県岐阜市における同名の調査においては投入されていなかった選択肢であるが、初めて投入された今回の調査では、高い回答割合を示す結果となった。本調査では、ムスリムとの交流の実態は非常に低い値にとどまっているが、個人として、直接的な関わりあいや生活圏の接触はなくとも、地域の中で何らかの話題に上る存在であろうことが推察される。これに関しては、自由連想法に基づく自由記述設問における回答の中で、地域におけるムスリムの生活の姿が、イスラム教／ムスリムのイメージとして連想されている事例が見受けられる点とも併せて更に考察する必要があるだろう。

参考資料

参考資料として、調査票の最後に設けた自由回答欄（身近な外国の方とのおつきあいの中で良かったこと、あるいは困ったこと、および、本調査に関するご意見・ご要望などを記入していただいた）に寄せられた回答を掲載する。誤字・脱字の修正や文意をつたえるために書き直しや削除を行った部分もある。なお、「外国人とのつきあいはない」等の単純な回答については、割愛した。

（1）身近な外国の方とのおつきあいの中で良かったこと、あるいは困ったことなどありましたら、どのようなことでも結構ですので、お教えください。

【回答】

地域にゴルフ練習場が存在していたが、数年前に倒産し経営者がいなくなり、経緯はわからないが、中古車販売を実施する外国人がコンテナハウスに、居住もしくは通ってくるようになり、ロシア向けの中古車販売を行うようになった。人相や顔形の異なる人が町内のあまり広くもない道路を行き交うようになりとまどいがある。犯罪等が発生しないように祈っている。売り手はパキスタン人が多いようだ、買い手はロシア人が多い。
ブラジル系の方が町内、小学校にいますが会話があまり通じません。こどもは日本語が上手ですが。日本人も幼少期から英語を公用語にするべきだと思う。射水市は中古車の販売が多く、車にナンバーを付けずに走っている事もあり、危険を感じることも多々あります。日本に住む外国人にもルールをしっかり伝える様働きかけてほしい。
友だちの妻が外国人で、仕事でお世話になったり、子供が生れたときプレゼントをくれたりしました。困ったこととしては、保育園の送迎の時のルールを破る人（外国人）がいて、説明してもきいてもらえなかった。
外国人の方とは、色々他国の文化にもふれる事ができ、良い事もあるのですが、日本におられる以上は、日本の文化等しきたりにそって生活して頂きたいと思います。
近所にムスリムが住んでいます。友人たちが来て、さわいだり、路上駐車したり迷惑しています。日本語がわからず、説明してもわかってもらえません。警察に連絡したことがありますが、どうにもならなかった。
近所にパキスタンの中古車販売所があります。度々、色々な事でトラブルが絶えない。車の運搬大型キャリー車の長時間駐車（路上）、夜間の搬出搬入等の騒音、環境悪化（雑草の放置、ゴミの放置）など。直接何度か話しに行ったが、日本語が分からないと、話し合いにならない状態。何度かパトカーに来てもらったこともある。近所の人は、誰も

この場所に近づかないようにしている。まずは、ルールを守ってから、この地に来て欲しい。
やさしくて友だちになりたいと思った事があるが、やはり本心は分からないので、こわくて近づけなかった。中にはマナーの悪い人がいるのに、外国人同士でかばい合うのが特徴です。車をあて逃げされたのに、警察でさえも見つける事ができなかった。（私の車は廃車せざるを得なかった）
稲積地区のクリーン作戦の時、今まで以上に、テレビやゴミが道ばたに捨てられているような気がしてなりません。人としてマナーを守るべきだと考えてやみません。世界中が変革の時代を迎えている気が致します。近代化になればなるほど、もっと物事を真剣に考え、もっと重みのある人間社会を築いてゆくべきです。団塊世代の私達にもその責任が多いにあるような気がしてなりません。質も量も低下する人ばかりで、うんざりです。
私の住んでいる地域ではロシア人やパキスタン人が多く、中古車を輸出している様です。あまり実態がよく分からないので、恐いイメージが昔からあります。私は英語圏に留学していた経験がありますが、それらの白人とはまた違った「外国人」と捉えています。英語を話せるのかも不明で、おそらく片言の日本語しかしゃべれないのでは、と思います。日本のマナーをあまり把握していないと思われる点から、あまり関わりたくないです。
おつきあいはしていないのですが、子供がいると日本人以上に車を徐行してくれたり、やさしく様子を見守ってくれます。とてもうれしいです。
国道 8 号線があり、日本海に近く、2007 年（平成 19 年）頃は射水に外国人中古車バザールが出来（今日は少しすくなくなった）、「ロシア街道」「パキスタン村」と呼ばれたほどでした。私達も外国人に関する知識が少なく、言葉の問題、生活環境・生活習慣の違い等（ゴミ捨ての事）、治安が悪く事件（外人間で）もあり、住民は自転車、車のタイヤ、農道の被害、食べもの（野菜等）の被害があり、困った事がありました。自治会、町内会でセーフティーゾーンパトロール隊が出来、外国人との話し合いの場があった様です。子供達も学童パトロール隊が出来、今日では中古車の数も少なくなり安定している様です。
私自身は外国の方とのおつきあいはありませんが、息子が中学生の時の英語の先生がアメリカ人でとても良い方でした。親切にていねいに英語を教えてもらいました。現在大学生ですが、外国人の学生は比較的温和だと言っています。私の近所には外国人は住んでいませんが、射水市にはたくさんの外国人が住んでいます。交流の機会があればイベントや活動に参加してもいいと思います。

意外と社交的な方がおられると最近知った。あいさつもしっかりされる。日本語の勉強もされているので印象が変わった。以前のコーラン破り事件のように日本人の宗教に対する意識の軽薄さが対立を生む。日本人ももっと勉強すべきとは思うが、外国人の方々も、郷に入りては郷に従う。日本の中であると思えば適応して欲しいと思う事もある。
ゴミ出しなどといった具体的なことなどはイメージとして、欧米系の方は良いイメージですが、アジア系はちょっとというイメージがあるのではないでしょうか。
身近に外国人の方がいないので特にないのですが、以前勤めていた時に、言葉でうまく伝わらず誤解を招いた事があり、難しさを痛感したことがあります。今回のアンケートに答えてみて、いかにイスラム社会のことをよく知らないかということがわかりました。
私が知り合ったのは少しの期間（ママ）です。（米、カナダ、オーストラリア、イギリス、スロベニア、ネパール） イスラムは買物で見て少し話したのみ。印象は悪くないと思う。どの国も同じに受け取っています。日本に居住するなら国でキチンと（色々な面で）するべき。
外国の方は、日本人と比べて自己主張がとても強いです。
子どもの同級生の外国人の親にうまく話しかけられなかった。
マスメディアから得る情報と、外国人から得た情報との差により、自分の中の偏った見方が修正されたこと。文化の違いによりトラブル（内輪もめ）がある。聞き入れてもらえない。歩みよろうとしても、自分の意見を通される。
だいぶ前ですが、自宅の近所に外国人が住んでいました。そして、しばらくしてから殺人事件があって、その外国人がかかわっているといううわさが立ち、こわい思いをしたことがあります。今は外国人は住んでいません。なので、外国人に対しては、いやなイメージを持っています。
子供の保育園で外国の子との触れあいがあり、小さい頃からの関わりあいがあることで、人種差別をしない子になれるのは良い事だと思う。
走行中、車が急にガタガタ音がしてパンクだと気付き、路肩に車を止めたところ、すぐ近くで自動車の商売をしている外人の方がさっと出て見えて、パンクをしたタイヤを入替えてもらいました。大変感謝しています。言葉もカタ言の日本語でしたが、なんとか分かりあえて凄く嬉しかったです。
いろんな文化を知ることができる。いろんな考えを知ることができる。言いたいことが通じない。
周辺に中古車業者が多く、客の外国人が多数、港から自転車で来ていた頃、強盗等事件が発生し、それが子供の通学路だったので困った。中古車業者の近くに車を停車しただけで車の部品を盗んだと勘違いされ、自宅まで来られた。日本語が通じず、外国語の

できる警察官が間に入り、助かった。
ゴミを道路や川に捨てる人が多い。（マナーが悪い）
都合の良い事はペラペラと日本語で話し、都合の悪い時はノーノーわからないと言う。空き缶、弁当ガラのポイ捨てには困ります。私達農家は片付けに困ります。
高校生の時の姉妹校交流がきっかけで外国人ともあまり肩をはらずに交流できるようになり、自分の中の世界も広がり、様々な国の方と交流をしたい気持ちは強くある。おつきあいをする中で、それぞれの文化や生活、価値観の違いなど学んだり考えさせられたりすることが多く、いい経験となっている。現在はあまり交流の場がなく残念。また、近くの外国人が原因で事件が多くあったため、子どもは外国人との交流を怖がるようになってしまったことも残念。市でたくさんの外国人を受け入れているのだから、これからを担う子どもたちが積極的に交流でき、プラスになるような機会を作ってくれたらと思う。
車の運転での交通法規の無視が多い。（例：信号無視、一旦停止無視）このため、交通事故で死亡した友人の配偶者もいる。又、ナンバーなし、無保険車等が多数使用されている。特にイスラムの人たちは、自分達の都合だけで地元住民の生活様式を無視して、勝手に行動していると思います。もっと他人（日本的な発想かも知れないが）のことを考えて行動して欲しいものです。
以前、スナックに外国人の女性がいて、日本語が上手なので話し相手になってくれたり、カラオケを歌ってくれたことが良い思い出です。私自身、日本も国際化が必要だと思っています。外国人を隣人として思う気持ちが必要かと思います。
近所にパキスタンのグループが以前住んでいましたが、生活習慣が全く異なり、どの様に接していいのかわからなかった。中国人の通訳の方とは今も友人関係で接していますが、ジョークが全く通じなくて困ることがある。インド人の方を知っていますが、日本に良くとけ込んで日本の文化にもなじみ、いい印象をもっている。″お役に立てればうれしいです。日本の古典伝統文化（能楽）を指導するものですが、それぞれの国の文化を尊重しながら「郷に入れば郷に従え」を基本に、交流していきたいものです。それぞれの文化を大切にしていきたいと思っております。″
路上駐車禁止の場所で駐車し、警察に何度も注意されても駐車をして迷惑。時間帯を気にせず、母国の音楽を大音量で流している。車の運転が荒く、怖い。（車間を詰め過ぎ）インドカレーとナンをもらった。美味しかった。
外国人と朝、生ゴミ出しにトラブルがおこる。

パキスタン人に車をぶつけられました！日本語がしゃべれなくて困りました！
町内の回覧板をまわしても日本語が読めず、その人は会社へ持って行ってブラジル人（ポルトガル語）に聞いてまわされるので、1～2 回遅れることがあった。
道で会っても相手の考えがわからないので不安。
外国人と清掃活動が一緒にできません。連絡をとり、これからは一緒にできればと思います。
私の住む地域では、外国向け中古車業者の無法で大変困っています。これまでの活動は、北日本新聞”地域再び”－6 章－“民力の鼓動　1 募る不安“　自宅裏に中古車店”に記載されています。外国人には、憤りを感じます。この地域に関心を持っていただき、感謝しています。 異文化交流について：国・県・市の指導は、異文化の交流を促進するものです。私は、一市民としては、異文化交流を望む人はすればいいし、そうでない人は異文化交流する必要はないと思います。日本国内でも、交流しない土地、人々は多くおられます。戦後の外国人は、米国、英国、仏国、独国でした。 今の外国人は、東アジアを主体にする人々に変ってきました。経済にも、宗教にも寛容性はありません。キリスト対イスラムの対立は、何千年も続いています。異文化の交流は良い面と、悪い面もあります。犯罪と病気なども入ってきます。トータル的に把握して頂きたいと思います。″
事故（交通）があっても後片付けをしない。
仕事場や作業場で道路にまで広げ、交通の邪魔になっている。
外国の方の運転マナーが悪い。スピードの出し過ぎがすごく多いです。
近くに住んでいる（元）外国人の人は、私よりも日本的考えやしつけをしておられ、町内行事にも積極的に参加しておられるので、見習うべき所がたくさんあります。事故にあった時、モスクに来ていた人に助けてもらいました。すごくありがたかったです。
近所に住んでいますが、顔を合わせるのみで会話をした事がない。
介護の職場で韓国の女性と一緒に働いています。高齢者に優しく接しておられ、儒教の教えなのかととても関心して、学ぶことが多いです。時間の感覚が日本と少し違うと感じます（15 分前出勤はできない）。地域の保育園にパキスタンの子供さんが通園しておら

れ、仲良くしておられるのを見て、ほほえましく感じられる。入園式や運動会ですら接する事ができませんが、嬉しく思われます。
異文化の外国人には日本文化及びモラルがわからないらしい。特にルール、法律はしっかり守らない。だから、だめだ！
良かった事：自分の国以外の事をいろいろと知れる。 困った事：考えが違うところ。
コンゴ出身の同僚から国内紛争について聞かされ、自身の平和な環境にいる事を知る事ができた。外国人の言葉が判らないこと。外国人労働者の待遇に差別がある事。日本人と同じ仕事を日本で行っているにもかかわらず、待遇が悪いそうです。グチを聞かされました。
中国人。親切にした分足もとを見られ、とてもずうずうしくなり、態度も変わり、目にあまる。つきあいたくない。裏切られる。グローバル化が進む中、大切だと思いますが、入国してくる外国人の無法な態度も目にあまるのに、心を通わせるには時間がかかると思います。
国道 8 号沿いに中古車を扱っている業者がある。困ったこととして、農業用水にコンビニの弁当パックがいっぱい落ちていること。業者の鉄筋で囲いのものが水田に入っていて、コンバインで稲刈り中に巻き込み、コンバインがスクラップになってしまったこと。 外国人はこなくてよい。
身近な外国の方とのおつきあいはないものの、子供の習い事（英語）で月 1 回は外国人の先生に 1 時間日本語なしで教えていただいています。その中で、その先生が住んでおられた国や生活文化などを直に教えてもらったり、聞いたりしてとても興味深い体験をさせてもらっています。外国の方と臆することなく触れあえることはいい体験だなと思っています。
大体の外国人はフレンドリーで、目が合うといつもスマイルで感じが良い。日本人には無い習慣だ。伝聞だが、富山県内の友人や知り合いが、自転車、タイヤ、ホイールなどを外国人（？）に盗まれたと聞く。
畑の野菜を仕事帰りにとっていく。夜自転車にあかりをつけず走る。外国の方が入って、一緒に過ごして交流するチャンスがあればいい。
言葉、交通ルールのいきちがいが多々あります。

異国の文化や教育など、直接聞けたのが楽しい。良い事はどんどん取り入れたいと思いました。
数年前、妻がパキスタン人と交通事故に遭い、後の処理に困った。
ある家にロシア人の方が嫁いで来られました。子供も近くの学校に入り、普通に生活しておられます。先日、住民運動会があり、初めて話しました。とてもうれしいと感じました。日本語も上手で、漢字もわかるそうです。もっと親しくなりたいと思いました。
習慣が違いすぎて、説明してもわかってもらえない事が多い。幼稚園の時にも外国人がクラスに必ず 1 人いたのですが、PTA に関しては理解してもらえず、協力してもらえず困りました。PTA に関して、ブラジル系はかなり親密な交流が可能だが、イスラム系は男女間の話し合い等、交流は絶対にできないと思います。
息子（二男）が小学校の時にブラジル人の同級生がいて、何度か遊びに来た事があったのですが、サッカーがとても上手で明るく、日本語も覚えるのがとても早く、息子も楽しかったようです。ですが、時間にルーズで、集団登校は毎朝迎えに行っていました。先生から頼まれた事でもありましたが。それぞれの生活習慣を知るにはよかったのかとは思います。
モスクに参る人はルール無視が多い。信号無視や、農道でも平気でスピードを出す。物はどこにでも捨てる。車の運転は乱暴。
生活習慣の違いで、食の違いで困った。
言葉の問題があり、交流がとれない。
外国の子供が日本語で「こんにちは」とあいさつしてくると、あたたかい気持ちであいさつできる。外国の大人の方は無表情で怖いし、大人の方からあいさつはない。住民からすれば外国人が何処に住もうが関係ないのですが、夜ガヤガヤと集まったり、犯罪などからむと近くにいてもらいたくない。迷惑をかけなければ良いと思いますが。
外国人による盗難があり、また外国人同士の事件等もあり、治安が悪くなる。
職場に数名の外国の男女がいるので、一般の人と比べると多少なりとも交流があるので、違和感なく日常生活を送っています。
文化の違いかな？外に置いてある物は、自転車、はしご、なんでも無くなる。注意しても、ハイ、スミマセン。場合によっては、あちら語になる。日本人はお人好しだから馬鹿にされるんですね、どうにもなりません。

ほとんどつきあいはありませんが、毎日の生活上ゴミ出しとか、又、外国の方の所へその友人が集まり、静かな住宅がすごい騒がしい。
中古車販売で、一般道でナンバーなしの車が少しの距離でも走行している。事故の場合の責任は？日本人の体格、骨格は小さい。外国人は大きい為、基本的に下から目線となってしまう。余裕がある場合ならいいが、生死に関わる事や余裕のない時は、秩序が乱れてしまい、力で負けてしまうと思う。小さい者は小さい者のルールでしか生きられないと思う。
近くに中古車店が多く、近所とのトラブルが以前は多かったです。路上に長時間車を停めたり、最近はかなり少なくなりました。ただ、花火をしに夜の公園に行ったりすると、10～20 人位の集団でパキスタン系の方がいらっしゃると、少し怖いです。あと、近くの中国人やブラジル人の方のゴミの出し方等、地区の出し方とは違い、話をしてもらっても都合が悪い時は日本語がわからないふりをされ、今でも困っています。
近くにロシア人の方が住んでおられますが、日本語がとても上手で、村の行事にも積極的に参加しておられて感心しています。私よりも日本語が上手です。
車屋さんが多く、なんとなくこわくて言葉も通じなく、話もする事がない。
治安の悪さ。不法投棄。子供が心配になる。
外国人には交通ルールを守ってほしい。乱暴な自動車運転は控えてほしい。
調査の対象地区に住む外国人は、中古車の販売等で商売を目的として来ています。従って、その他の目的で来ている人達とはまったく意識が違います。商売上のゴミ、生活のゴミ…地域の自然がまったく荒れ果ててしまいました。ロシアが関税を引き上げたことで、引き上げて行くロシア人もいて、少しは外国人の姿は少なくなりましたが、まったく過ぎ去った跡地は無残なものです。
外国の方とのつきあいがありません。
一日に 5 度のおまいり、週に一回モスクでのおまいり。いいのか、わるいのか、日本人にはまねの出来ない事。どうして津幡江にモスクがある事がわかったのか。隣のガソリンスタンドも土地を売買したようだ。モスクは宗教法人になっているが、どうしてなったのか？
明確な証拠はありませんが、明らかに治安が悪くなったと思う。子供を外で遊ばせられない。同地区に住み続ける自信がなくなった。
職場に中国人、ブラジル人がいるので、外国の事がわかる。

ゴミの処理について全く日本人と違っている。ゴミの放置が目立ち、片付けということがない。
近所に飲食店を営んでおられる方がおり、異国での商売であるにも関わらず、しっかり商売されている様子を見、いつも感心している。
ゴミ当番をしないがゴミを出す。車の騒音がうるさい。 回覧板をチェックしない。清掃に出てこない。
ムスリムの方とは一切交流はありません。モスクへの朝夕のお祈りに集合されるために歩いておられる姿は集団的で、何も知らない者にとって少し驚異的に感じる時もあります。私の偏見でしょうか。
バーベキューのお裾分けをもらった。
良かったことは何もありません。地域内に今も中古車販売の店舗があります。一晩中エンジンの音、車から出るガソリンの流出で水田に悪影響。農道は我がもの顔で走り穴だらけ、まわりにはゴミが散乱し不衛生。市、県に話しかけても明確な返答が得られません。治安も悪く、夜は外へ出られませんでした。どこの国でも、どんな事にもルールがあります。これらを守らなければ共存はできません。日本人も日本の文化、習慣をキチンと教えるべきです。
職場での十年間程のおつきあいですけど（ブラジルの方）やさしいいし思いやりがあり、楽しく仕事をさせて頂いています。
地区には何ヶ国かの方々が居住、また滞在しておられる様で、生活習慣の違いからか、道路の無断・迷惑駐車が一時期多発、道路標識の見落としにより一旦停止を忘れたり、衝突事故、又、保険未加入の為補償の泣き寝入りなど、身近で聞いたことがあります。ただ、勤務先で出会う留学生の方々は、食品を購入される際、材料に豚肉が混入されていないか熱心に尋ねられます。あいさつも言葉遣いも、丁寧かつキレイでした。ロシアの船員の方々も、奥様が日本の化粧品を求められることが多く、話せなくても賢明に説明したら喜んでくださったことも嬉しかった事として記憶しております。
以前は中古車販売のプレハブが多く、路駐や住宅街を猛スピードで走行するなどの危険な事も多く、又、ロシア人が多く車を買いに来ていた頃は、強盗などの犯罪も多く、実際、近所では外国人に夜中、車上荒らしの被害にあった人もいた。（トイレに行った時、現場を見たとのこと）
母が犬と散歩中、狭い場所に来た時に車が止まって待っていた。日本人ならそのまま進むが。外国人は最後に「こんにちは」と声をかけて行った。母は喜んでいた。

ゴミの不法投棄、ゴミ出しのルール違反、迷惑駐車など、注意したくても言葉も通じず困る。積極的に交流しようとしてくる人もいるが、一部の人間のためにイメージが悪くなっている。
ゴミの分別が全然できていない。道で会うと笑顔で挨拶してくれる。犬を放し飼いにしている。休日は外でガンガンと大音量で音楽を流している。とにかく、私の住む地域の外国人は行儀が悪いと思います。昔に比べると中古車販売店が減ったので、それにともない外国人も減りました。自転車に乗ったロシア人も見かけません。
私の夫が外国人なので、外国人に関しては、自分自身寛容だと思います。つきあいの上で困るのは、言葉がまったく通じない場合はお手上げです。外国人が困ったことをするのは、その方の母国の習慣をそのまま日本へ持ち込んでしまう場合が多い。母国ではそれが当たり前なのです。日本ではこうします、こうすると失礼になります、と説明すれば理解してもらえる。
子供の同級生にいますが、行事や連絡事項など、親が日本語ができないためうまく伝わらない。学校側ももう少し対応してほしい。
子供の保育園に何人か外国の子供がいますが、乱暴！親のマナーも悪いし、香水くさい！
外出する際、戸締まりする習慣がついた。
近くに中古車販売業者が多数あり、そこで働く外国人の方が地域のゴミ出しなどのルールを守らないことがあり、地区の役員をしていた時に、連絡するのに困ったことがありました。また、夜間や日中に盗難事件が多発して、警察のパトロールを何回も依頼して、やっと巡回してもらえるようになりました。外国人の方がその地域で暮らす時に、例えば住民票などの手続きで役所を訪れた時などに、その地域で守らなければならないルールや暮らし方などについて講習をする時間を作るようにすれば、トラブルが少しでも減るのではないかと思います。これからアジア系の人々がもっと増えてくると思いますが、行政が積極的に暮らす方法を指導する機会を作っていかないと、外国人の犯罪が増えていくと思います。
顧客として事務所へ来て、私共への報酬を支払わず、母国へ帰って彼らの消息が分からない。報酬等についての見積りを聞いて、その額より低い金額で同業者を訪ねて、同業者から私に連絡が入る。実に不誠実な国民である。
ゴミの捨て方を守らない。夜遅くに質問に来た。
自転車を盗まれた。

通勤途中、外国人の方たちの中古車販売店が沢山あります。商売は自由だと思いますが、ゴミが散乱し放題です。ゴミ等への意識の違いは、どうすればお互い快適に生活できるのでしょうか？ 車の運転も乱暴です。絶対道を譲ることはありません。先に細い道に入っていても、前からすごいスピードで進んでくるので、端にくっついて避けるのに大変です。
以前暮らしていた家の近所の外国人は、自治会のルールも守らず、周りの住民に迷惑をかけていたので、外国人の印象を悪くしていると思いました。
道や物の場所など聞いていたり、困っていたりするのを見過ごしてしまうので、積極的に助け合いしたい。また、学校では、全部ではないと思いますが、差別やいじめがあるようなので、そういうのもなくしてあげたらもっと外国人も安心して暮らせると思う。
外国人が運転している、ナンバーのついていない自動車が公道を走っているのが心配。
言葉も問題、特に宗教に関することでの問題あり。
射水地区は外国人＝中古車販売業者のイメージが大。非常に迷惑である。
奥さんが日本の方でしたので、入院された時の御見舞返しをきっちりされた。ご主人は奥さんに従順に見えた。
職場で出会う外国人の方はきちんとしておられるので、何でも協力したい気持ちになります。また、保育園や小学校に通う子供達には、教育に関する手助けができればしたいと思います。しかし反面、自転車を家の前からでも持っていったり、ゴミを適当に捨てたりする人達には困っています。
外国の方とおつきあいする機会が全くないので、良かったことも困ったことも特にないです。ただ、テレビや新聞の報道を信用することを前提とすると、イスラム教徒に対して良いイメージを持つことは困難なのかなと感じます。
近くの外国人の方は住んでいるわけではないので、どの程度の挨拶を交わせば良いのか迷ってしまいます。たまに子供さんがいるのですが、子供達同士は上手にコミュニケートしている様子で楽しそうでした。
子供の保育園の同級生に 3 人外国人がいるが、うちの子ととても仲良くしてくれるので、親としても嬉しい。時々、送迎時に（子供の親と）簡単な挨拶をする程度。私としては、も

う少し話をしてみたい気持ちはあるが、ほとんど話す機会はない。外国人の子供には話しかけるようにはしている。
生活習慣の違いで、ゴミをいたるところに捨てる外国人がいる。注意をするも、「日本語わかりません」「私が捨てたのではない」と言う者が多く、困っております。車の車検切れの物を運転する者が多く、こちらが悪くなくても補償が受けられない事もあると聞いた事がある。
外国人の住んでおられるところのゴミなどをちらかし、燃やすにしても、すべて一緒に燃やしている。片付けると言っていても約束を守らない。困っている。
ゴミ放置、ルール守らない、騒音。
私の地区には以前、中古車販売をする外人が沢山いました。（今はぐっと減りましたが）実際、私の家の前にも中古車販売の店を構えていました。そこは小さなプレハブだったので、水も出ないような作りだったからか、私の家の外の水道水を勝手に使っていました。また、そこへ出入りする外人の客も多数いて、私達の敷地内においてあった自転車やホースなど、沢山の物を盗られ、外国人と聞くとあまり良い感情を持っていません。ただ私の職場（保育園）に外国人の子供が何人か入園しているが、その人達はとても好意的であり、よい関係にあります。
農道に中古車を何台も置いて通行ができない。自転車で上半身裸でウロウロしている。信号無視で 8 号線でも横断する。（歩行、自転車）
日本の中では日本語を使ってほしい。また、生活のルールを覚え、守ってほしい。日常的に使うパキスタン語（？）、ロシア語を小冊子として、各家庭に置けないものですかね。
私の身近に外国の方が全くいないため、皆様の期待に添えなくて申し訳ございません。でも、イスラム教徒＝過激派は一部の人達だと思います。テレビや新聞で私達はイメージを作っているのだと思います。もし身近に外国の方が来られたら、心からおつきあいすれば悪い人はいないと思います。
車の運転が危ない。（交通ルールを守らない）
生ゴミの収集の中に缶詰やガラス等の不燃物を入れていて、交渉に行った。（集落の役員の時）夜間や昼間、部落内や家屋敷内をフラフラ歩いているのが気持ち悪いです。
情報が得られる。世界の流れがわかる。（有識者なら）
子どもの同級生に外国人がいるおかげで、子ども達は外国人を見ても偏見の目で見る事はなく、1 人の人として普通に接する事ができる。身近にいなかったらきっとそんな風には育たなかったと思うので、このままいろいろな世界の人とお友達になっていって欲し

いです。
近所の工場には外国人（中国・ブラジル人）が働き、空き地ではパキスタン人が中古車ディーラーをしていて、新湊港からはロシア人が入国して自転車で移動している。外国人と会わない日はない。特につきあいは無いが、①外国人の運転マナーの悪さ、②スーパーで黒い布を被った女の子を見ると怖い、③閉鎖されたコンビニの空き店舗を活用したモスクが不気味、以上が少し困った事です。良かったことは特になしだと思います。
病院などでパキスタン人の家族と会うと、パキスタン人の方はわがままで、病院で子供が騒いでいても母親は携帯に夢中で、ほったらかしにしている事が多い。注意すると、日本語がわからない、と無視している。パキスタン人はあまり好きではない。
近くの公園の水飲み場にタンクを持ってやって来て、水を汲んで帰っていった外国の方を 2 人見た、という話を聞きました。公共の場であり、維持費も支払っていないのに、とあまり良い気分ではありませんでした。
外国人と出会う機会がほとんどありません。今後、外国人の方に出会う事があれば、ゆっくりと交流できたらと思います。
イスラム教の方とは一度も話した事はありません。結婚されて日本国籍を持たれている方（違うかも知れない？）とは、日本語も上手に話されますので、日本人同様に接していますし、困った事はありません。
射水市はロシア船も来て、ロシア人とイスラム教徒の方との区別がついていない部分があります。一言で外国人と言われると、庭先から古タイヤを持っていくロシア人を思い浮かべますが、イスラム教徒の方のイメージは、家族仲良く品があるというイメージです。質問に対して失礼があると思いますが、お許しください。
外国人の方が近所に住まわれた時（1 件の家に何人も住まわれたようです）、大家さんや自治会から説明が不十分で、ゴミ出しなどが守られず大変困りました。直接手持ちのプリントをコピーして説明すると、理解していただけました。

外国の方との付き合いは私自身ありませんが、友人等の話を聞いて、嫌だなあと思った事があります。ゴミ出し、車の駐車等の生活のルールを守らない。夜遅くまで騒いでいて迷惑。香辛料の臭いが強くて、隣に住んでいると、料理の時等、臭いの強さで吐き気がする。注意したら、自分の立場が不利になると、言葉がわからない、意味がわからないと言う。不潔である。ゴミ等を家の周りに捨てたりする。私の個人的な思いですが、コンビニ等でパキスタンの方の顔を見ると、目つきがものすごく鋭くて、恐いと感じます。日本人は平和で豊かな生活をしているので、顔つきがおっとりしているように思います。外国人とのつきあい方を、外国人を理解して何か対策を考えていかなければいけないのでは？と思います。
私の居住地域は、日常生活において外国の方と接する機会がほとんどないところです。しかし、近くに中古車販売店が乱立しているため、農作業に支障をきたす事がよくあります。その都度町内会長に相談し、解決してきました。そのような経緯があるため、外国人にはあまりいい印象は持っていません。町内会長を中心に外国人業者も交えたパトロール隊を結成し、環境改善に取り組んでおられますが、意識の違いを埋めていくのは大変だと痛感しています。
家の近くにパキスタンの方が住んでいらっしゃいました。最近は見かけませんが、以前は「子供をだっこさせて」とかジェスチャーで会話していました。何語が通じるのかわからず困りました。上の子たちにもコンビニで買ったお菓子をくださったりしましたが、言葉が通じなかったり、国の習慣などがわからなくて困りました。
自治会で役員をしている縁で、中国から嫁いで来られた方と知り合いになりました。その女性は子供さんも出来られ、言葉のうえでもとても日本語が上手で、一生懸命活動なさっていらっしゃいます。偉いなと感心しております。
私たちが住んでいる地域は港や国道などが近いため、外国人の経営する中古車屋が数多くあります。以前、コーランを燃やすなどニュースにもなった場所です。イスラム教徒に限らず、中国人やロシア人なども多く、学生の頃から自転車の盗難や車上荒らしの被害が多く、大変迷惑しています。そういった事をしない人達がいることもわかっていますが、外国人の大半が悪いイメージが大きいため、あまり好きではありません。
近所に引っ越して来たというので、一度家に上がってもらいお茶しました。愛想がよく、小さいお子様もいるとのことで、近所として気持ちよく仲良くしてあげなければと思いました。しかし日が増すにつれ、ゴミ出しの日が、また話はその時その時調子が良いのです。生ゴミなんか適当に出して、戸を閉めないです。カラスがいたずらし、そこら中生ゴミだらけ、もう一人の近所の人と私、一度や二度じゃないんです。市役所の人にも何回も見てもらいました。生ゴミの中にビンや、あらゆる物を詰めて出してあります。2、3 日前のゴミ出しの日もゴム手袋をして処理しました。外国人の人に言いたいのは山々ですが、何か仕返しをされるのでは、と恐くてできません。どう見ても人の出入りが多く、高級車がいつもあり、また出入りしています。今までのんびりした田舎だったのに、またその

家はゴミが散乱し、どんな生活をしているのか。お金がないと言って「働かせてくれ」と言って頼まれたこともあります。
中国の方なのですが、ギョーザなど持って来てくれます。
最近は少なくなりましたが、中古車の売買をしておられる会社がたくさんあって、路上に大きな（車を載せて運搬する）車が何台も停まっていて、時々火災を起こされることもあったりする。直接私が困ったわけではありませんが、驚きます。イスラム教徒についてはまったく無知です。時々ニュースで事件を知ることがある程度です。

（２）本調査に関するご意見やご要望などございましたら、どのようなことでも結構ですので、お伝えください。

【回答】

政策提言に役立てるとあるが、具体的に何をどうするのか分かりません。
地区の事をよく調査され、感心しています。
ボールペンありがとうございました。 回答が研究に役に立てればと思います！
先日はアンケート調査においてワセダロゴマーク入りペンを頂き、誠にありがとうございました。大切に使用致したいと思います。 アンケートにより外国人に関する知識、理解も増え、文化交流する機会もある様に思います。出来ましたらアンケートの結果をお知らせ頂ければ幸いに思います。感謝！
外国人といっても、いろいろな国の方についてなのかどうか質問に対しての返答にこまりました。
調査の主旨が分からない。何に使うのか？
なかなか出あう事のない、機会のないアンケート内容だったので、答えるのが難しかった。

今後も本調査を実施されるのでしょうか？
突然の調査でおどろいたのと、疑いました…（笑）！まとまりなく、すいません。研究がんばってください！
お役に立てればうれしいです。
イスラム教とかはまったく関係のない事と思います。質問の意味がまったく分かりませんでした。外国人がどうとかはあまり関係のない事と思います。偏見を持たないようにしたらどうですか。
別にありません。
イスラム教など宗教に関する設問が多い。私は三宗教で先祖の浄土真宗を維持しています。宗教に関心無し。
封筒の長さが足りない。（A4 版の調査票の返送用として、角 3 封筒を使用しました。）
この地区の外国人は商売人であるため、それのみだけで、それ以外はまったく守らない。だからこの調査をしても何のためかわからない。無意味だ。
本調査の目的が何なのか理解できませんが、閉鎖的な国の意識改革になればよいと思います。
世の中何を信じていいのか解らない今、突然の調査に困っています！
外国人に対する偏見があると勘違いされたくないので、この調査結果を外国人に公表しないで欲しい。
難しかった！いきなりアンケートはあやしいと思いました。
イスラム教に関して関心がないので答えようがない。
イスラム教の事もまったく関心がないし、知らない。知ろうともしない。
このアンケートの目的がよくわかりません。また、なぜ私が選ばれたのか疑問です。
この地区の外国人はまったく居住していません。ビジネスのための事務所があるのみです。その意味で、回答にしっくりしないところがありました。
大学からの直送でビックリした。（一瞬あやしいと思った）市や自治会が了解しているのであれば、送付元は市や自治会の方が安心です。（送り先が大学でも良いが）

子供が小学生で、学校行事や児童館などで外国人の方を見かける事はありますが、交流はありません。今回のアンケートで、自分の身の回りには関係の無い事と思っていましたが、身近な問題となってきている様に思いました。文化の違いや考え方の違い、言葉の違いなど、まだまだ私達には色々な問題があると思います。勉強がんばってください。
良い事もいっぱいあると思うので、外国人の方が住み良い日本になるよう、意識調査を有効に活用してもらいたい。
この調査の対象の外国人とはイスラム教徒の方々をさしているのでしょうか。それとも単に外国人（日本人以外）を対象としたアンケートなのでしょうか。それによって Q3〜Q12 の答え方が私の思いでは違ってきます。津幡江にて結婚を機に住民となられた方が何人かおられます。その方々とはとても良いおつきあいをさせていただいております。
できればもっと早く調査をしてほしかったです。今後も調査を続けてください。
実は、依頼文中の「射水市役所のご協力…」の文言が気になり、不審に思い、消費生活相談への確認の電話をさせていただきました。もちろん自治会、町内会からもこのお話を伺った事が無かったからです。「実在する」ということで記入致しました。 ”島国”日本は各国との交流なしでは生き残れない国です。また、各国の習慣などの知識もありません。少しでも互いが住みよく、発展した関係が築けるよう、願っております。
「外国人」とは幅広いが、途中からはイスラム系の人を想定している（？）すべての質問がそういう人々を思い描いて記入しました。この辺りはロシア系、イスラム系の事業者が多いので、どうしても先入観つきの回答になります。
このアンケートは、都会に住む人が身の回りにおこることを考えて作成したのではないでしょうか。例えば、この地域はほとんど車で移動するので、近所の人と顔を合わせるということさえほとんどない。自治会の活動内容は農家色が強いし、田植え、草とり、稲刈りを助け合ってやるという意味では、結束は非常に強い。
外国人の方がその地域で暮らす時に、例えば住民票などの手続きで役所を訪れた時などに、その地域で守らなければならないルールや暮らし方などについて講習をする時間を作るようにすれば、トラブルが少しでも減るのではないかと思います。これからアジア系の人々がもっと増えてくると思いますが、行政が積極的に暮らす方法を指導する機会を作っていかないと、外国人の犯罪が増えていくと思います。
なぜ今イスラム教、イスラム教徒にかかるアンケートなのか？
この調査がどのへんに役立っていくかはわかりませんが、少しでもこの地域がよくなるように何かしていただけるならありがたいです。

急に届いたのでびっくりしましたが、色々答えれてよかったです。
住みやすい日本になるように役立ててくださいね！がんばって下さい。
外国の方とのまじわりもあると思うので、時々このような調査も必要だと思います。
アンケートの結果とかを知らせてもらえるのでしょうか？射水市に外国人が多いために、このようなアンケートが実施されたのでしょうか？このアンケートを通してイスラム教やモスクに対しての興味がでてきました。
イスラム教についてはまったくわかりません、あしからず。
外国人と共存共栄する方法を求めておられる事と思いますが、今日まで生まれ育った慣習や文化から総合的にみても、年齢のせいか、なかなか「はい、わかりました」とか「そうですね」とは言えないのが現状です。
面白い調査だと思います。研究頑張ってください。
射水市はロシア船も来て、ロシア人とイスラム教徒の方との区別がついていない部分があります。一言で外国人と言われると、庭先から古タイヤを持っていくロシア人を思い浮かべますが、イスラム教徒の方のイメージは、家族仲良く品があるというイメージです。質問に対して失礼があると思いますが、お許しください（再掲）。
突然封書が来たので驚きました。市からは何の説明も無かったように思います。（私が知らなかっただけかもしれませんが） アンケートは主旨も理解でき良い事だとは思いますが、個人情報保護の厳しい現在、住所録を使われたのは多少疑問に思いました。アンケートが参考になれば幸いです。ボールペン大切に使わせていただきます。
アンケートだけではなかなか本当の事は掴めないのではないかと思います。（多分、ご承知されていることと思います）
平成の市町村大合併を経ての現在の射水市なので、今回の調査地域全体を知りえません。特に津幡江地区に関しては他人事でした。ただこのようなアンケート依頼があったことにより、自分自身の意識を見つめるきっかけになったと思います。ありがとうございました。
突然の調査でびっくりしております。この地区は田舎ですが、港が近いせいか、外国人の方達が多く通られる姿を見かけます。直接会話する事がありませんが、すこし複雑な気持ちで一杯です。よくないうわさを聞いたりすると不安です。正しく回答できたかわかりません。

ボールペンありがとうございました。大切に使わせていただきます。また、このような機会をくれてありがとうございました。
私の思ったことを書きました。私は、全部の人が幸福になればと思い生きています。そのためには宗教も必要でしょう。愛もお金も必要なんです。近所の人は言っていました。祖国は戦争だからいやだって。奥さんの祖国のブラジルへ将来行きたい、日本でお金を貯めたい。この調査をされてわかると思いますが、日本人であれ外国人でも、愛を持って生きていれば成功すると思います。生意気なことを書きましたがお許し下さい。最後に私、孫の保育園へ行きますが、そこで外国人の子供と一緒に運動会をしたり遊んだりしています。子供の世界は平和です。

外国人に関する意識調査

2011 年 10 月

ご記入に際してのお願い

1. 必ずご本人がお答え下さい。お名前を書いていただく必要はございません。
2. 回答は、原則として最もよくあてはまるものを 1 つ選びその番号を○で囲んで下さい。
3. お答え頂いた内容は統計的に処理し、その情報が漏れることは絶対にございません。
4. ご記入いただいたアンケート用紙は、同封の返信用封筒（切手貼付済み）にて 10 月 31 日（月）までにご投函くださいますようお願いいたします。

調査実施主体：早稲田大学人間科学学術院アジア社会論研究室

調査責任者：早稲田大学教授　　店田　廣文(ﾀﾅﾀﾞ　ﾋﾛﾌﾐ)

研究室ホームページ：http://www.f.waseda.jp/htanada/

滞日ムスリム調査プロジェクト HP：http://www.imemgs.com/

（早稲田大学多民族多世代社会研究所内）

〒359-1192　埼玉県所沢市三ヶ島 2-579-15　早稲田大学

大学代表電話番号：04(2949)8111(内線 76-3536)

問い合わせ専用直通電話番号：＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

または＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

あなたご自身のことについておうかがいします。

Q1. あなたがお住まいの地区はどちらですか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 津幡江 12.9
2. 大江　11.8
3. 鷲塚　18.8
4. 小杉白石 12.1
5. 西高木　8.5
6. 稲積　8.2
7. 白石　23.5
8. 摺出寺　3.2
9. 八講

SQ1. あなたの性別を教えて下さい。

1. 男性 43.2
2. 女性 56.5

SQ2. あなたの年齢を教えて下さい。

満（51.3）歳

SQ3. あなたが生まれた場所はどちらですか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 現住所 34.1
2. 射水市内の他の地 21.8
3. 富山県内の他の市町村 36.5
4. 富山県外の北陸地方 0.3
5. 北海道・東北 2.1
6. 関東・甲信 2.4
7. 東海 0.6
8. 近畿
9. 中国・四国
10. 九州・沖縄 0.6
11. 外国

Q2. あなたご自身は、この地区に何年間ぐらいお住まいですか。

（33.3）年間

外国人居住者との交流について、お聞きします。

Q3. あなたのご近所に外国人は住んでいますか。

1. はい 46.5
2. いいえ 52.1⇒Q5 へ

Q4. あなたご自身は、ご近所の外国人とどのような交流をしていますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 外国人住民とのつきあいはない 50.3
2. 道で会えばあいさつをかわす程度 41.1
3. 会った際には世間話をする 4.3
4. 互いの家をよく行き来する 1.2

Q5. あなたがお住まいの地区にも外国人が住んでいますが、その人たちは地区の活動や行事に参加していますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 多くの外国人が参加している 0.9
2. ある程度の外国人が参加している 5.9
3. 外国人はあまり参加していない 10.6
4. 外国人はほとんど参加していない 45.0
5. わからない 33.5

Q6. あなたは、それらの活動や行事に外国人も参加した方がよいと思いますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 外国人も積極的に参加した方がよい 17.6
2. 外国人もある程度参加した方がよい 57.1
3. 外国人はあまり参加しない方がよい 11.8
4. 外国人は参加しない方がよい 10.0

Q7. あなたは、外国人が居住することで、お住まいの地区がどのように変化すると思いますか。以下のような考えについて、それぞれ、「とてもそう思う」、「ある程度そう思う」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の4つからあてはまる番号を 1 つ選んでください。

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
A. 外国人との交流が進む	4.4	45.6	39.4	8.8
B. 外国の文化に触れられる	7.9	38.2	40.0	12.1
C. にぎやかになる	4.1	24.1	52.1	17.6
D. イメージがよくなる	1.8	15.6	57.6	22.1
E. 治安が悪くなる	14.7	41.2	32.9	8.8
F. ゴミ捨てなど生活ルールが乱れる	21.8	41.8	28.5	5.9
G. 生活環境が悪くなる	11.2	33.5	44.4	8.5
H. 日本人の仕事が減る	4.7	15.3	57.1	21.2

Q8. あなたは次のような考え方について、どのようにお考えですか。それぞれについてあてはまる番号を 1 つ選んでください。

A. 外国人でも、日本に住んでいるのだから日本語を使った方がよい

1. 非常に賛成 30.0　2. やや賛成 60.3　3. やや反対 7.9　4. 非常に反対 0.9

B. 外国人でも同じ地区に住む住民なのだから、自治会に加入した方がよい

1. 非常に賛成 21.8　2. やや賛成 57.1　3. やや反対 15.9　4. 非常に反対 4.1

C. 外国人の子どもでも、日本の学校に通った方がよい

1. 非常に賛成 29.7　2. やや賛成 59.4　3. やや反対 6.8　4. 非常に反対 2.1

Q9. 外国人居住者との関係で問題がおこった場合、あなたはどのようにするおつもりですか。あてはまる番号をいくつでも選んでください。

1. 市役所に連絡する　50.6
2. 自治会に連絡する　62.9
3. 外国人の住んでいるアパートやマンションの管理人に連絡する 14.4
4. 自分で直接外国人と話をする　21.8
5. 警察に連絡する　59.1
6. 外国人の勤める会社に連絡する 8.2
7. 何もしない　2.1
8. その他（具体的に：）　2.6

Q10. 日本に外国人が入ってくることについてどう思いますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 非常に賛成　6.8
2. やや賛成　22.9
3. どちらとも言えない　55.3
4. やや反対　11.2
5. 非常に反対　2.9

Q11. 以下のような外国人に対する施策への意見について、どのようにお考えですか。それぞれについて、「非常に賛成」、「やや賛成」、「やや反対」、「非常に反対」の4つからあてはまる番号を 1 つ選んでください。

	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対
A. 子どもへの学校教育の充実をはかる	32.4	57.1	5.6	2.1
B. 日本の文化や日本語を学ぶ機会を充実させる	36.8	55.9	4.1	1.8
C. 母国語（外国語）教育の充実をはかる	12.4	59.1	21.8	3.2
D. 労働環境の改善をはかる	18.8	68.8	8.5	2.1
E. 福祉・医療サービスの充実をはかる	18.5	63.8	12.4	3.2
F. 参政権を与える	7.9	33.2	32.6	23.5

Q12. 以下のような日本人住民に対する施策への意見について、どのようにお考えですか。それぞれについて、「非常に賛成」、「やや賛成」、「やや反対」、「非常に反対」の4つからあてはまる番号を 1 つ選んでください。

	非常に賛成	やや賛成	やや反対	非常に反対
A. 外国人との交流の機会をさらに豊富にする	12.6	65.9	15.0	3.5
B. 住民に対する国際理解教育の充実をはかる	16.8	68.5	8.8	2.9
C. 外国人についての情報・実態を市民に明らかにする	37.9	51.8	6.8	0.9
D. トラブルがあった時には、市役所が積極的に関わる	59.1	34.1	3.8	0.6

Q13. あなたはどういった場所で外国人と交流していますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

1. 職場　15.6
2. 趣味・スポーツ　6.5
3. 文化・学習活動　3.2
4. 国際交流のイベントや活動 4.4
5. 宗教活動　0.6
6. PTA 活動　2.4
7. 大学のイベントや活動　0.9
8. 地域の祭りや清掃活動　6.8
9. 自治体主催の活動　8.8
10. その他（具体的に：）　5.9
11. 交流していない　62.4

Q14. あなたご自身は、今後どのように外国人と交流していきたいと思っていますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 積極的に交流していきたい　5.3
2. ある程度交流していきたい　53.5
3. あまり交流したくない　31.2
4. 交流しない　9.4

Q15. 外国人と交流する上で、何か感じることはありますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

1. 言葉の問題　70.0
2. 生活習慣の違い　63.5
3. 外国人に関する知識が少ない　40.0
4. 交流をする時間的余裕が少ない　17.6
5. 外国人と出会う機会が少ない　40.3
6. 外国人に対して関心がない　14.1
7. 外国人に関する知識が増えた　5.6
8. 外国への興味が湧いた　8.2
9. 外国人の友人が増えた　2.9
10. その他（具体的に：）　1.2
11. あてはまるものはない　4.7

Q16. あなたご自身は、外国人とうまく付き合えると思いますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. とてもそう思う　2.1
2. ある程度そう思う　38.8
3. あまりそう思わない　47.6
4. まったくそう思わない　10.6

あなたの地区での生活の様子について、お聞きします。

Q17. あなたがお住まいの地区について感じておられることをお尋ねします。それぞれについて、「とてもそう思う」、「ある程度そう思う」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の4つからあてはまる番号を 1 つ選んでください。

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない
A. 住民間のまとまりが強い	15.6	55.0	24.4	4.1
B. 新しく来た人でもなじみやすい	3.8	40.9	45.0	8.5
C. 昔からのしきたりを大切にする	30.3	50.3	13.5	3.8
D. 住民同士の交流が少ない	7.1	28.2	54.4	9.7
E. 昔から住んでいる人の意見が強い	34.1	46.5	15.3	2.9
F. 新しいものを積極的に取り入れる	2.1	25.0	57.1	14.7

Q18. あなたは、お住まいの地区での活動や行事に参加なさっていますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 積極的に参加している　14.7
2. ある程度参加している　55.6
3. あまり参加していない　18.5
4. まったく参加していない　10.6

Q19. あなたは、普段ご近所の人たちと、どのくらい交流を行っていますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. ほとんど付き合いはない　3.5
2. 道で会えば挨拶を交わす程度　42.6
3. 会った際には世間話をする　44.1
4. 互いの家をよく行き来する　7.9

Q20. あなたは、今後ともお住まいの地区に住みたいと思いますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 今の場所にずっと住むつもり　70.9
2. 別の場所に移りたい　10.0
3. 別の場所に移る予定がある　1.5
4. わからない　16.2

1999 年に津幡江地区にモスク(イスラム寺院)が完成しました。以下ではイスラム教に対する意見や、ムスリム(イスラム教徒)との関わりについてお聞きします。

Q21. あなたは津幡江地区にモスクがあることを知っていましたか。

1. 知っていた　54.1
2. 知らなかった（今はじめて知った）⇒Q23 へ　44.1

Q22. 実際に津幡江地区のモスクを訪れたことがありますか。

1. はい　⇒SQ1 へ　2.1
2. いいえ　⇒Q23 へ　94.2

SQ1. 津幡江地区のモスクを何回くらい訪れたことがありますか。

（3.3）回

Q23. イスラム教、ムスリム(イスラム教徒)と聞いて、あなたはどのようなことを思い浮かべますか。簡潔な言葉で結構ですので、カッコ内にそれぞれ 3 つまでご記入ください。

A. イスラム教と聞いて思い浮かべること

（　　）（　　）（　　）

B. ムスリム(イスラム教徒)と聞いて思い浮かべること

（　　）（　　）（　　）

Q24. ムスリム（イスラム教徒）の知り合いはいますか。

1. はい　⇒SQ1へ　2.4
2. いいえ　⇒Q25へ　95.9

SQ1. 何人のムスリム（イスラム教徒）の知り合いがいますか

（6.1）人

Q25. イスラム教のことについて関心がありますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. とても関心がある　0.9
2. ある程度関心がある　5.6
3. あまり関心がない　32.4
4. まったく関心がない　60.0

Q26. 日本にムスリム（イスラム教徒）が入ってくることについてどう思いますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

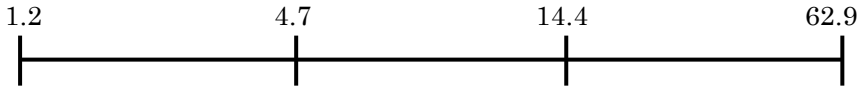
1. 非常に賛成　0.6
2. やや賛成　1.8
3. どちらとも言えない　54.7
4. やや反対　22.9
5. 非常に反対　18.5

Q27. イスラム教に関して、あなたは何から情報を得ていますか。あてはまるものをいくつでも選んでください。

1. テレビ　75.3
2. 新聞　45.9
3. 本や雑誌　19.7
4. インターネット 8.2
5. 講義・講座・講演　2.1
6. うわさ話・世間話　25.3
7. その他（具体的に：）1.8

Q28. あなたは、イスラム教に関する情報にどのくらい接する機会がありますか。あてはまる番号を一つ選び○をつけてください。

1. 毎日　2. 週 2～3 回程度　3. 月 1 回程度　4. 年に数回程度



Q29. あなたがイスラム教にかかわる情報で、最もよく耳にする内容はどれですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 政治　6.8
2. 経済　2.6
3. 社会　2.9
4. 紛争や事件　65.3
5. 歴史や文化　11.5
6. お住まいの地域のこと 2.4
7. その他（具体的に：）1.2

Q30. あなた自身は、ムスリム（イスラム教徒）とうまく付き合えると思いますか。

1. とてもそう思う　0.9
2. ある程度そう思う　10.6
3. あまりそう思わない　49.4
4. まったくそう思わない　35.3

Q31. イスラム教と聞いて、どういったイメージを思い浮かべますか。それぞれについて、「とてもそう思う」、「ある程度そう思う」、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」の4つからあてはまる番号を 1 つ選んでください。

	とても そう思う	ある程度 そう思う	あまりそう 思わない	まったくそう 思わない
A. イスラム教は先進的な教えである	0.9	4.1	61.8	21.8
B. イスラム教は寛容な宗教である	2.4	8.8	51.2	25.3
C. イスラム教は平和を重んずる宗教である	2.1	12.9	50.9	22.4
D. イスラム教は家族を大切にする宗教である	7.9	37.6	28.5	13.5
E. イスラム社会は世界社会の重要な一員である	3.8	28.5	41.5	13.8
F. イスラム教徒は商売が上手である	7.1	26.8	42.4	11.5
G. イスラム教は民主的な宗教である	0.6	8.8	55.0	23.5
H. イスラム教は自由な宗教である	0.9	5.9	50.3	30.9
I. イスラム教徒は社交的である	0.6	10.3	56.5	20.6

あなたとご家族のことについてお聞きします。

Q32. あなたは現在どなたと暮らしていますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 一人　4.1
2. 夫婦のみ　21.8
3. 夫婦と未婚の子どもの二世代（父子・母子世帯を含む）　27.4
4. 夫婦（片親を含む）と既婚の子どもの二世代　7.1
5. 三世代同居　25.6
6. その他（具体的に：　）　11.8

Q33. あなたが最後に卒業（または中退）なさった（または現在通っている）学校は、次のどれですか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1. 小学校・中学校　7.9
2. 高校　44.4
3. 専修学校（専門学校）専門課程　13.5
4. 短大・高専　12.1
5. 大学（大学院含む）　18.8
6. その他（具体的に：　）　0.9

Q34. あなたのお仕事を教えてください。下記の表から「あなた」と「配偶者」の職業を、それぞれ 1 つずつ選んでカッコの中に記入してください。

1.	正規の被雇用者(専門職・技術職)	16.2	17.2	5.	パート・アルバイト	16.5	13.4
2.	正規の被雇用者(事務職・営業職・サービス職)	21.5	15.9	6.	専業主婦	13.5	7.3
				7.	無職	7.9	10.2
3.	正規の被雇用者(工場労働・現場労働)	8.2	5.1	8.	学生	1.5	
				9.	その他（具体的に：）	2.9	3.5
4.	自営業者・家族従業者	8.5	6.7				

A. **あなた**(　　)　B. **配偶者**(　　)

Q35. あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。あてはまる番号を 1 つ選んでください。

1.	持ち家(一戸建て)	95.6
2.	持ち家(集合住宅・マンション)	0.3
3.	民間の賃貸住宅(一戸建て)	0.3
4.	民間の賃貸住宅(集合住宅・マンション)	2.1
5.	公団・公社・公営の賃貸住宅	
6.	社宅・公務員宿舎などの給与住宅	
7.	その他(具体的に：　　)	0.3

Q36. もしご迷惑でなければ、あなたの個人の年間収入（年金等を含む）を教えて下さい。また、あなたの世帯全体の年間収入はおよそどのくらいになりますか。家賃収入、地代収入等も含めて教えて下さい。下の表から「あなた個人」と「世帯全体」の年収を、それぞれ 1 つずつ選んでカッコの中に記入してください。

1.	200 万円未満	35.0	2.7	5.	800～1000 万円未満	2.1	9.8
2.	200～400 万円未満	27.9	19.2	6.	1000～1500 万円未満	0.6	7.1
3.	400～600 万円未満	11.2	18.0	7.	1500～2000 万円未満		2.4
4.	600～800 万円未満	5.0	12.1	8.	2000 万円以上		0.3

A. **あなた個人**(　　)　B. **世帯全体**(　　)

（次のページに、続きます。）

最後になりますが、以下の質問にもお答えいただければ幸いです。

身近な外国の方とのおつきあいの中で良かったこと、あるいは困ったことなどありましたら、　どのようなことでも結構ですので、お教えください。

また、本調査に関するご意見やご要望などございましたら、どのようなことでも結構ですので、お伝えください。

質問はこれで終わりです。長時間にわたりご協力いただき、誠にありがとうございました。

編者・執筆者一覧

（2012 年 3 月現在）

編者

店田　廣文	早稲田大学人間科学学術院教授	
石川　基樹	早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員	
岡井　宏文	早稲田大学多民族多世代社会研究所招聘研究員 早稲田大学人間科学部非常勤講師	

執筆者

店田　廣文	早稲田大学人間科学学術院教授	序　調査結果の概要　第 1 章
石川　基樹	早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員	第 4 章
岡井　宏文	早稲田大学多民族多世代社会研究所招聘研究員	第 6 章
李　泰俊	早稲田大学人間科学研究科博士課程	第 3 章
山縣　敦	早稲田大学人間科学研究科修士課程	第 5 章
川口　卓也	早稲田大学人間科学部	第 2 章

付記：

本報告書は、平成 21~23 年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤 C）・課題番号 21530567「滞日ムスリムの生活世界における多文化政策の影響と評価」および平成 24~26 度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤 C）・課題番号 24530669「滞日ムスリムに関する住民意識の 3 地域比較調査研究と多文化政策再考」による研究成果の一部である。